

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010010

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事 業 優 先 度	A	令和5年度～令和9年度 用途区分、地番データの更新
単位施策	1 土地基盤の充実	政 策 事 務 分 類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	農業振興地域整備計画管理事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	13 農業委員会	
事業指標	整備計画の管理		#N/A	
事業目標	データ更新	ハ ー ド / ソ フ ト 事 業 区 分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関 係 例 規 ・ 法 令 名	有 農業振興地域の整備に関する法律	
町民協働		関 係 個 別 計 画 名	有 雄武町農業振興地域整備計画	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 3 0 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	雄武町農業振興地域整備計画を適切に管理するため、計画で定める用途区分をオルソ画像に反映させる。 また、計画や地番データの変更があった場合には、その更新を行う。	整備計画の管理 用途区分、地番データの更新 委託料 350千円	整備計画の管理 用途区分、地番データの更新 委託料 357千円	整備計画の管理 用途区分、地番データの更新 オルソ画像更新 委託料 693千円	整備計画の管理 用途区分、地番データの更新 委託料 435千円	整備計画全体見直し 委託料 1,500千円
	事業費(千円)	3,335	350	357	693	435
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	3,335	350	357	693	435	1,500
実 績 事 業 費	事業費(千円)	750	350	400	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	750	350	400			
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 整備計画の管理 計画で定める用途区分のオルソ 画像への反映	(実施内容等) 整備計画の管理 計画で定める用途区分のオルソ 画像への反映	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 データ更新(H29年度実績分)	データ更新(H30年度実績分)	データ更新(R元年度実績分)	データ更新(R2年度実績分)	データ更新(R3年度実績分)
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 100%	112%	0%	0%	0%
		全体達成率 10%	22%	22%	22%	22%
	備考欄					

事業名	農業振興地域整備計画管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	農地所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	農業振興地域整備計画のデータ管理		
抱える課題やニーズ	保全すべき優良な農用地の確保と農業施策の計画的実施		① 計画変更のオルソ画像への反映(平成30年度実績)	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	データシステム活用による農業振興地域整備計画の適正な管理			目標値	4筆
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	優良農地の確保と基盤整備		②	実績値	4筆
内容(どのような手段で何を行ったか)	農業振興地域整備計画の管理	平成30年度(前年度)の農業振興地域整備計画の変更内容を業務委託によりデータシステム(オルソ画像)へ反映した。			
			達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	農業振興地域整備計画を補完するために整備したデータシステム(オルソ画像への筆別用途区分管理)を更新するため、計画の変更内容を適正に管理する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	平成30年度(前年度)に変更した計画内容をデータシステムに反映し、農用地を適正に管理できている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		データシステムにより管理することで、本町全域の計画農用地の情報を容易に引出し、または提供することができる。また、システム更新を業務委託することで、膨大な地番データや複雑な農用地の変更内容を短期間に更新した。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		計画の正確なデータ管理は、農地を効率的、効果的に利活用させ、優良農地の確保や新たな基盤整備へとつながることから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり平成30年度の変更内容を全てデータシステムに反映させることができた。		

今後の展開方向 (Action) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div>		
継続/現状維持		
正確な農用地の情報は、農地の有効利用、適正管理につながるため、継続して取り組む必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010030

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	令和5年度～令和9年度 農業経営基盤強化資金 大家畜資金(畜産特例)
単位施策	2 担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	利子補給補助事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 度	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	利子補給の実施		#N/A	
事業目標	補助対象者全件	ハード／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 農業経営改善関係資金基本要綱、雄武町冷害・干ばつ災害緊急対策特別資金利子助成金交付要綱	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	農業者が自らの創意工夫により経営改善を進めようとする計画(農業経営改善計画)の認定を行うとともに、計画達成のために借入れる資金に係る利子補給補助を実施することにより、酪農経営の安定化を図る。	農業経営基盤強化資金 補給額 1,031千円 道費 515千円 町費 516千円 大家畜資金(経営活性化)(畜産特例) 補給額 2千円 64千円 道費 1千円 42千円 町費 1千円 22千円 冷害・干ばつ資金 町費 6千円 認定農業者 60名	農業経営基盤強化資金 補給額 792千円 道費 396千円 町費 396千円 大家畜資金(経営活性化)(畜産特例) 補給額 1千円 64千円 道費 0千円 42千円 町費 1千円 22千円 認定農業者 60名	農業経営基盤強化資金 補給額 657千円 道費 328千円 町費 329千円 大家畜資金(畜産特例) 補給額 64千円 道費 42千円 町費 22千円 認定農業者 60名	農業経営基盤強化資金 補給額 522千円 道費 261千円 町費 261千円 大家畜資金(畜産特例) 補給額 63千円 道費 42千円 町費 21千円 認定農業者 60名	農業経営基盤強化資金 補給額 399千円 道費 199千円 町費 200千円 大家畜資金(畜産特例) 補給額 62千円 道費 41千円 町費 21千円 認定農業者 60名	
	事業費(千円)	3,727	1,103	857	721	585	461
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	1,909	558	438	370	303
		地方債	0				
		その他	0				
一般財源	1,818	545	419	351	282	221	
事業費(千円)	1,953	1,097	856	0	0	0	
財 源 内 訳	国庫支出金	0					
	道支出金	995	556	439			
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	958	541	417				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 対象資金に係る利子補給 認定農業者 61名	(実施内容等) 対象資金に係る利子補給 認定農業者 58名	(実施内容等)	(実施内容等)	
	○農業経営基盤強化 資金利子補給補助金						
	○大家畜経営活性化 資金利子補給補助金						
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 補助対象者全件	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 補助対象者全件	※事務事業評価結果 補助対象者全件	※事務事業評価結果 補助対象者全件	※事務事業評価結果 補助対象者全件	
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	99%	100%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	29%	52%	52%	52%	52%	
	全体達成率						
	備考欄						

事業名	利子補給補助事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	資金借入農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業実績		
抱える課題やニーズ	借入資金利率の高負担による経営圧迫		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	償還負担の軽減		① 各種利子補給事業の実績	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	経営の安定化及び経営改善			目標値	100%
				実績値	100%
		達成度		100.0%	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	借入資金に対する利子補給	農業経営基盤強化資金、大家畜経営活性化資金、畜産特別支援資金の借入農家に対する利子補給を行った。	②	目標年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0!%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国及び北海道の制度に基づく事業であり、酪農経営の安定化を図るため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	利子補給を行うことにより、農業者の負担軽減が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	償還の負担軽減により、農業者の経営安定化及び経営改善が図られている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	制度等に基づき、対象資金の借入れを行った全ての農業者を事業対象としており、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり全ての利子補給を行い、農業者の負担軽減が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
農業経営の安定化及び経営改善のため、継続的な支援が必要である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010040

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	B	令和5年度～令和9年度 ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会
単位施策	2 担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係 課	#N/A	
事業指標	酪農ヘルパー制度の充実		#N/A	
事業目標	酪農ヘルパー7名体制	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	酪農業における労働時間の短縮、休日の確保は重要な課題であることから、快適でゆとりある農業環境の実現のため、酪農ヘルパー制度のさらなる充実を図る。 ○雄武町酪農振興会(ヘルパー利用事業)への助成 ・専任ヘルパーの待遇改善 ・専任ヘルパー7名体制の確立と維持 (※H29年度 6名体制)	ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会	ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会	ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会	ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会	ヘルパー利用事業への助成 取組主体：雄武町酪農振興会
	事業費(千円)	25,000	5,000	5,000	5,000	5,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	25,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	8,700	4,100	4,600	0	0
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 専任ヘルパー6名体制の補助	(実施内容等) 専任ヘルパー7名体制の補助	(実施内容等)	(実施内容等)
	○酪農ヘルパー制度強化推進事業債	【評価・実績】				
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			B-継続/現状維持	B-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	7名体制の確立	7名体制の維持	7名体制の維持	7名体制の維持
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	82%	92%	0%	0%
		全体達成率	16%	35%	35%	35%
	備考欄					

事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	酪農ヘルパー制度利用農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	専任ヘルパーの維持								
抱える課題やニーズ	労働力の不足による農休日の不足	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	ヘルパー制度の充実による労働力の負担軽減と休日の確保	① 専任ヘルパー数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>85.7%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	7名	実績値	6名	達成度	85.7%
目標年度	令和元年度										
目標値	7名										
実績値	6名										
達成度	85.7%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	酪農家の快適でゆとりある経営環境への改善	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>#DIV/0!%</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	事業実施団体への助成	酪農(専任)ヘルパー7名体制を維持するため、事業主体(雄武町酪農振興会)に対し補助金を交付した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	毎日の搾乳労働が必須であることから、極めて周年拘束性が高い酪農家の経営環境を改善するため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	平成30年度からヘルパーの待遇改善並びに専任ヘルパー7名体制の確立を行ってきたことから、令和元年度事業開始当初は7名体制を確立できたが、年度途中で離職者が発生し、最終的には7名体制を維持することはできなかった。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	ヘルパーを利用する農家は相応の負担をしており、補助金額は必要最小限としている。なお、7名体制を維持できなかったことによる事業費の減額に対し、補助金の減額を行った。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	ヘルパー事業の充実は、酪農家全体の労働環境改善につながることから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
ヘルパーの待遇改善が図られ、事業開始当初は7名体制を確立できたが、年度途中で離職者が発生し、7名体制を維持することはできなかった。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持	
令和元年度は最終的に7名体制を維持できなかったが、ヘルパー制度の充実本町の酪農家にとって必要であることから、引き続き7名体制の維持に向けて支援を行う。	同左	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010050

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	2 担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	新規就農者支援事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町、北オホーツク担い手対策協議会	関 係 課	13 農業委員会	
事業指標	新規就農者支援		#N/A	
事業目標	新規就農者の確保	ハード／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町新規就農者誘致に関する特別措置条例、農業人材力強化総合支援事業実施要綱	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	新たに農業を営み、本町の産業振興に寄与する者に対し、奨励金等の支援を行い新規就農者の誘致促進を図る。 また、JA北オホーツク、雄武・興部町等により構成される北オホーツク担い手対策協議会において、新規就農者ほか意欲ある農業担い手の確保に努める。	北オホーツク担い手対策協議会への活動費負担金 2,000千円 農業人フェア(札幌2、東京2、大阪1) 363千円 新規就農者誘致促進協議会 委員報酬 16千円	北オホーツク担い手対策協議会への活動費負担金 2,000千円 農業人フェア(札幌2、東京2、大阪1) 363千円 JA出資型生産法人出資金 5,000千円	北オホーツク担い手対策協議会への活動費負担金 2,000千円 農業人フェア(札幌2、東京2、大阪1) 363千円	北オホーツク担い手対策協議会への活動費負担金 2,000千円 農業人フェア(札幌2、東京2、大阪1) 363千円	北オホーツク担い手対策協議会への活動費負担金 2,000千円 農業人フェア(札幌2、東京2、大阪1) 363千円
	事業費(千円)	16,831	2,379	7,363	2,363	2,363
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0	0			
	地方債	10,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	その他	0				
一般財源	6,831	379	5,363	363	363	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	9,390	2,154	7,236	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	4,000	2,000	2,000		
その他	0					
一般財源	5,390	154	5,236			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 就農希望者に対する支援 牧場見学、実習 新農業人フェアの出展	(実施内容等) 就農希望者に対する支援 牧場見学、実習 新農業人フェアの出展 研修牧場【JA出資型生産法人(株)Farm tomo】に対する出資	(実施内容等)	(実施内容等)
	○農業次世代人材投資事業補助金					
	○新規就農者支援事業債					
	○新規就農者奨励金収入					
	○財政調整基金					
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 就農希望者支援2組	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 就農希望者支援	※事務事業評価結果 就農希望者支援	※事務事業評価結果 就農希望者支援3組	※事務事業評価結果 就農希望者支援3組
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	91%	98%	0%	0%	0%
	全体達成率	13%	56%	56%	56%	56%
	備考欄					

事業名	新規就農者支援事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	新規就農者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	新規就農者及び担い手への支援	
抱える課題やニーズ	農業者の担い手不足	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	新規就農者の誘致や担い手の確保	① 新規就農希望者への支援(イベント回数)	目標年度 目標値 実績値	令和元年度 8回 8回
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	担い手の確保及び農業生産額の維持	② 新規就農希望者への支援(研修生受入数)	達成度	100.0%
内容(どのような手段で何をを行ったか)	北オホーツク農業担い手対策協議会の運営費負担	担い手対策協議会運営費の一部を負担した。		
	関係機関との連携	担い手対策協議会構成員である北オホーツク農業協同組合ほか関係機関と連携し、新規就農者確保のための各種活動に取り組んだ。(新農業人フェア参加、牧場見学、酪農研修、後継者花嫁対策 ほか)		
	研修牧場【JA出資型生産法人(株Farm tomo)】に対する出資	新規就農者の受入に必要な研修牧場【JA出資型生産清算法人(株Farm tomo)】の設立に対し出資を行った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	新規就農者の誘致や担い手確保に対する取り組みは、離農の抑制及び農業生産額の維持につながることから、本町の酪農振興のため必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	対策協議会の設立により、雄武・興部両町における担い手確保に対する体制の強化が図られ、新規就農者希望者への各種支援が行われた。また、新規就農者の受入に必要な研修牧場の整備に向け、JA出資型生産法人(株Farm tomo)の設立に対し出資を行った。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	北オホーツク農業協同組合の担い手対策課を中心として、雄武、興部両町での各種担い手対策における活動の一元化が図られている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	新規就農者の誘致や担い手確保に対する取り組みは、本町の酪農振興につながることから公平であると判断する。また、研修牧場への出資にあたっては、雄武町、興部町、各引受人で応分の出資を行っていることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
担い手対策協議会の設立により、雄武・興部両町における担い手確保に対する体制の強化が図られ、新規就農者希望者への各種支援が行われた。また、新規就農者の受入に必要な研修牧場の整備に向け、JA出資型生産法人(株Farm tomo)が設立された。	同左	

 今後の展開方向 (Action)			
継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持
担い手協議会において、担い手の確保に向けた各種活動の充実にも努めるとともに、令和3年度から移動する研修牧場の活用に向け体制整備を図っていく。	同左		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010060

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	担い手(人・組織)の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	農業経営改善等対策事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和2年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	飼養環境の改善				#N/A	
事業目標	酪農経営支援		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町農業経営改善等対策事業補助金交付要綱	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	酪農経営者に対し、育成牛等の飼養環境の改善を支援することにより、ゆとりある酪農経営を促進するとともに、搾乳牛の増頭から生乳生産量の確保による農業所得の向上を図る。 ・預託料助成事業(補助率1/3) 補助上限 500千円/年	預託料助成事業 30戸×500千円=15,000千円	預託料助成事業 27戸×500千円=13,500千円	預託料助成事業 30戸×500千円=15,000千円		
	事業費(千円)	43,500	15,000	13,500	15,000	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
事業費(千円)	43,500	15,000	13,500	15,000		
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
事業費(千円)	21,078	10,695	10,383	0	0	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 雌子牛の飼養に要する費用の助成	(実施内容等) 雌子牛の飼養に要する費用の助成	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	助成農家30戸	助成農家27戸	助成農家30戸	
		年度達成率	71%	77%	0%	#DIV/0!
	後期計画への継続(継続有り)	全体達成率	25%	48%	48%	#DIV/0!
	備考欄				48%	

事業名	農業経営改善等対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	畜産農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業申請農家	
抱える課題やニーズ	飼養環境の改善による労働時間の削減 搾乳牛の増頭による生乳生産量の増大	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	労働時間の削減による作業負担の軽減 育成牛の預託による搾乳牛の増頭	① 事業申請者戸数(実数)	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	作業負担の軽減による酪農の抑制 生乳生産量の増大による農業所得の向上		目標値	27戸
内容(どのような手段で何をを行ったか)	預託料の助成	酪農家に対し、預託料の一部を補助した。	実績値	23戸
			達成度	85.2%
			目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	飼養環境の改善や生乳生産量の増大は、酪農経営の安定化を図るため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	預託料の一部助成により酪農経営者の負担を軽減することで、経営の改善が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	公共牧場等の預託牧場を利用することで、育成牛に関する労働時間の削減や搾乳牛の増頭が図られた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	酪農全戸を対象とした支援であり、経営の安定化は本町の酪農振興につながることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
積極的な事業の活用により、飼養環境の改善による作業負担の軽減や搾乳牛の増頭による生乳生産量の増大が図られた。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持	
酪農経営の安定化を図るため、飼養環境の改善や搾乳牛の増頭の支援を継続する。	同左	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010070

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	農業協業法人設立促進奨励金(2件)令和元年度～令和5年度 令和5年度 167,654千円
単位施策	2 担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	農業生産規模拡大促進事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係 課	#N/A	
事業指標	生産規模拡大		#N/A	
事業目標	生乳生産量の増加	ハード／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町農業協業法人設立促進条例、雄武町経営規模拡大促進条例(※制定予定)	
町民協働		関係個別計画名	有 雄武地域畜産クラスター計画	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	雄武地域畜産クラスター計画に定める目標を達成するため、家族経営及び法人の規模拡大に対し支援するとともに、協業法人の設立促進を図ることで地域の生産基盤の維持・拡大を図る。	農業協業法人設立促進補助金 3件 16,665千円 農業協業法人設立促進奨励金 1件 12,674千円 経営規模拡大促進補助金 1件 5,000千円	農業協業法人設立促進補助金 2件 9,999千円 農業協業法人設立促進奨励金 3件 37,370千円	農業協業法人設立促進奨励金 3件 32,965千円	農業協業法人設立促進奨励金 3件 29,611千円	農業協業法人設立促進奨励金 3件 25,697千円
	※協業法人促進補助金(3年間) 平成28年度～平成29年度 1件 平成29年度～令和元年度 2件 ※経営規模拡大促進補助金 平成30年度 1件					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	169,981	34,339	47,369	32,965	29,611
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	33,300		20,000	13,300	
	その他	27,300		27,300		
一般財源	109,381	34,339	69	19,665	29,611	25,697
実 績 事 業 費	事業費(千円)	125,781	100,632	25,149	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	72,164	72,164			
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	53,617	28,468	25,149			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 協業法人設立支援 施設整備支援 機械導入支援	(実施内容等) 協業法人設立支援 施設整備支援 機械導入支援	(実施内容等)	(実施内容等)
	・過疎債(ソフト)					
	・財政調整基金					
	・畜産・酪農収益力強化 設備事業)業補助金 整備等特別対策事(施 設備事業)業補助金					
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	A-継続/現状維持		A-継続/現状維持			
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	40,000t	43,000t	46,000t	49,000t	49,000t
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	293%	53%	0%	0%	0%
	全体達成率	59%	74%	74%	74%	74%
	備考欄					

事業名	農業生産規模拡大促進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	農業経営者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	生産規模拡大		
抱える課題やニーズ	離農の増加や担い手不足による農業生産額の減少		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	協業法人の設立や家族経営の規模拡大		① 生乳生産量	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地域における生産基盤の維持・拡大及び農業生産額の維持・増大			目標値	43,000 t
内容(どのような手段で何を行ったか)	協業法人の設立及び事業場新設に対する支援	規模拡大を目指して新設した協業法人に対し、補助金を交付した。	実績値	44,275 t	
			達成度	103.0 %	
				目標年度	
				目標値	
			実績値		
			達成度	#DIV/0! %	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	離農や担い手不足が深刻な課題となっている本町において、協業法人の設立や規模拡大に対する支援は、地域の生産基盤並びに集落を維持するために必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	協業法人の設立や家族経営の規模拡大により、今後、生乳生産量や農業生産額の維持・増大が図られる。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	牛舎等の建設には多額の設備投資を要することから、その経費負担を軽減することで、規模拡大を行った農業者の経営安定化が早期に図られる。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	協業法人の設立や経営規模拡大の取り組みは、生産基盤の維持・拡大とともに新たな雇用の場を創設するため、本町の酪農業や地域の活性化に寄与するものであり、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業で支援している協業法人3件については、生乳生産量が計画どおり増大している。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
生乳生産量や農業生産額の維持・増大のためには協業法人の設立や家族経営の規模拡大に対する支援が必要であることから、今後も継続して支援を行う。			

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010090

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和4年度～令和8年度 計画面積 240.85ha 全体事業費 96,340千円
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	4	安全・安心な農業の振興	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	環境保全型農業直接支払制度		見 直 し 年 度	令和4年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9 産業振興課		
事業主体	雄武町		関 係 課	#N/A		
事業指標	営農活動計画			#N/A		
事業目標	計画農地での活動		ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
町民参加	無		関係例規・法令名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律		
町民協働			関係個別計画名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画(市町村促進計画)		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	化学肥料や化学合成農薬を原則5割以上低減する取組みと合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に対し、活動計画面積に応じた一定額を交付する。 ・カバークロップの取組み	直接支払交付金 17,252千円 道費 12,939千円 町費 4,313千円	直接支払交付金 17,695千円 道費 13,271千円 町費 4,424千円	直接支払交付金 19,268千円 道費 14,451千円 町費 4,817千円	直接支払交付金 19,268千円 道費 14,451千円 町費 4,817千円	直接支払交付金 19,268千円 道費 14,451千円 町費 4,817千円
	平成29年度～令和3年度 計画面積 221.18ha (令和元年度) 全体事業費 83,427千円					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	92,751	17,252	17,695	19,268	19,268
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	69,563	12,939	13,271	14,451	14,451
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	23,188	4,313	4,424	4,817	4,817	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	34,959	17,262	17,697	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	26,217	12,946	13,271		
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	8,742	4,316	4,426			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評 価 ・ 実 績】	(実施内容等) 実施主体 1戸 対象面積 215.77ha	(実施内容等) 実施主体 1戸 対象面積 221.18ha	(実施内容等)	(実施内容等)
	○環境保全型農業直接支払交付金					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	215.77ha	221.18ha	240.85ha	240.85ha	240.85ha
	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
後期計画への継続(継続有り)	全体達成率	19%	38%	38%	38%	38%
	備考欄					

事業名	環境保全型農業直接支払制度	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	事業参加農家の対象農用地	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	対象農用地								
抱える課題やニーズ	化学肥料や土砂の河川への流出	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	土壌浸食の防止、化学肥料や化学合成農業の低減	① 対象農用地面積	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>221.18 ha</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>221.18 ha</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	221.18 ha	実績値	221.18 ha	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	221.18 ha										
実績値	221.18 ha										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地球温暖化防止など環境にやさしい農業の確立	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td></td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0! %										
内容(どのような手段で何を行ったか)	事業に取り組む農業者に対する交付金の交付	対象農用地面積を基準とした交付金を交付した。(国50%、道25%、町25%)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	環境問題への関心が高まる中、本町の環境保全を重視した農業者の積極的な取り組みへの支援は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	カバークロープ(緑肥)の作付により、北海道の慣行レベルに対して化学肥料等の5割以上の低減が図られた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業の活用により農業者の費用負担が軽減され、化学肥料や土砂の河川への流出が低減された。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	国の制度に基づいた環境保全に係る事業実施であり、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
計画どおり実施されており、カバークロープ(緑肥)の作付により、化学肥料等の低減が図られた。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持	
計画どおり土壌浸食の防止及び化学肥料等の低減が図られていることから、今後も交付金の有効活用に努める。	同左	

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010100

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	4	安全・安心な農業の振興	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	雄武地域バイオガス導入検討事業		見 直 し 年 度	令和2年度		
事業期間	平成30年度～令和元年度		担 当 課	9 産業振興課		
事業主体	雄武町		関 係 課	#N/A		
事業指標	家畜糞尿処理対策			#N/A		
事業目標	バイオガスプラント建設の検討		ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	大型協業法人の設立等、規模拡大が進む近年の酪農情勢の変化に伴い、今後、地域の課題となる家畜糞尿処理の対策として、バイオガスプラント建設の検討を行う。	業務委託 6,000千円 調査、検討 講師謝礼 90千円 ※地域新エネルギー調査・設計 導入強化事業【道】	業務委託 3,630千円 調査、検討 講師謝礼 90千円 先進地視察				
	事業費(千円)	9,810	6,090	3,720	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	2,075	2,075	0			
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	7,735	4,015	3,720				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	9,648	5,922	3,726	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	2,019	2,019				
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	7,629	3,903	3,726				
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) 協議会設立 調査、検討	(実施内容等) 協議会開催 調査、検討	(実施内容等)	(実施内容等)	
	○地域新エネルギー導入加速化調査支援事業費補助金						
	○地域バイオマス産業化推進事業補助金						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値					
	年度達成率	97%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	60%	98%	98%	98%	98%	
	備考欄						

事業名	雄武地域バイオガス導入検討事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	畜産農家		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 調査、検討
抱える課題やニーズ	大規模経営化、担い手不足、高齢化に伴う労働力の低下等による家畜ふん尿の不十分な処理		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	家畜ふん尿の処理対策として、バイオガスプラント建設の検討を行う。		
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	バイオガスプラント建設の可否の判断		
内容(どのような手段で何を行ったか)	雄武町家畜バイオマス事業推進協議会の開催	協議会を開催し、バイオガスの導入について検討した。	
	バイオガスプラント建設に向けた調査、検討	調査の実施や進捗管理、資料作成を行うため、専門業者に業務を委託した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	畜産、酪農業を基幹産業とする本町において、家畜ふん尿対策は重要課題であり、河川環境の防止や悪臭問題を解決するため検討は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当初の計画では平成30年度から令和元年度の2年間で調査、検討を行うこととしていたが、地域の要望等や北海道電力が行う送電網の増強工事(募集プロセス)の開始により、FIT制度活用の見込みがでてきたことから事業の導入を慎重に判断すべきとの結論に至り、令和元年度は参加希望者の取りまとめや事業収支等の試算を行った。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	調査については、専門業者に委託し、協議会での報告、検討資料の作成を依頼した。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	家畜ふん尿の処理対策は、河川環境の汚染防止や悪臭による生活環境への被害防止にもつながることから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
当初の計画では平成30年度から令和元年度の2年間で調査、検討を行うこととしていたが、地域の要望等や北海道電力が行う送電網の増強工事(募集プロセス)の開始により、FIT制度活用の見込みがでてきたことから事業の導入を慎重に判断すべきとの結論に至り、令和元年度は参加希望者の取りまとめや事業収支等の試算を行った。	同左	



※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010110

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	5	農業による地域の活性化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	畜産指導者育成事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	畜産指導者の育成				#N/A	
事業目標	畜産指導者会議の開催		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	地域農業の振興のため、生産技術や経営の指導を行うJA、農業改良普及センター、NOSAI、町から各担当者を参集し、現状分析や課題解決に向けた検討、情報共有を行うことで各関係機関の指導力向上に努める。	畜産指導者会議の開催	畜産指導者会議の開催	畜産指導者会議の開催	畜産指導者会議の開催	畜産指導者会議の開催
	事業費(千円)	0	0	0	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 畜産指導者会議の開催 1回	(実施内容等) 畜産指導者会議の開催 6回	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果	B-継続/現状維持	B-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値 6回	年度目標値 6回	年度目標値 6回	年度目標値 6回	年度目標値 6回
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率 #DIV/0!	年度達成率 #DIV/0!	年度達成率 #DIV/0!	年度達成率 #DIV/0!	年度達成率 #DIV/0!
		全体達成率 #DIV/0!	全体達成率 #DIV/0!	全体達成率 #DIV/0!	全体達成率 #DIV/0!	全体達成率 #DIV/0!
		備考欄				

事業名	畜産指導者育成事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	農業関係機関担当者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	畜産指導者会議の開催								
抱える課題やニーズ	異動等により、関係者間の連携や地域の課題に対する共通認識が図られていない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	関係者が参集し、情報の共有化を図る。	① 畜産指導者会議の開催数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	6回	実績値	6回	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	6回										
実績値	6回										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	担当者の知識向上及び関係者間の連携を密にし、農業経営者に対し適切な助言、指導を行う。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>#DIV/0!%</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	畜産指導者会議の開催	農業経営者に対する助言、指導が行えるよう、関係機関の担当者が参集し、意見交換をとおして本町の農業に対する知識向上を図った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	担当者の知識向上を図り、農業経営者に対し適切な指導、助言を行うため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	関係機関の担当者間において地域の現状、課題に対する認識を共有することができた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	指導者会議として全ての担当者の参集は3回に留まるも、協議案件によっては、一部の担当者のみを参集(3回)し、情報・意見交換を行っている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	担当者の質の向上は、本町の農業行政の推進に寄与するものであり、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
関係機関の担当者間において、地域の現状、課題に対する認識の共有や知識の向上が図られた。		

<p>今後の展開方向 (Action)</p>		
継続/現状維持		
今後も会議内容の充実を目指しながら、担当者間の意見交換を通じた知識の向上と情報の共有を図っていく必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010120

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	第5期対策(令和2年度～令和6年度) 協定面積 7,969ha 全体事業費 600,485千円
単位施策	5 農業による地域の活性化	政策事務分類	#N/A	
事業名	中山間地域等直接支払制度	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	13 農業委員会	
事業指標	集落協定		#N/A	
事業目標	協定農地の管理	ハード／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律	
町民協働		関係個別計画名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画(市町村促進計画)	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	農業生産条件に不利な中山間地域において、集落の農用地を維持・管理していくための取決め(協定)を締結し、それにしたがって農業生産活動を行う農業者に対し、耕作面積に応じた一定額を交付する。 ・集落協定に定める農用地(草地)の維持管理 ・農村、農場環境の整備	直接支払交付金 119,544千円 道費 89,657千円 町費 29,887千円	直接支払交付金 118,620千円 道費 88,965千円 町費 29,655千円	直接支払交付金 119,544千円 道費 89,657千円 町費 29,887千円	直接支払交付金 119,544千円 道費 89,657千円 町費 29,887千円	直接支払交付金 119,544千円 道費 89,657千円 町費 29,887千円
	第4期対策(平成27年度～令和元年度) 協定面積 7,908ha (令和元年度) 全体事業費 602,075千円	市町村推進事業 556千円 道費 415千円 町費 141千円	市町村推進事業 553千円 道費 352千円 町費 201千円			
計 画 事 業 費	事業費(千円)	599,564	120,100	119,173	120,097	120,097
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	449,416	90,072	89,317	90,009	90,009
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	150,148	30,028	29,856	30,088	30,088	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	237,525	119,095	118,430	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	178,163	89,379	88,784		
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	59,362	29,716	29,646			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	○北海道中山間地域等 直接支払交付金	【 評 価 ・ 実 績 】	参加集落1集落 協定面積 8,032ha 交付対象 7,908ha	参加集落1集落 協定面積 8,080ha 交付対象 7,908ha		
	○北海道中山間地域等 直接支払推進交付金					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	7,969ha	7,908ha	7,969ha	7,969ha
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	99%	99%	0%	0%	
	全体達成率	20%	40%	40%	40%	
	備考欄					

事業名	中山間地域等直接支払制度	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	事業参加農家の対象農用地	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	対象農用地								
抱える課題やニーズ	離農による耕作放棄地の増加	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	耕作放棄地の防止や農地を含めた周辺の環境整備	① 対象農用地面積	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>7,908 ha</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>7,908 ha</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	7,908 ha	実績値	7,908 ha	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	7,908 ha										
実績値	7,908 ha										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	酪農環境の改善、農業生産の向上、耕作放棄地の発生防止	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td></td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0! %										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	集落協定に対する交付金の交付	対象農用地面積を基準とした交付金を交付した。(国50%、道25%、町25%)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	各集落における対象農用地の管理と環境整備は農業振興のために必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	制度の目標どおり事業が実施されており、新たな耕作放棄地の発生が防止されている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	計画的な管理と事業実施がされており、北海道の要綱に定められた評価も行われている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	国の制度に基づいた耕作放棄地の防止や農地を含めた周辺の環境整備に係る事業実施であり、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり事業が実施されており、対象農用地の適切な管理に伴って、酪農環境の改善、生産性の向上、耕作放棄地の発生防止が図られた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
農業生産活動の維持と環境整備が、離農の抑制、耕作放棄地の発生を防止していることから、今後も交付金の有効活用に努める。			

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010130

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 製品開発の取組み支援 関係機関との連携
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	5	農業による地域の活性化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	6次産業化の推進				#N/A	
事業目標	地場産品を使用した加工食品の開発		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	商品開発	関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	地産地消の推進、地場産品のブランド化を図るうえで、農業者の6次産業化への取組みは重要であり、加工製品の開発に向けた取組みを支援する。	製品開発の取組み支援 関係機関との連携	製品開発の取組み支援 関係機関との連携	製品開発の取組み支援 関係機関との連携	製品開発の取組み支援 関係機関との連携	製品開発の取組み支援 関係機関との連携	
	事業費(千円)	0	0	0	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 加工食品開発のための調査・研究	(実施内容等) 加工食品開発のための調査・研究	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	製品開発	製品開発	製品開発	製品開発
			年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	備考欄						

事業名	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	農業生産物	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	加工食品の開発		
抱える課題やニーズ	新たな製品を開発するための情報や専門的知識の不足		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	新たな加工食品の開発		① 調査・研究等	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	新たな加工食品の開発による農業の振興			目標値	1式
				実績値	1式
			達成度	100.0%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0!%	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	加工食品の試作	雄武地域地場産品推進協議会が民間企業に委託して韃靼そばを活用した加工品の試作やマーケットリサーチを支援した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町が構成員となっている雄武地域地場産品推進協議会において、雄武町産の韃靼そばを活用した加工食品の開発を行っており、地産地消や6次産業化を推進するために必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	雄武地域地場産品推進協議会において、雄武町産の韃靼そばを活用した新たな加工食品の開発等に対し支援した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	雄武地域地場産品推進協議会において、継続的な加工食品の開発が計画されている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	韃靼そばを活用した加工食品の開発は、6次産業化を推進するだけでなく、地産地消や地場産品のブランド化等、雄武町の農業振興に貢献するものであり、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
平成28年度に設立された雄武地域地場産品推進協議会において、雄武町産の韃靼そばを活用した加工品の試作等に対し支援することができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
雄武地域地場産品推進協議会において、加工食品の開発を継続する。また、町内において、6次産業化に取り組む農業者の支援も行っていく必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010140

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	5	農業による地域の活性化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	畜産担い手育成総合整備事業(再編整備型事業)		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和2年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	北海道農業公社		関 係 課		#N/A	
事業指標	農業基盤整備				#N/A	
事業目標	農業基盤整備		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	農業競争力強化基盤整備事業実施要綱、地域草地基盤強化支援事業実施要領	
町民協働			関係個別計画名	有	農業競争力強化基盤整備事業実施計画、地域草地基盤強化マスタープラン	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	担い手の育成を通じて土地利用集積の推進による規模拡大や飼料生産基盤の促進に酪農振興と地域経済の活性化を図るため、草地整備及び施設整備を実施する。 なお、草地整備については、道・町費を合わせて20%以内の助成を行い農業者の負担軽減を図る。 ※単位施策～「土地基盤の充実」にも該当	草地整備 141.0ha 草地造成 3.2ha 暗渠排水 0.4ha 施設整備 1棟 全体事業費 447,120千円 国 費 207,000千円 道 費 11,700千円 受益者 224,520千円 町 費 3,900千円	草地整備 159.4ha 草地造成 3.7ha 暗渠排水 2.5ha 施設整備 1棟 当該年度 繰越明許分 全体 63,000千円 43,200千円 国 31,500千円 20,000千円 道 8,818千円 6,000千円 受益23,144千円 15,200千円 町 3,778千円 2,000千円	草地整備 120.5ha 草地造成 1ha 暗渠排水 2.9ha 施設整備 1棟 全体事業費 86,400千円 国 費 40,000千円 道 費 11,200千円 受益者 30,400千円 町 費 4,800千円		
	平成29年度～令和2年度 草地整備 581.1ha 草地造成 7.8ha 暗渠排水 18.6ha 家畜保護施設(家畜避難舎) 1棟	※予算計上は国費除く	※予算計上は国費、道費の一部を除く	※予算計上は国費、道費除く		
計 画 事 業 費	事業費(千円)	326,242	240,120	50,922	35,200	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	17,700	11,700	6,000		
	地方債	0				
その他	294,064	224,520	39,144	30,400		
一般財源	14,478	3,900	5,778	4,800		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	280,346	230,338	50,008	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	17,101	11,100	6,001		
	地方債	0				
その他	253,767	215,538	38,229			
一般財源	9,478	3,700	5,778			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	○地域草地基盤強化支援事業補助金	【 評 価 ・ 実 績 】	草地整備 128.20ha 草地造成 2.22ha 暗渠排水 1.06ha 施設整備 1棟	草地整備 159.35ha 草地造成 3.66ha 暗渠排水 2.44ha		
	○畜産担い手育成総合整備事業受託収入					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続(継続有り)		年度目標値	草地144.6ha、施設1棟	草地165.6ha	草地123.4ha
後期計画への継続(継続無し)	年度達成率	96%	98%	0%	#DIV/0!	
	全体達成率	71%	86%	86%	86%	
	備考欄					

事業名	畜産担い手育成総合整備事業(再編整備型事業)	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	畜産農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	草地整備								
抱える課題やニーズ	家畜飼料など農業資材の価格高騰による経営コストの増加 農業者の高齢化や担い手不足による生産基盤の衰退	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	自給飼料生産の向上や利用拡大	① 草地整備 (整備、造成、暗渠排水)	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>165.6 ha</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>165.5 ha</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>99.9 %</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	165.6 ha	実績値	165.5 ha	達成度	99.9 %
目標年度	令和元年度										
目標値	165.6 ha										
実績値	165.5 ha										
達成度	99.9 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	自給飼料基盤に立脚した酪農、畜産経営の確立	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>#DIV/0! %</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0! %										
内容(どのような手段で何を行ったか)	草地整備等及び施設整備の実施	事業実施計画(平成29年度～平成32年度)により、草地整備等(整備、造成、暗渠排水)を実施した。									
	草地整備等に対する補助金の交付	草地整備等(整備、造成、暗渠排水)に対し補助金を交付した。(道15%、町5%)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	経営規模の拡大や飼料生産基盤の維持、向上による安定した農業経営確立のための支援は、本町の酪農振興のために必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	草地整備等の実施により、今後、自給飼料生産の向上が図られる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業の活用により農業者の経費負担が軽減され、計画地域内において、草地整備が促進された。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	その他	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>		

(4)事務事業の公平性

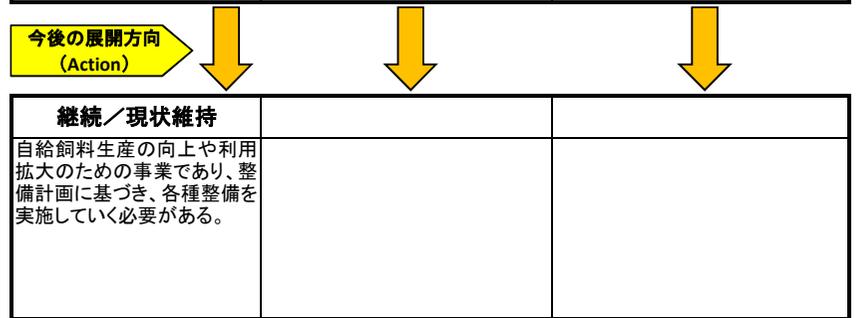
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	国の制度に基づいた事業であり、参加する農業者の受益者負担もあるので、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	その他	
/公平でない	<input type="checkbox"/>		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり各種整備が完了し、今後、自給飼料生産の向上及び利用拡大が図られる。		



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09010160

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	令和元年度～令和5年度
単位施策	5 農業による地域の活性化	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	協定面積 8,024ha
事業名	多面的機能支払制度	見直し年度	令和元年度	全体事業費 89,860千円
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	13 農業委員会	
事業指標	集落協定		#N/A	
事業目標	協定農地の管理	ハード／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律	
町民協働		関係個別計画名	有 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画(市町村促進計画)	

全体計画		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	農業農村が有する国土の保全、水源かん養、 景観形成等の多面的機能を確保するため、協定 面積に応じた一定額を交付する。 ・農道等の維持管理 ・有害鳥獣対策 ほか 平成26年度～平成30年度 協定面積 8,024ha(平成30年度) 全体事業費 96,967千円	直接支払交付金 20,061千円 道費 15,045千円 町費 5,016千円 市町村推進事業 道費 314千円 町費 5千円	直接支払交付金 17,653千円 道費 13,239千円 町費 4,414千円 市町村推進事業 道費 314千円 町費 5千円			
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 92,268	20,380	17,972	17,972	17,972
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金 0				
	道支出金 69,571	15,359	13,553	13,553	13,553	
	地方債 0					
	その他 0					
	一般財源 22,697	5,021	4,419	4,419	4,419	
事業費(千円) 38,344	20,378	17,966	0	0		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	○多面的機能支払交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 参加集落1集落 協定面積8,024ha	(実施内容等) 参加集落1集落 協定面積8,022ha		
	○多面的機能支払推進交付金					
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	8,024ha	8,024ha	8,024ha	8,024ha
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%
	全体達成率	22%	42%	42%	42%	
	備考欄					

事業名	多面的機能支払制度	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	福田 泰弘

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	集落の対象農地及び農業用水	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	対象農用地		
抱える課題やニーズ	農村地域の高齢化や人口減少に伴う集落機能の低下		①	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	農業者の共同活動による農地(農道)、農業用水等の地域資源の保全と質的向上			目標値	8,024 ha
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地域活動によって支えられる農業、農村地域の多面的機能の発揮		実績値	8,022 ha	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	集落協定に対する交付金の交付	対象農用地面積を基準とした交付金を交付した。(国50%、道25%、町25%)	達成度	100.0 %	
			②	目標年度	
			目標値		
			実績値		
		達成度	#DIV/0! %		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域活動による農地(農道)、農業用水路等の地域資源の保全と質的向上は、農業、農村地域の多面的機能を発揮するために必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	農業者の共同活動による農地(農道)や水路の適切な維持管理が行われ、地域資源の良好な保全が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	計画的な管理と事業実施がされており、北海道の要綱に定められた評価も行われている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	国の制度に基づいた事業実施であり、農業、農村地域における資源の保全と質的向上につながることから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり実施されており、農業者の共同活動による地域資源の保全と質的向上が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
農業者自身による取組みが農業資源を保全し、地域活動の推進につながっていることから、今後も交付金の有効活用に努める。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020010

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 事業期間 平成30年度～令和9年度 事業内容 浄水場の維持管理(5施設)
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 土地基盤の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	営農用水施設維持管理事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 度	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	営農用水施設数		#N/A	
事業目標	5施設維持	ハート／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町営農・飲雑用水施設委託管理規則	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	営農用水施設(上沢木・栄丘・共栄中雄武・音稲府・北幌内浄水場)の保守点検・整備等を行い、安全かつ良質な水の供給を図る。	音稲府浄水場中央監視装置更新 13,570千円 音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 1,236千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 200千円 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 880千円 上沢木浄水場水質計器点検 841千円 維持管理修繕等(5施設) 2,500千円	音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 1,260千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 205千円 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 897千円 上沢木浄水場水質計器点検 850千円 浄水設備機器等更新 3,200千円 漏水調査 2,000千円 維持管理修繕等(5施設) 2,488千円	共栄浄水場中央監視装置更新 4,800千円 音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 1,510千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 205千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 205千円 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 1,047千円 上沢木浄水場水質計器点検 1,180千円 上沢木浄水場水質計器点検 1,047千円 漏水調査 1,500千円 維持管理修繕等(5施設) 2,000千円	音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 1,510千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 205千円 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 1,047千円 上沢木浄水場水質計器点検 1,180千円 浄水設備機器等更新 3,000千円 漏水調査 1,500千円 維持管理修繕等(5施設) 2,000千円	音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 1,510千円 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 205千円 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 1,047千円 上沢木浄水場水質計器点検 1,382千円 浄水設備機器等更新 3,000千円 漏水調査 1,500千円 維持管理修繕等(5施設) 2,000千円
	事業費(千円)	63,339	19,227	10,900	12,106	10,442
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	63,339	19,227	10,900	12,106	10,442	10,664
実 績 事 業 費	事業費(千円)	31,691	21,627	10,064	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	3,600	3,600				
一般財源	28,091	18,027	10,064			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	地域づくり総合交付金	【評価・実績】	音稲府浄水場中央監視装置更新 音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 上沢木浄水場水質計器点検 各浄水施設等修繕 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	音稲府浄水場水質計器点検、機器点検 音稲府浄水場沈澱池清掃業務 共栄浄水場設備更新工事 共栄浄水場水質計器点検、機器点検 上沢木浄水場水質計器点検 各浄水施設等修繕 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	5施設	5施設	5施設	5施設
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	112%	92%	0%	0%
		全体達成率	34%	50%	50%	50%
		備考欄				

事業名	営農用水施設維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 厳太

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	営農用水受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	浄水場の稼働率	
抱える課題やニーズ	施設の老朽化による機器の故障及び浄・配水機能の低下		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	安定した施設・機器の稼動による水の供給	① 浄水場の稼働率	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	安定かつ良質な水の提供		目標値	100%
		実績値	100%	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	機器点検の委託	機器の不良箇所の早期発見及び老朽化等により機能低下している機器の更新サイクルの確立を図り、浄水機能を低下することなく、安定した水の供給を図った。	達成度	100.0%
	機器設備の更新等		目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	営農用水及び飲雑用水として利用されており、良質な水の供給を図るため、施設(機器)の安定した稼働が必要である。
必要/概ね必要 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	機器の不具合による施設機能の低下及び浄水場の稼働停止等の発生はなく、安定した浄水場の稼働が図られており、適切な水の供給が行われている。
有効/概ね有効 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	点検により機器の状態の把握が行われており、更新及び修繕においては、最小限の定期的な更新及び修繕等が行われている。また、平成30年度に実施した首稲府浄水場の監視装置の更新により、場所及び時間等の制約を受けることなく、浄水場の稼働状況の確認が行え、警報発生件数の抑制が図られている。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

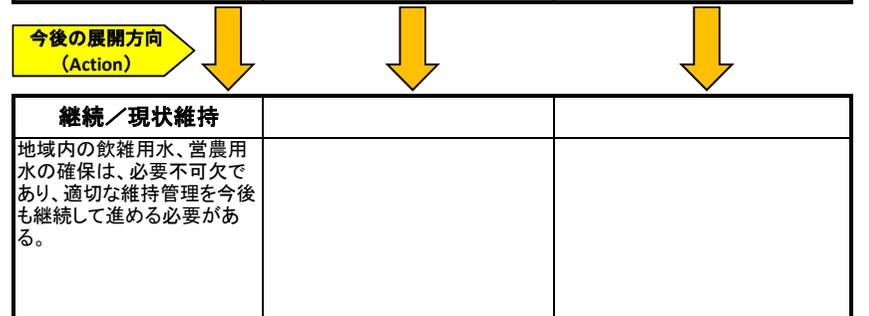
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	営農用水の維持管理費は、各地域の水道利用組合が負担しており、受益者負担があることから公平と判断する。
公平/概ね公平 /公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
致命的な機器の故障等による営農用水施設稼働停止等は発生しておらず、適切な施設の維持管理により、安定かつ良質な水の供給を今後も計画どおり進める必要がある。		



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020020

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 事業期間 平成30年度～令和9年度 事業内容 雄武ダムの維持管理
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	土地基盤の充実	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	基幹水利施設管理事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	雄武ダムの維持管理				#N/A	
事業目標	適切な維持		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武ダム管理条例	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	平成21年度から供用開始している雄武ダムについて、施設の点検整備、管理を適正に行う	・点検整備費 ・施設管理費 ・施設費 ・調査費 ・諸油脂費 ・電力費 補助対象事業費 41,608千円	・点検整備費 ・施設管理費 ・施設費 ・調査費 ・諸油脂費 ・電力費 補助対象事業費 42,814千円	・点検整備費 ・施設管理費 ・施設費 ・調査費 ・諸油脂費 ・電力費 補助対象事業費 43,212千円	・点検整備費 ・施設管理費 ・施設費 ・調査費 ・諸油脂費 ・電力費 補助対象事業費 42,814千円	・点検整備費 ・施設管理費 ・施設費 ・調査費 ・諸油脂費 ・電力費 補助対象事業費 42,954千円
	事業費(千円) 252,719 国庫支出金 0 道支出金 128,039 地方債 107,400 その他 705 一般財源 16,575	51,104 24,964 22,700 141 3,299	50,153 25,688 21,000 141 3,324	50,551 25,927 21,200 141 3,283	50,153 25,688 21,000 141 3,324	50,758 25,772 21,500 141 3,345
実 績 事 業 費	事業費(千円) 116,109 国庫支出金 0 道支出金 55,974 地方債 34,800 その他 11,465 一般財源 13,870	50,419 26,058 14,900 147 9,314	65,690 29,916 19,900 11,318 4,556	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0
	特定財源の名称 基幹水利施設管理事業補助金 臨時職員雇用保険料 国営造成土改良施設防災情報ネットワーク通信使用料金 基幹水利施設管理事業債 【評 価 ・ 実 績】	(実施内容等) 点検整備 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 点検整備 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果 適切な維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果 適切な維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果 適切な維持
関 連 事 項	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率 99%	適切な維持 131%	適切な維持 0%	適切な維持 0%	適切な維持 0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 20%	46%	46%	46%	46%
		備考欄				

事業名	基幹水利施設管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 巖太

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	用水受益者、ダム施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各種設備点検委託 維持管理調査	
抱える課題やニーズ	各種機器の維持管理及び更新		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	各種機器の点検維持管理を行い、不良箇所の早期発見を行うことにより、施設全体の長寿命化を図り、受益者への適正な用水供給を行う。	① 各種設備点検委託業務 実施:7件 維持管理、調査業務 実施:7件	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	かんがい用水の合理的な利用を促し、農業の生産性の向上と農業経営の安定を図る。		目標値	14件
内容(どのような手段で何をを行ったか)	点検整備 施設維持管理、調査	取水放流設備、電気設備、制御施設など、各設備、施設の点検業務を委託して実施し、施設の状況把握を行った。 管理用道路の草刈り、除雪業務、貯水池内堆砂量測量業務等を委託して実施し、適切な施設の維持管理に努めた。	実績値	14件
			達成度	100.0%
		② 改修又は更新の実施 計画件数:2件 実施件数:2件	目標年度	令和元年度
			目標値	2件
			実績値	2件
			達成度	100.0%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	受益者が必要としているかんがい用水の確保及び適切な配水を行うためには、必要な事業である。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	各種設備の点検や施設の維持管理を適正に行っていることにより、ダム本体及び用水路等は正常な機能が維持されており、安定した用水供給が行われている。
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	ダム本体及び各種設備等の点検等の実施による不良箇所の早期発見は、施設の重大な事故等を未然に防いでいること他、設備等の計画的な更新を行ったことにより、事業費の抑制に繋がっている。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	受益者(使用者)にあつては、使用料の負担があり、公平と判断する。
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
設備等の正常機能の保持により、受益者へのかんがい用水の安定供給が行えていることから、今後も計画どおり進める必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
かんがい用水の供給は、農業の生産性向上を図り、農業経営の安定化に寄与するものであることから、適切な用水を供給するため、継続して進める必要がある。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020040

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	全体事業期間 平成29年度～令和元年度
単位施策	1	土地基盤の充実	政 策 事 務 分 類	2	単独自治事務(個別計画)	・補助率 55%
事業名	団体営かんがい排水事業		見 直 し 年 度			・事業量 用水路 一式 圃場配管 2箇所
事業期間	平成30年度～令和元年度		担 当 年 課	9	産業振興課	・事業費 51,577千円
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	平成29年度 14,817千円
事業指標	農業用水設備				#N/A	平成30年度 18,800千円
事業目標	管路工、末端散水施設設置		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	令和元年度 17,960千円
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	有	農業農村整備事業管理計画	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	事業期間	平成30年度～令和元年度	管路工(用水路) L=67m	末端散水施設(多孔管) 2箇所		
	・事業費	36,760千円				
	・補助率	55%				
	・事業量	用水路 一式 圃場配管 2箇所				
計 画 事 業 費	事業費(千円)	36,760	18,800	17,960	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	20,218	10,340	9,878		
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	33,804	18,799	15,005	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	20,693	10,340	10,353		
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称	団体営かんがい排水事業補助金	(実施内容等) 用水路整備工事	(実施内容等) 多孔管・ホース等購入	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	A-継続/現状維持		A-継続/内容の見直し・変更			
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	管路工(用水路) L=67m	末端散水施設(多孔管)2箇所		
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	100%	84%	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	51%	92%	92%	92%	
	備考欄					

事業名	団体営かんがい排水事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 巖太

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	団体営かんがい排水事業受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	かんがい用水の整備	
抱える課題やニーズ	かんがい用水の未整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	安定した水の供給	① かんがい用水の整備	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	安定かつ良質な水の供給		目標値	1式
内容(どのような手段で何を行ったか)	用水路の整備 用水路ならびに付随する機器の整備を行い、圃場への安定した水の供給を行った。	②	実績値	1式
			達成度	100.0%
			目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	受益者が必要としているかんがい用水の確保及び適切な配水を行うためには必要な事業である。
必要/概ね必要 /課題あり		全部	
		一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	安定的な配水により生産性の向上と農作業の効率化を図ることができた。
有効/概ね有効 /課題あり		達成	
		ほぼ達成	
		下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	設備の規模、必要性を精査したうえで、事業を進めたため、コストを抑制できた。
効率的/概ね効率的 /課題あり		事業費抑制	
		人員削減	
		時間短縮・作業軽減	
		その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本事業は基幹水利施設管理事業の関連事業として位置づけられているものであり、基幹水利施設管理事業については使用者(受益者)に使用料の負担があることから公平と判断される。
公平/概ね公平 /公平でない		受益者負担がある	
		受益者負担がない	
		受益が一部に偏る	
		その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
自然災害により、工事の延長が生じたものの、計画内に事業を完了することができた。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
整備事業は終了したことから、今後は今回整備した圃場にてデモンストレーションを実施し、利用者の増加を図ることとするほか、今後の活用方法についても併せて検討を行う。	同左	

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020050

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	B	事業期間 平成30年度～令和9年度 事業内容 水土里情報システムの利用 オルソ画像更新
単位施策	1 土地基盤の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	水土里情報システム利活用事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 度	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	農地の有効利用の促進		#N/A	
事業目標	農地情報の共有化	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	水土里情報システムの利活用	水土里情報システムの利用 238千円 オルソ画像更新 421千円	水土里情報システムの利用 242千円 オルソ画像更新 429千円	水土里情報システムの利用 242千円 オルソ画像更新 429千円	水土里情報システムの利用 242千円 オルソ画像更新 429千円	水土里情報システムの利用 242千円 オルソ画像更新 429千円
	事業費(千円)	3,343	659	671	671	671
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	3,343	659	671	671	671	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,324	659	665	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,324	659	665			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率	農地情報の共有化 100%	農地情報の共有化 99%	農地情報の共有化 0%	農地情報の共有化 0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%
		備考欄				

事業名	水土里情報システム利活用事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 厳太

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	農業関連情報	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	水土里情報システム
抱える課題やニーズ	農業関連情報の複雑化、煩雑化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	農業関連情報の複雑化、煩雑化集約管理による情報の有効活用	① 水土里情報システムの利活用	目標年度 令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	農地情報の提供、耕作放棄地の抑制、水利施設の利用促進及び長寿命化		目標値 100%
内容(どのような手段で何をを行ったか)	水土里情報システムの利活用	②	達成度 100.0%
			目標年度 令和元年度
			目標値
			実績値
			達成度
	水土里情報システムを利用し、必要に応じて農業関連情報を取得し、有効活用を図っている。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	水土里情報システムに蓄積されている農業関連情報は、農業関連施設の維持管理を行う際の資料として活用しており、今後も維持管理を行う上で必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	システムの活用により、農業関連情報を迅速に取得することが可能であり、農業関連施設の維持管理を行うにあたり有効活用が図られている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	システムの利用にあたっては、利用頻度に関係なく定額となっており、利用料以外に経費負担がないことから、効率的と判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町全体を対象とした事業であり、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
農地等に利便性の高い農業関連情報を有効活用し、農業関連事業を推進しており、農業の持続的な発展等を図るため、今後も計画通り進める必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
水土里情報システムに蓄積されている利便性の高い農業関連情報は、農業関連事業を推進するために必要なシステムであり、今後も継続して進める必要がある。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020060

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 事業期間 平成28年度～令和9年度 受益面積 3,663ha 受益戸数 48戸 事業量 区画整理 3,663ha 事業費 12,000百万円 換地面積 2,870ha
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	土地基盤の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	網走開発建設部		関 係 課		#N/A	
事業指標	換地計画原案作成				#N/A	
事業目標	換地工区 5箇所		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内地区)	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武)	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内)	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内)	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内)	換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内)
	事業費(千円)	205,500	50,100	50,100	35,100	35,100
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	205,000	50,000	50,000	35,000	35,000
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	163	163			
	道支出金	46,409	29,564	16,845		
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 換地計画作成 (北幌内、北雄武、雄武、上幌内)	(実施内容等) 換地計画作成 (北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内)	(実施内容等)	(実施内容等)
	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区換地計画業務委託金					
	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	換地計画原案作成 3箇所	換地計画原案作成 4箇所	換地計画原案作成 5箇所	一時利用地の指定 5箇所	一時利用地の指定 5箇所
	年度達成率	59%	34%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	23%	23%	23%	23%
	備考欄					

事業名	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 巖太

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	国営事業受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	換地計画		
抱える課題やニーズ	耕作放棄地の発生、労働力不足		指標(指標計算式/解説)		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	国営事業における区画整理により、農地の大型化及び集積・集約化を促進し、労働時間の短縮や生産コストの大幅な削減を図り、農業の生産性の向上を図る		① 換地計画原案作成 一時利用地の指定	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	区画整理等により、土地の利用計画を計画的に再編し、経営規模の拡大を進めるなど、農業生産の基盤整備を推進し、農業の振興を図る			目標値	1式
内容(どのような手段で何を行ったか)	換地委員会の開催	換地設計基準、評価基準、一時利用地の指定に係る検討及び確定のための委員会を開催した。	実績値	1式	
	換地計画等の作成		達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
				目標値	式
				実績値	式
				達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	本事業は、農業生産の基盤整備を推進し農業の振興を図るものであり、本町酪農家の持続的発展を図る上で、必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本業務を進めるために必要な換地計画原案等の各種資料は、専門的知識を有する業者に委託し、関係資料の整備を図った。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	専門的知識を有する業者に委託業務を発注していることから、時間短縮・作業の軽減が図られており、当初の計画どおり事業が進められている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	事業の参加に当たっては受益者負担があることから、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
区画整理による農地の大型化により、労働時間の短縮や生産コストの削減等、生産性の向上が図られている。今後は、一層土地の流動化を進め効率的かつ安定的な農業経営の展開を図ることが必要である。	同左	

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持	
土地を計画的に再編し、農業生産の基盤整備及び開発等を進めることにより、農業の生産性の向上が図られ、農業構造の改善により経営基盤の強化に繋がることから、今後も継続して進める必要がある。	同左		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09020070

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	土地基盤の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	公用車導入事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	公用車購入				#N/A	
事業目標	車両 1台		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	公用車リース 1台	公用車リース料 1台	公用車リース料 1台	公用車リース料 1台	公用車リース料 1台	公用車リース料 1台
	事業費(千円)	4,029	900	777	784	784
計 画 事 業 費	財源内訳	4,029	900	777	784	784
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳	1,506	687	819	0	0
	国庫支出金	1,506	687	819		
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区事業推進調整等委託金	公用車のリース 1台	公用車のリース 1台			
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続(継続無し)	年度目標値	車両 1台	車両 1台	車両 1台	車両 1台
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	76%	105%	0%	0%	
	全体達成率	17%	37%	37%	37%	
	備考欄					

事業名	公用車導入事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	中西 巖太

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	公用車及び公用車を利用する職員		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	リース車両	
抱える課題やニーズ	国営緊急農地再編整備事業の着手により、農家及び開発との打合せ時の車両確保			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	迅速な車両確保による適切な打合せの実施		① リース車両導入台数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	適切な打合せの実施による国営緊急農地再編整備事業の円滑な推進			目標値	1台
			実績値	1台	
内容(どのような手段で何を行ったか)	リース契約による車両の導入	車両のリース契約により、車両1台を確保し、随時、農家及び開発との打合せを行っている	達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
	目標値				
	実績値				
達成度					

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	国営事業を円滑に進めるためには、随時受益者(農家)及び開発と打合せを行うことが必要であり、迅速に対応するための車両確保は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	突発的に行われる打合せ等にも、対応できており、国営事業が円滑に進められている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	リースによる導入を行うにあたり、整備及び装備について、必要最小限の内容としており、事業コストの削減を図っている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業打合せ等に利用する専用車両であるが、安全性、機能性に優れている車両であり、緊急時に供用車として利用できることから、公平と判断できる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
車両の確保により、受益者(農家)及び開発と随時打合せを行うことができ、国営緊急農地再編整備事業が円滑に執り進められていることから、今後も計画どおり進める必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
国営事業を円滑に進めるためには、工事内容、工事時期、換地計画など、受益者、開発、町が随時打合せ等を行い進める必要があり、その際使用する車両を迅速に確保することが必要であるため、今後も継続して進める必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 査

様式 1

No. 09030010

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	令和5年度～令和9年度 間伐、更新伐、造林、下刈、標準地調査
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	町有林整備事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	森林施策の計画的推進		#N/A	
事業目標	森林資源の育成	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	有 森林経営計画	

計 画 内 容	全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度					
	事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容					
計 画 内 容	間伐	209.88ha	間伐	38.20ha	間伐	43.64ha	間伐	46.64ha	間伐	43.44ha	間伐	38.48ha
	更新伐	90.00ha	更新伐	6.00ha	更新伐	18.00ha	更新伐	18.00ha	更新伐	18.00ha	更新伐	18.00ha
	造林	45.00ha	造林	6.00ha	造林	9.00ha	造林	9.00ha	造林	9.00ha	造林	9.00ha
	下刈	552.70ha	下刈	100.06ha	下刈	103.09ha	下刈	103.09ha	下刈	112.22ha	下刈	104.30ha
	標準地調査		標準地調査		標準地調査		標準地調査		標準地調査		標準地調査	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	180,379	31,779	33,200	39,700	38,700	37,000					
	財源内訳											
	国庫支出金	0										
	道支出金	116,451	20,651	20,790	25,805	25,155	24,050					
	地方債	0										
その他	42,233	8,765	8,468	8,700	8,400	7,900						
一般財源	21,695	2,363	3,942	5,195	5,145	5,050						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	67,326	31,671	35,655	0	0	0					
	財源内訳											
	国庫支出金	0										
	道支出金	47,359	19,967	27,392								
	地方債	0										
その他	18,631	10,368	8,263									
一般財源	1,336	1,336										
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)					
	町有林除間伐事業補助金	【 評 価 ・ 実 績 】	間伐 62.88ha	間伐 43.64ha								
	町有林更新伐事業補助金		更新伐 6.00ha	更新伐 18.00ha								
	町有林造林事業補助金		造林 6.00ha	造林 18.00ha								
	町有林下刈事業補助金		下刈 100.06ha	下刈 103.90ha								
	町有林素材売払収入		標準地調査									
二トリ北海道応援基金助成金		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果						
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持									
第5期計画からの継続	年度目標値	森林施業面積 A=150.26ha	森林施業面積 A=182.70ha	森林施業面積 A=185.18ha	森林施業面積 A=182.66ha	森林施業面積 A=169.78ha						
(継続有り)	年度達成率	100%	107%	0%	0%	0%						
後期計画への継続	全体達成率	18%	37%	37%	37%	37%						
(継続有り)	備考欄											

事業名	町有林整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町有林整備面積		
抱える課題やニーズ	森林の持つ多面的な機能を高度に発揮させるため、下刈、間伐、更新伐等を行う必要がある。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	国土の緑化及び森林資源の確保		① 町有林整備実施面積÷町有林整備計画面積	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	人工林の健全な育成			目標値	182.70 ha
内容(どのような手段で何を行ったか)	材の売払い	町有林の伐採で生じた材の売払いを実施した。	実績値	183.54 ha	
	町有林整備の実施(間伐、更新伐、造林、下刈)		達成度	100.5 %	
	標準地調査の実施		翌年度実施する間伐箇所の標準地調査を委託し、森林調査簿との比較や材積実態を把握し、翌年度の参考とした。	②	目標年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	森林資源の確保や国土の保全など森林の持つ多面的な機能の有効活用を図るべく、町有林施策を行う必要がある。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的な機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	森林環境保全整備事業の対象事業であり、北海道が示す標準単価を参考にしていることから、事業コストは妥当である。また、補助金収入と材の売払収入、ニトリ北海道応援基金助成金を充て、事業を実施することができた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民の財産である町有林が持つ多面的な機能の恩恵を誰もが享受しているため公平である。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業の実施で、森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的な機能が高度に発揮されることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
町有林整備は、町有財産の形成のみならず、林業生産力の向上や地域経済への効果が見込まれるものであることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030020

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 人工造林
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町森林組合	関 係 課	#N/A	
事業指標	無立木地等での造林施策の推進		#N/A	
事業目標	人工造林 70ha/年	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	有 森林経営計画	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	無立木地等への人工造林に対する補助 人工造林 350ha	無立木地等への人工造林に 対する補助 人工造林 70ha	無立木地等への人工造林に 対する補助 人工造林 70ha	無立木地等への人工造林に 対する補助 人工造林 70ha	無立木地等への人工造林に 対する補助 人工造林 70ha	無立木地等への人工造林に 対する補助 人工造林 70ha
	事業費(千円)	61,100	12,220	12,220	12,220	12,220
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	37,600	7,520	7,520	7,520	7,520
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	23,500	4,700	4,700	4,700	4,700
実 績 事 業 費	事業費(千円)	24,434	12,218	12,216	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	15,037	7,519	7,518		
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	9,397	4,699	4,698		
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	未来につなぐ森づくり推進 事業補助金	人工造林 71.82ha 春26.10ha 秋45.72ha	人工造林 75.82ha 春32.610ha 秋43.21ha			
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 人工造林 70ha	人工造林 70ha	人工造林 70ha	人工造林 70ha	人工造林 70ha
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 100%	100%	0%	0%	0%
	全体達成率 20%	40%	40%	40%	40%	
	備考欄					

事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積	
抱える課題やニーズ	地球温暖化防止への貢献や国土保全機能の向上		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させる森林施業の実施	① 造林実施面積÷造林計画面積	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	北海道らしい豊かな「ふるさとの山」の創造		目標値	70 ha
内容(どのような手段で何を行ったか)	補助金の交付	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた造林事業のうち、雄武町森林組合が受託受任して行った造林事業に対して補助した。町が造林事業費の26%を補助し、北海道から町へ造林事業費の16%が補助された。	実績値	75.82 ha
			達成度	108.3 %
			目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林所有者の森林施業に対する意欲の維持と無立木地や伐採跡地の解消を図るべく、適切な森林の更新と木材資源の循環を促進し、北海道らしい豊かな山づくりを推進する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林所有者の森林施業に対する意欲の維持と無立木地や伐採跡地の解消を図るべく、適切な森林の更新と木材資源の循環を促進し、北海道らしい豊かな山づくりを推進する必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	本事業の適用となる町の負担割合は、未来につなぐ森づくり推進事業実施要領で定められており、町が事業の基準を満たせるよう補助した結果、北海道から補助を受けることができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象となる事業を実施した森林所有者を対象としており、森林所有者も事業費の一部を負担している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林所有者の負担軽減を図るとともに森林施業を促進し、多面的機能を持つ森林を育成する事業であることから、目標を維持できるよう森林所有者へ働きかけを行い、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
森林施業が推進されることで、本町の林業生産力の向上に繋がるとともに、環境の保全が図られることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030030

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和6年度 管理審査 令和7年度 森林認証取得 令和8年度～令和9年度 管理審査
基本施策	2	林業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	森林認証取得管理事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	町有林の森林認証取得及び管理				#N/A	
事業目標	森林認証面積 2,728ha		ハート/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

		全 体 計 画	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	町有林の森林認証取得及び管理審査		管理審査	管理審査	森林認証取得	管理審査	管理審査
	事業費(千円)	990	100	100	590	100	100
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	990	100	100	590	100	100
実 績 事 業 費	事業費(千円)	158	81	77	0	0	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	158	81	77			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 管理審査 2,728ha	(実施内容等) 管理審査 2,728ha	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 森林認証面積 2,728ha	81%	77%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	8%	16%	16%	16%	16%

事業名	森林認証取得管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町有林の森林認証面積	
【抱える課題やニーズは】	地域材の需要や木材価格の低迷		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域材のブランド化と地材地消による地場産材の利用促進	① 森林認証取得面積÷森林認証計画面積	目標年度	令和元年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	林業の振興と地域生産力の向上		目標値	2,728 ha
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	森林認証管理審査	西紋地域では雄武町、興部町、西興部村、雄武町森林組合、オホーツク中央森林組合で協議会(オホーツクフォレストネットワーク)に加盟して協定を締結し、それぞれが所有若しくは管理する森林を対象に、地域の取組として森林認証の取得を進め、平成27年度に協議会で再取得した民有林(町有林、私有林)の森林認証管理審査を受けた。	実績値	2,728 ha
	負担金の支出		達成度	100.0 %
			管理審査で必要になる負担金を協議会へ支出した。	目標年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林資源の確保や国土の保全など森林の持つ多面的な機能の有効活用を図るべく、地域材のブランド化や地材地消による地場産材の利用を推進し、林業の振興、地域生産力の向上を目指すため必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林認証管理審査の結果、民有林を適切に維持管理していることが証明された。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	雄武町、興部町、西興部村、雄武町森林組合、オホーツク中央森林組合で協議会(オホーツクフォレストネットワーク)に加盟し地域が一体となって民有林を維持管理していることから、単独で認証取得や管理審査を受けるよりも経費の節減が図られている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	雄武町、興部町、西興部村、雄武町森林組合、オホーツク中央森林組合で取得面積割合に応じて経費を負担している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
オホーツクフォレストネットワークで森林認証の管理審査を受けた結果、民有林を適切に維持管理していることが証明されたので、今後も地域材のブランド化、林業の振興、地域生産力の向上を目指す取組として共同で進めていくことが適当と判断する。		



継続/現状維持		
本事業は、認証取得による地域材のブランド化、地材地消による地場産材の利用促進を図ることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030040

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	令和5年度～令和9年度 私有林の除間伐、下刈、枝打ちに対する補助
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	森林整備推進事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町森林組合	関 係 課	#N/A	
事業指標	私有林の除間伐、下刈、枝打ちの推進		#N/A	
事業目標	森林所有者の負担軽減(概ね負担率 30%以下)	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	有 森林経営計画	

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	除間伐(切捨)、下刈、枝打ちに対する補助	除間伐、下刈、枝打ちに対する補助	除間伐、下刈、枝打ちに対する補助	除間伐、下刈、枝打ちに対する補助	除間伐、下刈、枝打ちに対する補助	除間伐、下刈、枝打ちに対する補助
	除間伐 272ha 下刈 1,107ha 枝打ち 0ha	除間伐 22ha 下刈 187ha 枝打ち 0ha	除間伐 50ha 下刈 230ha 枝打ち 0ha	除間伐 60ha 下刈 230ha 枝打ち 0ha	除間伐 70ha 下刈 230ha 枝打ち 0ha	除間伐 70ha 下刈 230ha 枝打ち 0ha
計 画 事 業 費	事業費(千円)	9,071	1,221	1,800	1,930	2,060
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	9,071	1,221	1,800	1,930	2,060	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,844	1,229	1,615	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,844	1,229	1,615			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	除間伐、下刈事業に対する補助	除間伐、下刈事業に対する補助			
		除間伐 25.67ha 下刈 179.03ha	除間伐 53.03ha 下刈 185.04ha			
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
		自己負担 概ね30%以下				
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	101%	90%	0%	0%	
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	14%	31%	31%	31%	
	全体達成率					
	備考欄					

事業名	森林整備推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	自己負担率								
抱える課題やニーズ	森林所有者の森林施業意欲が希薄化しており、必要な森林施業が行き届かない森林が発生している。	指標(指標算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	森林所有者の森林施業意欲向上と負担軽減	① 実績値 軽減後の自己負担額÷総事業費 達成率 (2-実績値÷目標値)×100	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>30%以下</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>176.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	30%以下	実績値	7.2%	達成度	176.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	30%以下										
実績値	7.2%										
達成度	176.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	多面的機能の高い森林の育成及び健全な森づくりの推進	②	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	森林所有者への事業費補助	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた除間伐、下刈事業で、かつ、雄武町森林組合が受託受任して実施した事業のうち、要件を満たす林分を整備する事業に対して補助した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林施業意欲向上のため、森林所有者の負担軽減を図ることで、森林所有者の施業意欲の向上に繋がり、多面的機能の高い森林育成を促進していくことから必要性は高い。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	地域林業の振興や森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	森林環境保全整備事業の対象となった除間伐、下刈事業に対する補助であり、北海道が示す標準単価を参考にしていることから、事業コストは妥当である。また、森林所有者の負担軽減に繋がる範囲の補助とした。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象となる事業を実施した森林所有者を対象としており、森林所有者も事業費の一部を負担している。
公平/概ね公平 /公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林所有者の負担軽減を図った結果、適切な森林管理が行われ、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与したことから、森林所有者へ今後さらに働きかけを行い、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持	多面的機能を有する森林を育成するため、森林施業を推進するうえで、森林所有者の負担軽減を図ることは有効であることから、継続して実施すべき事業である。
---------	---

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030050

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 奨励金の支給
基本施策	2	林業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	森林整備担い手対策推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	北海道造林協会		関 係 課		#N/A	
事業指標	支給対象件数		ハート/ソフト 事業区分		#N/A	
事業目標	16件/年		関 係 例 規 ・ 法 令 名	有	北海道森林整備担い手対策基金条例(森林作業員就業条件整備事業)	
町民参加 町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

		全 体 計 画	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	奨励金の支給		奨励金の支給	奨励金の支給	奨励金の支給	奨励金の支給	奨励金の支給
	計 画 事 業 費	事 業 費 (千円)	1,200	240	240	240	240
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	1,200	240	240	240	240
		事 業 費 (千円)	350	174	176	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 奨励金の支給 11件 (対象者14人)	(実施内容等) 奨励金の支給 11件 (対象者12人)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【 評 価 ・ 実 績 】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	16件	16件	16件	16件	16件
		年度達成率	73%	73%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	15%	29%	29%	29%	29%
		備考欄					

事業名	森林整備担い手対策推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	林業従事者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	奨励金の支給件数								
抱える課題やニーズ	林業従事者の減少と高齢化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	林業従事者の就労の長期化と安定化	① 支給件数÷支給計画件数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>68.8%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	16件	実績値	11件	達成度	68.8%
目標年度	令和元年度										
目標値	16件										
実績値	11件										
達成度	68.8%										
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果=目的	林業の振興と地域生産力の向上	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を 行ったか)	補助金の交付	森林整備担い手対策推進事業に係る町の補助金を北海道森林整備担い手支援センターに対して交付した。北海道森林整備担い手支援センターが作業員に対して、就労日数に応じた奨励金を年末に支給した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	林業従事者の減少や高齢化の現状から、従事者の意欲の維持・向上と就労の長期化・安定化を促進し、林業労働力の確保を図るべく、町が助成する必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	就労している林業従事者の勤労意欲の低下が避けられ、就労の長期化・安定化と労働力の確保に寄与したが、事業利用者が減少傾向で、支給件数が目標に達しなかったことから、今後も事業の普及・促進が必要である。
有効/概ね有効 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	森林作業員、事業主、市町村及び北海道の負担割合は、森林作業員就業条件整備事業で定められており、それぞれが一定の掛金等を負担した場合、作業員に奨励金が支給され、町の負担は、この事業の基準に沿った金額である。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	森林作業員、事業主、市町村及び北海道が森林作業員就業条件整備事業に基づき負担している。
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林作業員の就労の長期化、安定化及び福利厚生への向上を目的とし、地域生産力の向上を誘発する事業であることから、目標を達成するため事業の普及・促進に努めつつ、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
近年の林業を取り巻く状況は厳しいものがあり、林業従事者の減少・高齢化とも相まって本町林業の相対的な活力の低下が懸念される一方で、林業事業体の体質強化や林業従事者の確保を図っていく必要があるため、現状維持が適当である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030060

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 振動障害検診に対する助成
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	林業担い手対策事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町林業親交会	関 係 課	#N/A	
事業指標	林業従事者の就業の長期化		#N/A	
事業目標	振動障害検診の受診 16名/年	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	振動障害検診に対する助成	振動障害検診に対する助成	振動障害検診に対する助成	振動障害検診に対する助成	振動障害検診に対する助成	振動障害検診に対する助成	
	事業費(千円)	528	104	106	106	106	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	528	104	106	106	106	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	194	97	97	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	194	97	97			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 振動障害検診に対する助成 17名	(実施内容等) 振動障害検診に対する助成 15名	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率	93%	92%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	18%	37%	37%	37%	37%

事業名	林業担い手対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	林業従事者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	振動障害検診の受診者数								
抱える課題やニーズ	林業従事者の減少と高齢化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	林業従事者の就労の長期化と安定化	① 検診受診者数÷検診受診予定者数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>93.8%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	16名	実績値	15名	達成度	93.8%
目標年度	令和元年度										
目標値	16名										
実績値	15名										
達成度	93.8%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	林業の振興と地域生産力の向上	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	補助金の交付	林業従事者がチェーンソー等による振動障害の早期発見と予防を図るために受診する振動障害検診に対して、検診に係る費用の半額を町が補助した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	林業従事者の減少や高齢化の現状から、従事者の意欲の維持・向上と就労の長期化・安定化を促進し、林業労働力の確保を図るべく、町が助成する必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	定期的に検診を受診することで振動障害の早期発見に繋がり、就労の長期化・安定化並びに労働力の確保に寄与した。
有効/概ね有効 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	林業従事者の減少や高齢化の現状から、就労の長期化・安定化を促進し、林業労働力の確保を図るための取り組みとして、振動障害検診の半額を町が助成するもので、事業の必要性から町が費用を折半するのは妥当である。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	林業に従事する作業員全てを対象としている。また、作業員も負担している。
公平/概ね公平 /公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林作業員の就労の長期化、安定化及び福利厚生向上を目的とし、地域生産力の向上を誘発する事業であることから、目標を達成するため事業の普及・促進に努めつつ、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
近年の林業を取り巻く状況は厳しいものがあり、林業従事者の減少・高齢化とも相まって本町林業の相対的な活力の低下が懸念されるところであり、林業事業体の体質強化や林業従事者の確保を図っていく必要があるため、現状維持が適当である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030070

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事 業 優 先 度	B	令和5年度～令和9年度 殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助
単位施策	1 生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	野ねずみ駆除事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町、雄武町森林組合	関 係 課	#N/A	
事業指標	町有林の野ねずみ駆除、民有林の事業推進		#N/A	
事業目標	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減	ハート／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無	
町民協働		関 係 個 別 計 画 名	有 森林経営計画	

	全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
	事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助		殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	
	計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,308	207	243	264	286	
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	0					
		道支出金	216		54	56	61	
		地方債	0					
		その他	0					
		一般財源	1,092	207	189	208	225	263
関 連 事 項	財 源 内 訳	事業費(千円)	443	206	237	0	0	
		国庫支出金	0					
		道支出金	70		70			
		地方債	0					
		その他	0					
		一般財源	373	206	167			
【 評 価 ・ 実 績 】	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	町有林野ねずみ駆除 事業補助金		殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する補助				
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持				
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減
		年度達成率	100%	98%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	16%	34%	34%	34%	34%	
		備考欄						

事業名	野ねずみ駆除事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	私有林、町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	殺鼠剤の空中散布回数																						
抱える課題やニーズ	カラマツが野ねずみから食害を受ける。	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td> <table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td>100.0%</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>②</td> <td> <table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	目標値及び実績値		①	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%	②	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標値及び実績値																									
①	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td>1回</td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%																
目標年度	令和元年度																								
目標値	1回																								
実績値	1回																								
達成度	100.0%																								
②	<table border="1"> <tr> <th>目標年度</th> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <th>目標値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>実績値</th> <td></td> </tr> <tr> <th>達成度</th> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度																	
目標年度	令和元年度																								
目標値																									
実績値																									
達成度																									
どのような状態になることを目指したのか(意図)	被害の未然防止	散布回数÷計画回数																							
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	人工林の健全な育成と森林資源の確保																								
内容(どのような手段で何を行ったか)	私有林の野ねずみ駆除事業に対する補助	殺鼠剤散布に伴う森林所有者の費用負担が大きいため、野ねずみ駆除事業費の一部を補助した。																							
	町有林の野ねずみ駆除事業の実施	上沢木、沢木地区、幌内の町有林(カラマツ)の食害防止を図るため、殺鼠剤散布を実施した。																							

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	私有林、町有林のカラマツを保護するため、殺鼠剤を空中散布し、樹木の食害を未然に防止するものであることから、必要性は高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	野ねずみによる樹木の食害が減少し、私有林及び町有林の資源確保が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	ヘリコプターでの殺鼠剤散布は、管内の他市町村と連携して取り組んでおり、管内一括でヘリコプターを借り上げることで、借上料も抑えられている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町有林や私有林が持つ多面的機能の恩恵を誰もが享受しているため公平である。また、森林所有者も事業費の一部を負担している。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
私有林、町有林のカラマツを保護するため、殺鼠剤を空中散布し、樹木の食害を未然に防止するものであり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
殺鼠剤の散布を実施することで、樹木の食害が減少し、私有林、町有林の資源確保が図られるとともに、本町の林業生産力の向上に繋がる事業であることから、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030090

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 認証林造林に対する補助
基本施策	2 林業の振興	事 業 優 先 度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	認証林を育む森づくり促進事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	認証林の取得促進		#N/A	
事業目標	認証林造林 70ha/年	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関 係 例 規 ・ 法 令 名	有	認証林を育む森づくり促進事業実施要綱
町民協働		関 係 個 別 計 画 名	無	

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	伐採跡地、未立木地への認証林造林に対する補助 認証林造林 350ha	伐採跡地、未立木地への 認証林造林に対する補助 認証林造林 70ha					
	計 画 事 業 費	事 業 費 (千円)	11,900	2,380	2,380	2,380	2,380
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	11,900	2,380	2,380	2,380	2,380
		合計	11,900	2,380	2,380	2,380	2,380
関 連 事 項	特定財源の名称	事 業 費 (千円)	4,699	2,350	2,349	0	0
		国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	4,699	2,350	2,349		
【 評 価 ・ 実 績 】		(実施内容等)	人工造林 71.82ha	人工造林 75.82ha			
		※事務事業評価結果	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
		第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 認証林造林 70ha	年度達成率 99%	99%	0%	0%
		後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 20%	39%	39%	39%	39%
		備考欄					

事業名	認証林を育む森づくり促進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積								
抱える課題やニーズ	無秩序な伐採や再造林が行われない跡地の発生が懸念されるとともに認証取得が伸び悩んでいる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	森林の荒廃や伐採跡地の発生防止と適切な森林の更新及び認証林の拡大	① 造林実施面積÷造林計画面積	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>70 ha</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>75.82 ha</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>108.3 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	70 ha	実績値	75.82 ha	達成度	108.3 %
目標年度	令和元年度										
目標値	70 ha										
実績値	75.82 ha										
達成度	108.3 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	収穫期を迎えた森林の伐採から跡地造林という森づくりのサイクルの維持及び地域林業の振興と活性化並びに認証林の拡大	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	森林所有者への事業費補助	雄武町森林組合が受託受任して実施した造林事業のうち、森林認証を取得済みの森林、又は、当該年度において取得が確実な森林に対し、町が補助した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	豊かな森林資源を有する本町の森林において、森林の適切な管理による公益的な機能の高度発揮を図るため、より一層の認証林の拡大を図り、森林認証を通じた豊かな森づくりを促進する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	私有林の森林整備が促進され、地域林業の振興や森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、併せて、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	森林環境保全整備事業の対象となった造林に対する補助であり、北海道が示す標準単価を参考にしていることから、事業コストは妥当である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	公共造林事業を実施した森林所有者を対象としており、森林所有者も事業費の一部を負担しているため公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林認証を通じた豊かな森づくりを推進することで、森林がもつ公益的な機能の高度発揮が図られ、森林の適切な管理の促進と認証林の拡大が期待できる。		



継続/現状維持		
本事業を実施することで、適切な森林管理が促進され、私有林の森林認証取得率の向上と豊かな森づくりにつながることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030100

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 GISシステム保守、クラウドシステム接続負担金
基本施策	2	林業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	4	法定自治事務	
事業名	林地台帳整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	台帳情報の精査と整備				#N/A	
事業目標	台帳の適切な管理		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	森林法・森林法施行令・森林法施行規則	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	台帳原案の精査 台帳地図の精査 GISシステム改修 GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	台帳原案の精査 台帳地図の精査 GISシステム改修 GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	
	事業費(千円)	4,035	2,900	259	292	292	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0	0				
	地方債	0					
	その他	0					
事業費(千円)	4,035	2,900	259	292	292		
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
事業費(千円)	3,081	2,825	256	0	0		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 台帳原案の精査 台帳地図の精査 GISシステム改修 GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	(実施内容等) GISシステム保守 クラウドシステム接続負担金	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	台帳の適切な管理	台帳の適切な管理	台帳の適切な管理	台帳の適切な管理	台帳の適切な管理
		年度達成率	97%	99%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	70%	76%	76%	76%	76%
		備考欄					

事業名	林地台帳整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	林地台帳		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	台帳の適切な管理	
抱える課題やニーズ	平成28年5月の森林法改正により、各市町村が統一的な基準に基づき、台帳を整備し公表する制度が創設されたことに伴い、台帳を整備する必要がある。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	統一的な基準に基づいた森林台帳の整備		① 台帳の適切な管理	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	森林所有者に関する情報の精度向上			目標値	1式
内容(どのような手段で何を行ったか)	GISシステムの保守、データ更新	北海道所有の林小班図形データ及び照査簿データを森林情報管理システムに取り込み、内容の更新を行う。	②	実績値	1式
				達成度	100.0 %
				目標年度	令和元年度
				目標値	
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	平成28年5月の森林法改正により、各市町村が統一的な基準に基づき、台帳を整備し公表する制度が創設されたことに伴い、台帳を整備する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	施業位置図や各種計画への添付資料としての活用が可能となり、事務の短縮が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	森林台帳の閲覧を森林所有者や、森林経営計画の受託者が利用でき、森林施業の集約化など、効率的な施業に寄与できる。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	森林所有者や土地所有者等が利用できるため公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
航空写真へ林班界や地番界を落とし込むんでいるため、活用の幅が広がったが、本システムに使用する航空写真はH12撮影のものであり、現況とはかけ離れている。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
今回整備した、森林台帳システムを安定的に運用するために、保守は必須であることから、継続して実施すべき事業であるが、より精度を上げるため、航空写真の更新が必要と思われる。	同左	

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030101

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 雄武町森林環境譲与税基金積立金 森林整備(間伐他)
基本施策	2	林業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	生産体制の強化	政 策 事 務 分 類	4	法定自治事務	
事業名	森林環境譲与税活用事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	森林整備及びその促進				#N/A	
事業目標	地域の実情に応じた事業の実施		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	森林経営管理法、雄武町森林環境譲与税基金条例	
町民協働			関係個別計画名	有	森林経営計画	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年 度 事 業 内 容	令和 2 年 度 事 業 内 容	令和 3 年 度 事 業 内 容	令和 4 年 度 事 業 内 容												
計 画 内 容	<p>森林環境譲与税(仮称)は、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てることとされており、この貴重な財源を活用し森林整備等を着実に進め、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄武町森林環境譲与税基金条例の制定 ・雄武町森林環境譲与税基金積立金 ・意向調査(対象森林所有者) ・森林整備(間伐、新たな森林経営管理制度に要する費用等) ・森林整備の推進(人材育成・担い手確保、木材利用の促進、普及啓発) 	<p>基金条例制定 雄武町森林環境譲与税基金積立金 11,853千円 (譲与税 11,853千円) 意向調査 400千円</p>	<p>雄武町森林環境譲与税基金積立金 11,853千円 (譲与税 11,853千円) 意向調査 1,000千円 (基金繰入金 1,000千円)</p>	<p>雄武町森林環境譲与税基金積立金 11,853千円 (譲与税 11,853千円) 森林整備(間伐他) 20,000千円 (基金繰入金 20,000千円)</p>	<p>雄武町森林環境譲与税基金積立金 17,780千円 (譲与税 17,780千円) 森林整備(間伐他) 20,000千円 (基金繰入金 20,000千円)</p>													
	<p>事業費(千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国庫支出金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>道支出金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>地方債</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">94,786</td></tr> <tr><td>一般財源</td><td style="text-align: right;">400</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">95,186</td></tr> </table>	国庫支出金	0	道支出金	0	地方債	0	その他	94,786	一般財源	400	合計	95,186	0	12,700	12,853	31,853	37,780
国庫支出金	0																	
道支出金	0																	
地方債	0																	
その他	94,786																	
一般財源	400																	
合計	95,186																	
実 績 事 業 費	<p>事業費(千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国庫支出金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>道支出金</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>地方債</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11,853</td></tr> <tr><td>一般財源</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">11,864</td></tr> </table>	国庫支出金	0	道支出金	0	地方債	0	その他	11,853	一般財源	11	合計	11,864	0	11,864	0	0	0
	国庫支出金	0																
道支出金	0																	
地方債	0																	
その他	11,853																	
一般財源	11																	
合計	11,864																	
関 連 事 項	<p>特定財源の名称</p> <p>森林環境譲与税 雄武町森林環境譲与税 基金繰入金</p>	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)												
			<p>・意向調査(対象森林所有者) 160名中57名の回答 回答率35.6%</p>															
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果												
			<p>B-継続/拡充 意向調査の実施</p>	意向調査の実施	対象事業の実施 2事業	対象事業の実施 2事業												
	<p>第5期計画からの継続 (継続無し)</p>		<p>年度目標値</p> <p>年度達成率</p>	#DIV/0!	93%	0%	0%	0%										
<p>後期計画への継続 (継続有り)</p>	<p>全体達成率</p> <p>備考欄</p>	0%	12%	12%	12%	12%												

事業名	森林環境譲与税活用事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	森林経営者、森林事業者など、森林施業に関わる者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	意向調査の実施の有無								
抱える課題やニーズ	森林経営者の自己負担軽減、林業事業者の経営改善、林業従事者の雇用改善、林業全般における担い手不足の解消など、森林経営環境において抱える諸問題の全て	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町内の森林全てが、その機能を効率よく発揮させるための基盤となる、森林所有者の森林経営意欲の向上、林業従事者の担い手不足が解消されるなど、林業全般に渡る諸問題の解決が図られること	① 回答数÷意向調査対象数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>50%</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>35.6%</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>71.2%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	50%	実績値	35.6%	達成度	71.2%
目標年度	令和元年度										
目標値	50%										
実績値	35.6%										
達成度	71.2%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	林業全般の活性化が、森林の多面的機能の発揮につながり、しいては、地球環境問題の緩和の一助となり、そして、これらの全てが、町民の生命財産を守ることにつながる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	意向調査	郵送により森林経営意向調査を実施し、管理受託可能者を選定し、交渉の準備を執り進める									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	環境譲与税の創設を受け、市町村が担う町内山林の環境整備を行う必要がある
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		調査によって、意向を確認できたので、今後の計画立案のため有効である
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		意向調査は、郵送にて実施したため、事業コストは妥当である
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		一定基準に基づく意向調査であることから、公平である
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
意向調査の回答率としては低いですが、現時点において、意向ありと回答をいただいた方と現在既に施業実施方の潜在事業量にて、当面の事業量は確保できるため、問題はない。	同左	

<p>今後の展開方向 (Action)</p>	↓	↓	↓
継続/拡充	継続/拡充	継続/拡充	継続/拡充
環境譲与税を活用した、新規事業を創設し、施業推進、経営基盤安定化対策、雇用対策など多方面に渡る支援を展開する。	同左		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030110

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 敷地内刈払い ほか
基本施策	2	林業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	多面的機能の発揮	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	生活環境保全林維持管理事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	造林木の正常な生長の確保、保健保安林の機能向上				#N/A	
事業目標	生活環境保全林の適正な維持管理 刈払いA=8.48ha/年		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	敷地内刈払い A=42.4ha ウッドチップ敷設 20㎡	敷地内刈払い A=8.48ha	敷地内刈払い A=8.48ha	敷地内刈払い A=8.48ha ウッドチップ敷設 20㎡	敷地内刈払い A=8.48ha	敷地内刈払い A=8.48ha
	事業費(千円)	10,480	2,060	2,060	2,240	2,060
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	10,480	2,060	2,060	2,240	2,060	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,929	1,997	1,932	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	3,929	1,997	1,932			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 敷地内刈払い A=8.48ha	(実施内容等) 敷地内刈払い A=8.48ha	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	刈払い A=8.48ha	刈払い A=8.48ha	刈払い A=8.48ha	刈払い A=8.48ha
		年度達成率	97%	94%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	19%	37%	37%	37%
	備考欄					

事業名	生活環境保全林維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	生活環境保全林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	下刈面積								
抱える課題やニーズ	林内に雑草が繁茂し、成長した樹木の枝が陽光を遮り、鬱蒼としている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	林内の環境の良好な保持と樹木の健全な生育	① 下刈実施面積÷下刈計画面積	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>8.48 ha</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>8.48 ha</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	8.48 ha	実績値	8.48 ha	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	8.48 ha										
実績値	8.48 ha										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	保健保安林の環境維持、散策などの保健休養林としての利用	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	維持管理の委託	林内の環境維持を図るため刈払いなどを委託した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	保健保安林の機能向上と保健休養林として快適な利用ができるよう、林内環境を良好に維持するため、刈払いなどを行う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	林内の環境が良好に維持され、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	北海道が示す標準単価を参考にして刈払いなどを委託していることから、コストは妥当であり、必要最小限の内容になっている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	生活環境保全林は誰でも利用することができる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
生活環境保全林が良好に維持され、森林の持つ多面的機能が高度に発揮されることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
生活環境保全林を快適かつ安全に利用できるよう適切な維持管理を実施することで、保健保安林の機能向上が図られることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030120

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 路肩草刈、排水清掃、枝落し ほか
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 多面的機能の発揮	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	林道維持管理事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	林道の適切な維持管理		#N/A	
事業目標	林道の安全な通行	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年 度 事 業 内 容	令和 2 年 度 事 業 内 容	令和 3 年 度 事 業 内 容	令和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	路肩草刈、排水清掃、枝落し	路肩草刈、排水清掃、枝落し	路肩草刈、排水清掃、枝落し	路肩草刈、排水清掃、枝落し	路肩草刈、排水清掃、枝落し	路肩草刈、排水清掃、枝落し
	上雄武線林道整備工事 北隆線林道維持補修工事 奥幌内本流線林道維持補修工事 ピヤシリ越線林道復旧工事 共立線林道維持補修工事 西武線林道維持補修工事	上雄武線林道整備工事 ・橋梁前後沈下解消 L=20m	北隆線林道維持補修工事	奥幌内本流線林道維持補修工事 ピヤシリ越線林道復旧測量設計	ピヤシリ越線林道復旧工事	共立線林道維持補修工事 西武線林道維持補修工事
計 画 事 業 費	事業費(千円)	43,456	3,456	5,400	9,400	19,800
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	5,000				5,000
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	38,456	3,456	5,400	9,400	14,800	5,400
実 績 事 業 費	事業費(千円)	8,694	3,456	5,238	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	8,694	3,456	5,238			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	(仮称)林道点検診断・保全整備事業補助金	【評価・実績】	路肩草刈、排水清掃、枝落し 上雄武線林道整備工事 ・橋梁前後沈下解消 L=20m	砂利敷、横断トラフ清掃 北隆線他林道維持補修工事		
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	無事故	無事故	無事故	無事故
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率				
	全体達成率	100%	97%	0%	0%	
	備考欄	8%	20%	20%	20%	

事業名	林道維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口敦史

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	林道の通行者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	無事故								
抱える課題やニーズ	林道の路肩に草・灌木が繁茂し、見通しが悪く、また、林道の経年劣化で車両通行上危険な箇所がある	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	安全性と快適性の確保	① 事故発生件数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>0件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	0件	実績値	0件	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	0件										
実績値	0件										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	通行者の安全確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	維持管理の委託	林道通行者の安全確保などを図るため、北隆線ほか林道の路肩草刈や支障となる枝払いを行う委託業務を実施した。									
	工事の実施	砂利敷、横断トラフ清掃を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	林道は林業経営のみならず、レクリエーション・教育・保健休養など様々な形で利用されており、通行者の安全確保と防災上の観点からも林道の維持管理、補修は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	橋梁前後の沈下解消工事と路肩草刈や支障木整理を行った結果、危険箇所が解消され、通行者の安全確保が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	利用頻度の高い路線や危険箇所がある路線を優先的に補修、路肩草刈は1回実施とし、利用頻度を考慮した最小限の維持管理を実施した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	林道は誰でも利用することができる。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
通行者の安全確保のみならず、防災上の観点からも林道の維持管理、補修は必要であり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
森林の維持管理や森林施業のため必要な基盤施設であり、通行者の安全確保を図るうえで、維持管理や補修を継続して実施する必要があることから、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030130

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 育樹祭の開催、植樹祭会場下刈
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 多面的機能の発揮	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	みどりと親しむ町民のつどい	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	みどりととのふれあい		#N/A	
事業目標	参加人数 50名	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	関係例規・法令名	無	
町民協働	植樹祭の開催	関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	植樹祭の開催 植樹祭会場下刈 9.6ha	植樹祭の開催 植樹祭会場下刈 2.0ha	植樹祭の開催 植樹祭会場下刈 2.2ha	育樹祭の開催 植樹祭会場下刈 2.0ha	育樹祭の開催 植樹祭会場下刈 1.8ha	育樹祭の開催 植樹祭会場下刈 1.6ha
	事業費(千円)	4,870	990	1,030	990	910
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	4,870	990	1,030	990	910	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,060	945	1,115	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,060	945	1,115			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 植樹祭の開催 参加者数 46名 植樹祭会場下刈 2.0ha	(実施内容等) 植樹祭の開催 参加者数 46名 植樹祭会場下刈 2.0ha	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果	A-継続/内容の見直し・変更	B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	参加人数 50名	参加人数 50名	参加人数 50名	参加人数 50名	参加人数 50名	
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 95%	108%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 19%	42%	42%	42%	42%	
	備考欄					

事業名	みどりと親しむ町民のつどい	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	植樹祭参加者数								
抱える課題やニーズ	自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	植樹や育樹の緑化活動の実施	① 植樹祭参加者数÷植樹祭参加目標数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>46名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>92.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	50名	実績値	46名	達成度	92.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	50名										
実績値	46名										
達成度	92.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	町民の緑化思想の高揚を図り、「みどり」の大切さを理解し、守り育てる。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	<table border="1"> <tr> <td>植樹祭の準備</td> <td>植樹祭会場の地拵等を委託し、植樹用の苗木を購入した。</td> </tr> <tr> <td>植樹祭の実施</td> <td>上幌内の北の魚つきの森で「第26回みどりと親しむ町民のつどい」を開催した。</td> </tr> <tr> <td>植樹祭会場の下刈、薬剤散布</td> <td>過去に植樹した樹木の生育促進のため、周囲に繁茂して生育に支障となる笹・草の刈払いを委託した。過去に植樹したエゾノコリンゴへの害虫発生を防ぐため、薬剤散布を委託した。</td> </tr> </table>	植樹祭の準備	植樹祭会場の地拵等を委託し、植樹用の苗木を購入した。	植樹祭の実施	上幌内の北の魚つきの森で「第26回みどりと親しむ町民のつどい」を開催した。	植樹祭会場の下刈、薬剤散布	過去に植樹した樹木の生育促進のため、周囲に繁茂して生育に支障となる笹・草の刈払いを委託した。過去に植樹したエゾノコリンゴへの害虫発生を防ぐため、薬剤散布を委託した。				
植樹祭の準備	植樹祭会場の地拵等を委託し、植樹用の苗木を購入した。										
植樹祭の実施	上幌内の北の魚つきの森で「第26回みどりと親しむ町民のつどい」を開催した。										
植樹祭会場の下刈、薬剤散布	過去に植樹した樹木の生育促進のため、周囲に繁茂して生育に支障となる笹・草の刈払いを委託した。過去に植樹したエゾノコリンゴへの害虫発生を防ぐため、薬剤散布を委託した。										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている昨今、普段なかなか触れ合うことが少ない、「みどり」に対する意識高揚を図るため、植樹祭を開催する必要性は高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	町民の緑化思想の高揚が図られ、「みどり」の大切さを理解し、「みどり」を守り育てることに寄与した。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	なお、参加者が減少傾向にあるので、関係機関との連携強化や周知方法等の工夫が必要である。
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	会場地拵や刈払いなど、必要最小限の整備としており、事業コストは妥当である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	一般町民、参加希望者を対象としている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている昨今、普段なかなか触れ合うことが少ない、「みどり」に対する意識高揚を図るため、今後も継続して計画どおり進めることが適当と判断するが、参加者が減少傾向にあるので、関係機関との連携強化や周知方法等の工夫が必要である。	同左	



継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
地域住民の自然保護意識や環境保全意識の高揚を図りながら、自然環境の創造に努める事業であることから、継続して実施すべき事業であるが、近年の開催状況を踏まえ、事業内容を変更する必要がある。	同左	

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030140

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 鳥獣残渣の処理
基本施策	13 環境の保全	事業優先度	A	
単位施策	1 自然環境・地球環境の保全	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	鳥獣残渣等処理事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	鳥獣残渣の適切な処理		#N/A	
事業目標	エゾシカ残渣の処理 300頭/年	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	鳥獣残渣の処理	鳥獣残渣の処理	鳥獣残渣の処理	鳥獣残渣の処理	鳥獣残渣の処理	鳥獣残渣の処理
	事業費(千円)	13,574	2,700	2,702	2,724	2,724
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	13,574	2,700	2,702	2,724	2,724
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,390	2,747	2,643	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	5,390	2,747	2,643		
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理 エゾシカ567、ヒグマ15、キツネ 90、ノイヌ等26、カラス286、ヒナ 90、卵93	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 エゾシカ残渣の処理 300頭	エゾシカ残渣の処理 300頭	エゾシカ残渣の処理 300頭	エゾシカ残渣の処理 300頭	エゾシカ残渣の処理 300頭
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 102%	98%	0%	0%	0%
	全体達成率 20%	40%	40%	40%	40%	
	備考欄					

事業名	鳥獣残渣等処理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	鳥獣残渣	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	エゾシカ残渣処理頭数		
抱える課題やニーズ	廃棄物最終処分場の負荷軽減のため、同処分場への受け入れ中止となった有害鳥獣駆除事業により生じた鳥獣残渣の処理方法		① 残渣処理頭数÷残渣処理計画頭数	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	鳥獣残渣の処理方法の確立			目標値	300頭・匹・羽
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果=目的	鳥獣残渣の処理と残渣の縮減化、廃棄物最終処分場の延命		②	実績値	1167頭・匹・羽
内容(どのような手段で何を 行ったか)	微生物(エスパス菌)の菌床維持管理	鳥獣残渣等処理施設で、微生物(エスパス菌)を用いた菌床の維持管理を委託した。			
	施設での残渣等処理	鳥獣残渣等処理施設で、残渣の受け入れと菌床への埋設、菌床の攪拌等の管理業務を委託した。			
			達成度	389.0 %	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	エゾシカの駆除が鳥獣残渣の主物であり、エゾシカ駆除は今後も継続されることから、今後も生じる残渣の受け入れ施設として、その必要性は高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	鳥獣残渣を白骨化させ、残渣そのものを縮減化することができ、廃棄物最終処分場へ残った骨だけを埋設処理しているの、衛生面の課題解消と最終処分場の受入容量確保へ繋がった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	エスパス菌の菌床を使用することで、安価かつ効果的な鳥獣残渣処理を行うことができる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内一円で生じた鳥獣残渣を処理している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
当初計画より施設のキャパシティを超えて処理している現状にあり、また、管理委託についても、内容は、菌床維持の件費のみため、資材費や施設管理費は、委託に含まれていないため、見直しが必要である。		



継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
有害鳥獣駆除との運動が必須な事業であることから事業の継続は必須だが、現在、抱えている問題の解決に至る道筋は見えていない。そのため、現状、施設管理の在り方や委託形態の見直しの検討を行う。	同左	

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030150

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 有害鳥獣捕獲
基本施策	13 環境の保全	事業優先度	A	
単位施策	1 自然環境・地球環境の保全	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	有害鳥獣捕獲事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	有害鳥獣の捕獲		#N/A	
事業目標	被害を最小限に抑える	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	有害鳥獣捕獲 熊箱罾購入 1台	有害鳥獣捕獲 熊箱罾購入 1台	有害鳥獣捕獲	有害鳥獣捕獲	有害鳥獣捕獲	有害鳥獣捕獲	
	事業費(千円)	26,100	6,100	5,000	5,000	5,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	26,100	6,100	5,000	5,000	5,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,507	6,475	6,032	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	100	50	50			
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	12,407	6,425	5,982			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	地域づくり総合交付金 (エゾシカ緊急対策事業)		有害鳥獣捕獲 熊箱罾購入 1台	有害鳥獣捕獲 エゾシカ78、ヒグマ15、キツネ 90、ノイヌ等26、カラス286、ヒナ 90、卵93			
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	最小限の被害	最小限の被害	最小限の被害	最小限の被害	最小限の被害
	年度達成率	106%	121%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	25%	48%	48%	48%	48%	
	備考欄						

事業名	有害鳥獣捕獲事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	有害鳥獣の捕獲		
抱える課題やニーズ	住民生活や農林水産業への被害		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域住民の生活安全と農林水産業の被害軽減		① 有害鳥獣の捕獲	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	有害鳥獣からの被害抑制			目標値	300 頭・匹・羽
			実績値	678 頭・匹・羽	
			達成度	226.0 %	
		②	目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		
内容(どのような手段で何を行ったか)	有害鳥獣の捕獲	カラス、エゾシカ、キツネ、ヒグマなどの有害鳥獣の捕獲を北海道猟友会興部支部雄武部会へ委託した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	住民生活の安全と農林水産業の被害防止を図るため、有害鳥獣を捕獲し個体数を減少させる必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	農林水産業に被害をもたらす有害鳥獣を捕獲したことで、被害を最小限に抑えることができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	捕獲従事には資格や銃器などが必要なため、北海道猟友会興部支部雄武部会へ委託することが適切であり、ボランティア的な側面もある捕獲業務は猟友会の協力を無くしては達成できない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	有害鳥獣からの被害は誰でも受ける可能性がある。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/公平でない		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
有害鳥獣の被害防止において、成果が現れていることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
有害鳥獣を適宜捕獲し個体数を減少させ、住民生活の安全と農林水産業の被害防止を図るため、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030160

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 運営補助金の交付
基本施策	13 環境の保全	事業優先度	B	
単位施策	1 自然環境・地球環境の保全	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	猟友会雄武部会運営補助金	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	猟友会雄武部会の円滑な運営		#N/A	
事業目標	有害鳥獣の捕獲	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	
	事業費(千円)	850	170	170	170	170	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	850	170	170	170	170	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	340	170	170	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	340	170	170			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 運営補助金の交付	(実施内容等) 運営補助金の交付	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【 評 価 ・ 実 績 】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			有害鳥獣の捕獲	有害鳥獣の捕獲	有害鳥獣の捕獲	有害鳥獣の捕獲	有害鳥獣の捕獲
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値				
			年度達成率	100%	100%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%		
	備考欄						

事業名	猟友会雄武部会運営補助金	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	北海道猟友会興部支部雄武部会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	有害鳥獣の捕獲								
抱える課題やニーズ	部会の円滑な運営	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	円滑な部会運営と部会活動の活性化	① 有害鳥獣の捕獲	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	有害鳥獣個体数の減少と住民生活や農林水産業の被害軽減	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	北海道猟友会興部支部雄武部会への運営補助	北海道猟友会興部支部雄武部会の円滑な運営を支援するため、運営補助金を交付した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	住民生活と農林水産業に影響を与える有害鳥獣を捕獲するには猟友会の協力をなくしては達成できないことから、北海道猟友会興部支部雄武部会が円滑に活動できるよう支援する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	北海道猟友会興部支部雄武部会の円滑な活動と運営に繋がった。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	捕獲従事には免許等の資格が必要であり、更新費用やハンター保険の加入など金銭的負担が生じるため、負担の軽減を図りつつ最小限の補助金交付とした。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	住民生活の安全と農林水産業被害を軽減させる活動をしている団体への補助であるので、補助金交付は妥当である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
有害鳥獣の被害防止において、成果が現れていることから、今後も部会が円滑に活動できるよう事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
住民生活の安全と農林水産業被害を軽減させる事業を実施しているが、収益としては程遠く、まだ支援が必要であることから、継続して実施するのが適当である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030170

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	林道施設長寿命化事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和元年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	林道施設の適切な管理		#N/A	
事業目標	林道の安全な通行	ハード／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	有 雄武町公共施設等総合管理計画	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	林道橋梁点検委託業務 16橋 林道施設長寿命化計画策定委託業務	林道橋梁点検委託業務 16橋	林道施設長寿命化計画策定委託業務				
	事業費(千円)	8,974	6,474	2,500	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	3,194	3,194				
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	5,780	3,280	2,500			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,558	3,268	2,290	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	5,558	3,268	2,290			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 林道橋梁点検委託業務 16橋	(実施内容等) 林道施設長寿命化計画策定委託業務	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 林道橋梁点検実施 16橋	年度達成率 50%	92%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	36%	62%	62%	62%	62%
		備考欄					

事業名	林道施設長寿命化事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	林道橋梁	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	計画策定								
抱える課題やニーズ	町の総合管理計画に沿った林道施設長寿命化計画(個別計画)を策定し計画的な点検、修繕、架け替を推進していく必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	林道施設長寿命化計画策定	① 林道施設長寿命化計画策定	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1本</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1本</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1本	実績値	1本	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1本										
実績値	1本										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	林道施設長寿命化措置の計画的な実施	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	林道施設長寿命化計画策定委託業務の発注	林道施設長寿命化計画を策定した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町の総合管理計画に沿った林道施設長寿命化計画(個別計画)を策定し計画的な点検、修繕、架け替を推進していく必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	点検の成果により、橋梁の補修の必要性を分析し、林道の長寿命化の指標とする。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	指名競争入札により、委託業務の事業費削減を図った。また、点検を行うことにより、橋梁の健全性を把握し、効率的な修繕計画を作成することができる。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	林道は誰でも利用することができる施設であるため、公平性は確保されている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
林道橋梁の整備は通行者の安全確保のみならず、防災上の観点からも計画的な維持管理、補修は必要であり、事業を進めることが適当と判断する。	同左	



継続/拡充	継続/拡充	
点検結果に基づいた長寿命化計画策定結果、各橋梁の補修を行っていく。	同左	

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09030180

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度～令和9年度 巡視員の配置
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	民有林火災予防巡視事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	15 消防支署	
事業指標	林野火災の未然防止や早期発見		4 住民生活課	
事業目標	巡視員の配置	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有 雄武町林野火災予防対策協議会	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	有 雄武町地域防災計画	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	
	事業費(千円)	3,300	660	660	660	660	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	3,300	660	660	660	660	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,320	660	660	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	1,320	660	660			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 巡視員の配置 3名	(実施内容等) 巡視員の配置 3名	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名
			年度達成率	100%	100%	0%	0%
		後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%
		備考欄					

事業名	民有林火災予防巡視事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	川口 敦史

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	民有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	巡視員配置数	
抱える課題やニーズ	林野火災の撲滅		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	林野火災の未然防止や早期発見	① 巡視員配置数÷巡視員配置計画数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	安心して暮らせる町づくり		目標値	3名
		実績値	3名	
内容(どのような手段で何を行ったか)	巡視員の配置 林野火災の未然防止や早期発見を図るため、特に注意を要する予防強調期間に巡視員3名を配置し、巡視活動や警防思想の普及宣伝を実施した。	②	達成度	100.0 %
			目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	災害予防対策と警防意識の向上を図るため、林野火災の未然防止の取り組みは、行政で行う必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	一般入林者等へ広く予防啓発を促すことで、効果的な予防対策が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	林野火災危険期間のうち、特に注意を要する予防強調期間に巡視員を配置して効果的な巡視活動を行うことができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	林野火災の未然防止や早期発見に繋がる事業であることから公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
巡視活動の実施と一般入林者等へ予防啓発を促すことで、火災予防の意識向上に繋がり、林野火災の未然防止を図るうえで、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
山林は貴重な資源であり、ひとたび山火事が発生すると大規模な災害に発展することも想定されることから、巡視活動はもとより警防意識の向上を図ることは重要と考えられるので、継続して実施するのが適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040010

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	水産環境整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和元年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	北海道		関 係 課		#N/A	
事業指標	増養殖整備面積				#N/A	
事業目標	A=6,800㎡		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

	全 体 計 画 事 業 内 容	平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	増養殖施設整備(囲い礁)に係る地元負担金 ・雄武魚田地区 A= 6,800㎡(全体12,000㎡) 総事業費 160,000千円 地元負担 16,000千円	増養殖施設整備 雄武魚田地区 A=3,400㎡ ○総事業費 80,000千円	増養殖施設整備 雄武魚田地区 A=3,400㎡ ○総事業費 80,000千円				
	事業費(千円)	16,000	8,000	8,000	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	12,800	6,400	6,400			
	その他	3,200	1,600	1,600			
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	11,300	5,800	5,500			
	その他	2,843	1,461	1,382			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	・水産環境整備事業債	【 評 価 ・ 実 績 】	雄武魚田地区 A=3,150㎡	雄武魚田地区 A=3,650㎡			
	・水産環境整備事業分担金 (漁協分担金)		総事業費 73,070千円	総事業費 69,114千円			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-終了			
			増養殖整備面積 A=3,400㎡	増養殖整備面積 A=3,400㎡			
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値				
			年度達成率	91%	86%	#DIV/0!	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続無し)		全体達成率	46%	89%	89%	89%
			備考欄				

事業名	水産環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	増養殖場造成面積								
抱える課題やニーズ	ウニ・コンブ等の資源量及び漁獲量が減少傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	餌料環境の向上を図り、良好な生息環境を創出し、資源量を回復させる。	① 増養殖場造成面積(魚田地区)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3,400 m²</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3,650 m²</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>107.4 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	3,400 m ²	実績値	3,650 m ²	達成度	107.4 %
目標年度	令和元年度										
目標値	3,400 m ²										
実績値	3,650 m ²										
達成度	107.4 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	資源量及び漁獲量の増加により、漁業経営の安定化を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	増殖礁(囲い礁)の整備に係る地元負担金の支出	北海道が実施する漁場整備(増殖礁)事業に対する地元負担金(事業費の10%)の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ウニ、コンブなど沿岸漁業の生産量が減少傾向にあることから、水産資源の保護増大を図り、持続力のある水産業を確立するため、支援する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		増殖礁整備により、コンブなどの海藻類が繁茂し、餌料環境が改善され、ウニなどの水産資源が増加傾向につながっている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		適宜、事業主体である北海道と協議のもと進めており、また、地元負担金については、負担割合が定められているため、コスト削減の余地はない。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

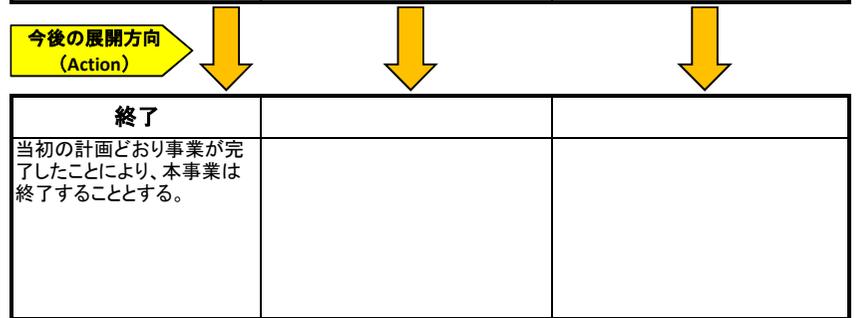
公平	判断の理由		水産基盤整備事業に係る地元負担金については、条例に基づき受益者負担金(負担額の20%)を徴収している。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ウニ・コンブの資源回復を目的とした整備は計画どおり進められ、当初の目的が達成された。		



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040020

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事 業 優 先 度	A	○令和5年度～令和9年度 総事業費10,000千円(2,000千円/年) ・令和5年度 雄武沖 2,400t ・令和6年度 沢木沖 2,400t ・令和7年度 幌内沖 2,400t ・令和8年度 魚田沖 2,400t ・令和9年度 雄武沖 2,400t
単位施策	1 水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	ほたて漁場貝殻散布事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合	関 係 課	#N/A	
事業指標	貝殻散布量	関 係 課	#N/A	
事業目標	2,400t/年	ハート / ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	当海域の海底は、細砂の底質が多く下場がやわらかく漁獲効率を下げているため、稚貝放流前に貝殻を散布し、漁場改良を実施する。 (ほたて砕け貝の削減及び漁獲効率の向上を図る。)	貝殻散布による底質改良 魚田沖 C海域 2,400t	貝殻散布による底質改良 雄武沖 B海域 2,400t	貝殻散布による底質改良 沢木沖 A海域 2,400t	貝殻散布による底質改良 幌内沖 D海域 2,400t	貝殻散布による底質改良 魚田沖 C海域 2,400t	
	○総事業費 57,340千円 ・散布費用 56,160千円 ・雑費 1,180千円 ○財源内訳 ・自己財源 47,340千円 ・町補助金 10,000千円	○総事業費 11,468千円 ・散布費用 11,232千円 ・雑費 236千円 ○財源内訳 ・自己財源 9,468千円 ・町補助金 2,000千円					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	10,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	10,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
その他	0						
一般財源	0						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,000	2,000	2,000	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	4,000	2,000	2,000			
その他	0						
一般財源	0						
関 連 事 項	特定財源の名称 ・ほたて漁場貝殻散布事業債	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 魚田沖C海域 2,400t 総事業費 10,860千円	(実施内容等) 雄武沖B海域 2,400t 総事業費 11,490千円	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 貝殻散布量 2,400t	年度目標値 貝殻散布量 2,400t	年度目標値 貝殻散布量 2,400t	年度目標値 貝殻散布量 2,400t
			年度達成率 100%	年度達成率 100%	年度達成率 0%	年度達成率 0%	
			後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 20%	全体達成率 40%	全体達成率 40%	全体達成率 40%
	備考欄						

事業名	ほたて漁場貝殻散布事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	貝殻散布量								
抱える課題やニーズ	ほたて貝の漁場は砂泥質の底質が多く漁獲効率を下げている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	ほたて貝殻を粉碎し、漁場へ散布することにより底質改良を行う。	① 貝殻散布量	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2,400 t</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2,400 t</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	2,400 t	実績値	2,400 t	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	2,400 t										
実績値	2,400 t										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	割れ貝発生の低減及び漁獲効率を向上させる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	事業実施団体への補助金の支出	ほたて稚貝放流海域へのほたて貝殻散布の実施に対する補助金の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて漁業の振興は、漁業者のみならず水産加工業など地域経済に影響のあるものであり、漁獲効率を向上させ、ほたて貝の安定的な生産を促進させるための事業であることから、支援する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	漁場の底質が改善され、割れ貝の発生が低減されているなど、漁獲効率が上がっている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町内から排出されるほたて貝殻を有効活用することにより、事業コスト削減が図られている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業費の約8割が自己財源により実施されている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
排出されたほたて貝殻を有効活用し、底質改良することで、割れ貝を低減するなど、漁獲効率向上が図られている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
ほたて漁業の安定化を図るうえで、漁場の底質改良は必要不可欠であり、継続することが重要となる事業である。		

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040050

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ○令和5年度～9年度 総事業費10,000千円(2,000千円/年)
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	なまこ増養殖事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合		関 係 課		#N/A	
事業指標	増養殖試験調査箇所				#N/A	
事業目標	3箇所/年		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	天然なまこの資源増大を図るため、既存の元稲府漁港内及び西外防波堤裏施設に加え、天然漁場へ新增殖施設を整備する。また、元稲府漁港内で稚なまこを親なまこまで生育させ、他の施設へ移植し、天然育成環境等の試験調査を実施する。	《元稲府漁港内》 稚なまこ放流・石詰礁設置	《元稲府漁港内》 稚なまこ放流、石詰礁設置、 効果調査	《元稲府漁港内》 稚なまこ放流、石詰礁設置、 効果調査 馴致施設効果調査	《元稲府漁港内》 稚なまこ放流、石詰礁設置、 効果調査 馴致施設効果調査	《元稲府漁港内》 稚なまこ放流、石詰礁設置、 効果調査 馴致施設効果調査	
	○総事業費 16,000千円 ・施設設置等 4,600千円 ・放流費 5,200千円 ・調査費 6,200千円 ○財源内訳 ・自己資金 8,000千円 ・町補助金 8,000千円	《海外施設》※禁漁区指定 漁場調査、親なまこ移植 石詰礁移設(150基) ○事業費 2,000千円 ・施設設置費 350千円 ・放流費 650千円 ・調査費 1,000千円 ○財源内訳 ・自己財源 1,000千円 ・町補助金 1,000千円	《海外施設》※禁漁区指定 親なまこ移植、効果調査 石詰礁移設(150基) ○事業費 2,000千円 ・施設設置費 350千円 ・放流費 650千円 ・調査費 1,000千円 ○財源内訳 ・自己財源 1,000千円 ・町補助金 1,000千円	《海外施設》※禁漁区指定 親なまこ移植海外、効果調査 ○事業費 4,000千円 ・施設設置費 1,300千円 ・放流費 1,300千円 ・調査費 1,400千円 ○財源内訳 ・自己財源 2,000千円 ・町補助金 2,000千円			
計 画 事 業 費	事業費(千円)	8,000	1,000	1,000	2,000	2,000	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	8,000	1,000	1,000	2,000	2,000		
2,000	1,000	1,000	0	0	0		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,000	1,000	1,000	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	2,000	1,000	1,000				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 《元稲府漁港内》 稚なまこ放流・石詰礁設置 《海外施設》※禁漁区指定 漁場調査、親なまこ移植 石詰礁移設(140基) 総事業費 2,161千円 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 《元稲府漁港内》 稚なまこ放流・石詰礁設置 《海外施設》※禁漁区指定 漁場調査、親なまこ移植 石詰礁移設(150基) 総事業費 2,640千円 ※事務事業評価結果 A-継続/拡充	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	増養殖試験調査箇所 3箇所	増養殖試験調査箇所 3箇所	増養殖試験調査箇所 3箇所	増養殖試験調査箇所 3箇所	増養殖試験調査箇所 3箇所
		年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	13%	25%	25%	25%	25%
		備考欄					

事業名	なまこ増養殖事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	増養殖試験調査箇所								
抱える課題やニーズ	天然なまこの資源量及び漁獲量が減少傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	増養殖サイクルを確立し、なまこの資源量を回復させる。	① 増養殖試験調査箇所数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3箇所</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3箇所</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	3箇所	実績値	3箇所	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	3箇所										
実績値	3箇所										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	資源量及び漁獲量の増加により、漁業経営の安定化を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	事業実施団体への補助金の支出	天然なまこの増養殖用施設設置及び育成環境の試験調査に対する補助金の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	なまこは、海外における需要が高く、今後も輸出増が見込まれるが、資源量は近年減少してきていることから、増養殖サイクルを確立するためにも、数年の期間を要する試験調査に対し、支援する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	元稲府漁港の外海禁漁区に石詰礁を設置後、港内の親なまこを移植した。石詰礁の高い増殖効果が確認されたことから、外海での馴致・生育が期待できる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	雄武漁業協同組合で資材を自己製作するなど、事業実施にあたっては、極力費用を抑えるよう努力している。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業費の5割以上が自己財源により実施されていることから、公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
港内施設で育成させた稚なまこを外海禁漁区へ放流する増養殖サイクルの調査を計画どおり進められた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/拡充			
これまでの調査の成果を踏まえ、石詰礁に加え馴致施設の調査を並行実施し、増養殖サイクルの早期確立を目指すため、拡充する必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040060

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		C	
単位施策	1	水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	海岸漂着物等処理事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	4	住民生活課	
事業指標	流木処理				#N/A	
事業目標	流木処理 一式		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	漁業者等による流木の一時集積	関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容																																																	
計 画 内 容	<p>例年、台風時期に河川等からの流木が沖に流れ、サケ定置網漁等への甚大な被害を及ぼす危険性があることから、漁業者等が一時堆積した流木の処理を行う。</p> <p>・総事業費 2,800千円</p>		海岸漂着物等処理業務委託 (一時堆積流木運搬・処理) 事業費 700千円	海岸漂着物等処理業務委託 (一時堆積流木運搬・処理) 事業費 700千円	海岸漂着物等処理業務委託 (一時堆積流木運搬・処理) 事業費 700千円	海岸漂着物等処理業務委託 (一時堆積流木運搬・処理) 事業費 700千円																																																	
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>事業費(千円)</td> <td style="text-align: right;">2,800</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 国庫支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 道支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 地方債</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,800</td> <td></td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> <td style="text-align: right;">700</td> </tr> </table>	事業費(千円)	2,800	0	700	700	700	700	財源内訳							国庫支出金	0						道支出金	0						地方債	0						その他	0						一般財源	2,800		700	700	700	700					
事業費(千円)	2,800	0	700	700	700	700																																																	
財源内訳																																																							
国庫支出金	0																																																						
道支出金	0																																																						
地方債	0																																																						
その他	0																																																						
一般財源	2,800		700	700	700	700																																																	
実 績 事 業 費	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>事業費(千円)</td> <td style="text-align: right;">713</td> <td style="text-align: right;">713</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 国庫支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 道支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 地方債</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td style="text-align: right;">713</td> <td style="text-align: right;">713</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table>	事業費(千円)	713	713	0	0	0	0	財源内訳							国庫支出金	0						道支出金	0						地方債	0						その他	0						一般財源	713	713	0	0	0	0					
	事業費(千円)	713	713	0	0	0	0																																																
財源内訳																																																							
国庫支出金	0																																																						
道支出金	0																																																						
地方債	0																																																						
その他	0																																																						
一般財源	713	713	0	0	0	0																																																	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 海岸漂着物等処理業務委託 一時堆積流木運搬・処理(16.5t)	(実施内容等) 漁港内・海岸状況調査	(実施内容等)	(実施内容等)																																																	
	【評価・実績】																																																						
			※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	※事務事業評価結果 B-継続／現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果																																																	
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	流木処理 一式	流木処理 一式	流木処理 一式	流木処理 一式																																																	
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	0%	0%	0%																																																	
	全体達成率	25%	25%	25%	25%																																																		
	備考欄																																																						

事業名	海岸漂着物等処理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	流木処理			
抱える課題やニーズ	台風時期の河川等からの流木が沖に流れることにより、サケ定置網漁等へ被害を与えている。			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	漁港内へ一時堆積した流木が、漁業活動に支障を来たす際の運搬・廃棄処理				①	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	漁業の安全操業及び安定経営が図られる。				流木処理	目標値	1式
内容(どのような手段で何を行ったか)	各漁港内や海岸の状況調査	各漁港及び海岸の流木堆積状況の調査を実施した。	実績値			0式	
			達成度	0.0%			
			②	目標年度	令和元年度		
				目標値			
				実績値			
				達成度			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	サケ漁業等の安定操業は、地域経済の活性化に直結することから、必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		各漁港の流木等の堆積状況を調査した結果、事業実施の必要性がなかったことから実施しなかった。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		流木等の撤去にかかる費用負担は発生しなかった。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		費用負担もないことから、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
時化被害等により、堆積量が増加する流木を適切に処理することにより、港内の安全性・狭隘性が改善されるが、流木数が僅少であったことから、撤去を実施しなかった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
本事業は、災害時における緊急性を伴う要素があることから、状況に応じ、逐次、実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040061

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	ほたて漁場有害生物駆除対策事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度～令和4年度		担 当 年 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合		関 係 課		#N/A	
事業指標	実施海域				#N/A	
事業目標	1海域/年		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	稚貝放流海域の漁場造成及びほたて稚貝育成海域にヒトデが侵入しないよう育成海域の沖側にてヒトデ駆除を実施し、ほたて成貝の生存率の向上を図る。 ・放流海域 漁場造成 ・中間育成施設沖側 ヒトデ籠捕獲 ○総事業費 430,107千円 自己財源 410,107千円 町補助金 20,000千円		・漁場造成 雄武沖B海域 A=3,725ha ・ヒトデ籠捕獲 中間育成施設沖側 3,000籠 延べ100隻 ○総事業費 106,647千円 ・漁場造成 99,810千円 ・ヒトデ籠捕獲 6,837千円 ○財源内訳 ・自己財源 101,647千円 ・町補助金 5,000千円	・漁場造成 沢木沖A海域 A=3,900ha ・ヒトデ籠捕獲 中間育成施設沖側 3,000籠 延べ100隻 ○総事業費 107,820千円 ・漁場造成 100,857千円 ・ヒトデ籠捕獲 6,963千円 ○財源内訳 ・自己財源 102,820千円 ・町補助金 5,000千円	・漁場造成 幌内沖D海域 A=3,875ha ・ヒトデ籠捕獲 中間育成施設沖側 3,000籠 延べ100隻 ○総事業費 107,820千円 ・漁場造成 100,857千円 ・ヒトデ籠捕獲 6,963千円 ○財源内訳 ・自己財源 102,820千円 ・町補助金 5,000千円	・漁場造成 魚田沖C海域 A=4,125ha ・ヒトデ籠捕獲 中間育成施設沖側 3,000籠 延べ100隻 ○総事業費 107,820千円 ・漁場造成 100,857千円 ・ヒトデ籠捕獲 6,963千円 ○財源内訳 ・自己財源 102,820千円 ・町補助金 5,000千円
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 20,000	0	5,000	5,000	5,000
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金 0				
	道支出金 0					
	地方債 20,000		5,000	5,000	5,000	5,000
	その他 0					
	一般財源 0					
実 績 事 業 費	事業費(千円) 0	0	0	0	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・ほたて漁場有害生物駆除対策事業債	【評価・実績】	ヒトデ発生状況調査			
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	実施海域 1海域	実施海域 1海域	実施海域 1海域	実施海域 1海域
	年度達成率	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%
後期計画への継続	全体達成率	0%	0%	0%	0%	0%
	備考欄					

事業名	ほたて漁場有害生物駆除対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	実施海域										
抱える課題やニーズ	ヒトデによるほたて貝の食害を防ぐ。	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1 海域</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>0 海域</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	目標値及び実績値		目標年度	令和元年度	目標値	1 海域	実績値	0 海域	達成度	0.0 %
目標値及び実績値													
目標年度	令和元年度												
目標値	1 海域												
実績値	0 海域												
達成度	0.0 %												
どのような状態になることを目指したのか(意図)	有害生物であるヒトデの駆除を行い、ほたて漁業の生産性の向上を目指す。	① 実施海域	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	主力漁業であるほたて貝の生産の早期安定・増産体制を確立させ、漁家所得の向上、地域経済の活性化を図る。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
内容(どのような手段で何をを行ったか)	ヒトデ発生状況の調査	事業実施の判断のため、ヒトデ発生数の調査を行った。											

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて漁業の振興は、漁業者のみならず水産加工業者など地域経済に影響のあるものであり、本町の水産産業を推進させるために必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	育成海域におけるヒトデ生態数が減少していたことにより、事業を実施しなかった。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	ヒトデ駆除を実施する必要がなかったことから、事業負担が発生しなかった。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	費用負担もないことから、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	
成貝に影響を与えずヒトデ駆除ができ、ほたて貝の安定生産につながるが、ヒトデ発生数の減少に伴い事業実施を見送った。	同左	

<p>今後の展開方向 (Action)</p> <p>↓</p>	<p>↓</p>	<p>↓</p>
継続/現状維持	継続/現状維持	
ヒトデの駆除は継続して行うことで、徐々に生態数を減少させることができるため、今後についても事業継続が必要である。	同左	

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040070

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事業優先度	A	《雄武漁港》 ・事業期間 平成30年度～令和9年度 ・総事業費 357,000千円 ・事業内容 北防波堤(補修)L=113m、船揚場(補修)L=25m 用地護岸(補修)L=10m、清浄海水施設(補修)一式
単位施策	2 経営基盤の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	水産物供給基盤機能保全事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 度 課	9 産業振興課	
事業主体	北海道	関 係 課	#N/A	
事業指標	工事進捗率		#N/A	
事業目標	100%	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 3 0 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	漁港施設の長寿命化を図りつつ、更新コストを平準化するために、施設の老朽化状況を調べる機能診断の結果に基づいた機能保全計画を策定し、機能保全・更新工事を行う。	《雄武漁港》 北防波堤(実施設計)一式 船揚場(実施設計)一式 外 総事業費 8,000千円 地元負担 700千円	《雄武漁港》 北防波堤(補修)L=113m 船揚場(補修)L=25m 外 総事業費 150,000千円 地元負担 9,666千円	《雄武漁港》 北防波堤(補修)L=73m 清浄海水施設(実施設計)一式 総事業費 154,000千円 地元負担 400千円	《雄武漁港》 清浄海水施設(補修) 総事業費 8,000千円 地元負担 800千円	《雄武漁港》 清浄海水施設(補修) 総事業費 2,000千円 地元負担 200千円	
	○雄武漁港 総事業費 322,000千円 地元負担 11,766千円	《沢木漁港》 -3.5m泊地(浚渫)A=10,000㎡ 総事業費 25,000千円 地元負担 -	《幌内漁港》 -2.5m泊地(浚渫)A=3,600㎡ 総事業費 30,000千円 地元負担 -	《幌内漁港》 -2.5m泊地(浚渫)A=3,500㎡ 総事業費 30,000千円 地元負担 -	《幌内漁港》 -2.0m泊地(浚渫)A=1,000㎡ 総事業費 15,000千円 地元負担 -		
	○幌内漁港 総事業費 75,000千円 地元負担 -《外郭施設のため負担なし》		《沢木漁港》 -4.0m航路(実施設計)一式 -3.5m泊地(浚渫)A=9,000㎡ 総事業費 30,000千円 地元負担 -	《沢木漁港》 -4.0m航路(浚渫)A=32,000㎡ 総事業費 54,000千円 地元負担 -			
	○沢木漁港 総事業費 109,000千円 地元負担 -《外郭施設のため負担なし》						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	11,766	700	9,666	400	800	200
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0					
	地方債	8,200	500	7,700			
	その他	2,353	140	1,933	80	160	40
	一般財源	1,213	60	33	320	640	160
実 績 事 業 費	事業費(千円)	568	568	0	0	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	・水産物供給基盤機能保全 事業債	《雄武漁港》 北防波堤(実施設計)一式 船揚場(実施設計)一式 外 総事業費 6,480千円 地元負担 568千円	《雄武漁港》 北防波堤(補修)L=113.5m 船揚場(補修)L=25m 外 総事業費 112,000千円 地元負担 -				
	・水産物供給基盤機能保全 事業分担金(漁協分担金)						
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持				
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	81%	0%	0%	0%	0%	
	全体達成率	5%	5%	5%	5%	5%	
	備考欄						

事業名	水産物供給基盤機能保全事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	工事進捗率		
抱える課題やニーズ	漁港施設の老朽化		① 工事進捗率	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	老朽化した漁港施設の補修を行い、漁港機能の長寿命化を図る。			目標値	100%
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	水産業の健全な発展及び水産物の安定供給を図る。		実績値	100%	
内容(どのような手段で何を行ったか)	漁港の機能保全に係る工事	北海道が漁港施設の機能診断に基づいた機能保全工事を実施した。(外郭施設のため地元負担なし)	達成度	100.0%	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	水産業の振興を図るうえで、水産基盤である漁港施設の長寿命化のため機能保全工事は必要不可欠であることから、応分の地元負担金を担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	漁港施設の機能診断結果に基づく機能保全計画を策定し、効果的・効率的に機能保全工事が進められている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	地元負担割合が定められており、コスト削減ができないが、早期の補修要望を行うことにより、総事業費の低減が図られている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	水産基盤整備事業に係る地元負担金については、条例に基づき受益者負担(負担額の20%)を徴収している。(外郭施設のため地元負担なし)
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
機能診断結果に基づき、優先度の高い箇所から効果的・効率的に事業が進められている。		

今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
老朽化した施設を効率的に補修等を行うことで、施設の長寿命化を図り、将来的な施設更新コストを下げる事業であり、今後も整備計画に基づいて進めていく必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040080

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事 業 優 先 度	A	・事業期間 平成30年度～令和5年度 ・総事業費 604,000千円 ・事業内容 北護岸(新設)L=16m、西護岸(新設)L=130m -4.0m航路(新設)A=6,400㎡、-3.5泊地(新設)A=9,500㎡ -3.5m岸壁(新設)L=80.6m、-2.0m物揚場(新設)L=69m 船揚場(新設)L=25.1m、道路(新設)L=310m 用地護岸(新設)L=26.5m、用地(新設)A=630㎡
単位施策	2 経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	幌内地区(幌内漁港)水産生産基盤整備事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	北海道	関 係 課	#N/A	
事業指標	工事進捗率		#N/A	
事業目標	100%	ハート／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 3 0 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	幌内漁港の外郭・水域・係留・輸送施設・用地埋立整備 ○総事業費 604,000千円 地元負担 42,983千円	北護岸(新設)一式 西護岸(新設)L=130m -3.5m泊地(実施設計)一式 -2.0m泊地(新設)A=1,400㎡ -2.0m物揚場(新設)A=69m 船揚場(新設)L=17.8m 道路(実施設計)一式 用地護岸(新設)L=26.5m 用地(実施設計)一式 総事業費 174,000千円 地元負担 17,400千円	北護岸(新設)一式 西護岸(新設)一式 -3.5m泊地(新設)A=1,900㎡ -2.0m泊地(提体撤去) -3.5m岸壁(実施設計)一式 -2.0m物揚場(新設)一式 船揚場(新設)L=10m 道路(新設)L=184m 用地護岸(新設)一式 用地(新設)A=630㎡ 総事業費 176,000千円 地元負担 11,333千円	-3.5m泊地(新設)A=1,900㎡ -3.5m岸壁(新設)L=80.6m 道路(新設)L=126m 総事業費 134,000千円 地元負担 14,250千円	-4.0m航路(新設)A=2,200㎡ -3.5m泊地(新設)A=1,900㎡ 総事業費 60,000千円 地元負担 -	-4.0m航路(新設)A=2,100㎡ -3.5m泊地(新設)A=1,900㎡ 総事業費 60,000千円 地元負担 -
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 42,983	17,400	11,333	14,250	0
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	34,300	13,900	9,000	11,400	
	その他	8,596	3,480	2,266	2,850	
一般財源	87	20	67			
事業費(千円)	18,529	17,920	609	0	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・幌内地区(幌内漁港)水産生産基盤整備事業債	【 評 価 ・ 実 績 】	北護岸(新設)一式 西護岸(新設)L=130m -3.5m泊地(実施設計)一式 -2.0m泊地(新設)A=1,400㎡他 総事業費 260,253千円 地元負担 17,920千円	北護岸(新設)一式 西護岸(新設)一式 -3.5m泊地(新設)A=1,322㎡ 船揚場(新設)L=10m 他 総事業費 234,360千円 地元負担 609千円		
	・幌内地区(幌内漁港)水産生産基盤整備事業分担金(漁協分担金)					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値		工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	103%	5%	0%	#DIV/0!	
	全体達成率	42%	43%	43%	43%	
	備考欄					

事業名	幌内地区(幌内漁港)水産生産基盤整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	工事進捗率	
抱える課題やニーズ	船揚場が不足し漁港が狭隘であるなど、漁港機能の高度化及び漁業活動の安全性・生産性の向上を要する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	施設整備により漁港機能が高まり、漁業活動の安全性の向上が図られ、生産性の高い環境を創造する。		① 工事進捗率	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	漁港機能が高まり、漁業活動の安全性・生産性の向上を図る。			目標値	100%
内容(どのような手段で何をを行ったか)	漁港整備に係る地元負担金の支出	北海道が実施する幌内漁港整備事業に対する地元負担金の支出	実績値	100%	
			達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	幌内漁港における生産性向上や安全性の確保のため、漁港整備は重要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		漁港拡張に向けた西護岸の整備が計画どおり進捗している。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		計画的に事業が進められており、また、地元負担も定率負担となっている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		水産基盤整備事業に係る地元負担金については、条例に基づき受益者負担金(負担額の20%)を徴収している。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画的な施設整備により、漁港機能の向上及び漁業の安全性、生産性の向上が図られる。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
幌内漁港における漁業活動が円滑に行われるよう、早期の整備に向けて継続して実施する必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040090

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事 業 優 先 度	A	○平成30年度～令和9年度
単位施策	2 経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	・総事業費 2,900百万円
事業名	沢木地区(沢木漁港)水産流通基盤整備事業	見 直 し 年 度		・事業内容
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	外防波堤(新設)L=5.5m、第3外防波堤(新設)L=80m
事業主体	北海道	関 係 課	#N/A	北防波堤(新設)L=41m、北護岸(新設)L=164m、
事業指標	工事進捗率		#N/A	-4.0m岸壁(新設)L=90m、道路(新設)L=100m、用地A=2,560㎡
事業目標	100%	ハ ー ド ・ ソ フ ト 事 業 区 分	1 ハード事業	
町民参加	無	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無	
町民協働		関 係 個 別 計 画 名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 3 0 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	沢木漁港に衛生管理施設を整備することにより、ホタテ・サケの付加価値向上を図るとともに、外郭施設を併せて整備することで、操業時の安全性の確保を図る。 ○総事業費 1,588,000千円 地元負担 4,400千円	外防波堤(設計)一式 第3外防波堤(設計)一式 総事業費 40,000千円 地元負担 -	第3外防波堤(新設)L=40m 総事業費 500,000千円 地元負担 -	外防波堤(新設)L=55m 第3外防波堤(新設)L=40m 北防波堤(設計)一式 北護岸(設計)一式 総事業費 640,000千円 地元負担 -	北防波堤(新設)L=41m 北護岸(新設)L=54m 総事業費 230,000千円 地元負担 -	北防波堤(新設)一式 北護岸(新設)L=50m -4.0m岸壁(設計)一式 総事業費 178,000千円 地元負担 4,400千円
	事業費(千円)	4,400	0	0	0	4,400
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	3,500				3,500
	その他	880				880
	一般財源	20				20
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・沢木地区(沢木漁港)水産流通基盤整備事業債	【 評 価 ・ 実 績 】	外防波堤(設計)一式 第3外防波堤(設計)一式 総事業費 39,000千円 地元負担 -	第3外防波堤(新設)L=39.4m 仮施工一式 総事業費 63,977千円 地元負担 -		
	・沢木地区(沢木漁港)水産流通基盤整備事業分担金(漁協分担金)					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続(継続無し)	年度目標値	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	全体達成率	0%	0%	0%	0%	
	備考欄					

事業名	沢木地区(沢木漁港)水産流通基盤整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	工事進捗率								
抱える課題やニーズ	水産物の衛生管理の向上、防災対策の強化及び水揚げの効率化を要する。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	施設整備により漁港機能が高まり、水産物の衛生面及び漁業活動の安全性の向上が図られ、生産性の高い環境を創造する。	① 工事進捗率	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	100%	実績値	100%	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	100%										
実績値	100%										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	漁港機能が高まり、漁業活動の安全性・生産性の向上を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	漁港整備に係る工事	北海道が沢木漁港整備事業に係る工事を実施した。(外郭施設のため地元負担なし)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	沢木漁港における生産性向上や安全性の確保のため、漁港整備は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		航路の静穏性向上に向け事業が計画どおり進捗している。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		計画的に事業が進められており、また、地元負担も定率負担となっている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		水産基盤整備事業に係る地元負担金については、条例に基づき受益者負担金(負担額の20%)を徴収している。(外郭施設のため地元負担なし)
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画的な施設整備により、漁港機能の向上や漁業の安全性及び生産性の向上が図られる。		

今後の展開方向 (Action) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div>		
継続/現状維持		
沢木漁港における漁業活動が円滑に行われるよう、早期の整備に向けて継続して実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040120

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	漁業近代化資金利子補給事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	借入件数				#N/A	
事業目標	80件/年		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	漁業経営の近代化を推進する漁業者資金を貸付ける金融機関に対して利子補給金を交付し、漁業者の利息軽減化を行うことにより、漁業経営の安定化を図る。	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 320,000千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 320,000千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 320,000千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 300,000千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 300,000千円	
	【利子補給額】 国 10,140千円 道 10,140千円 町 10,140千円 計 30,420千円	【利子補給額】 国 2,080千円 道 2,080千円 町 2,080千円 計 6,240千円	【利子補給額】 国 2,080千円 道 2,080千円 町 2,080千円 計 6,240千円	【利子補給額】 国 2,080千円 道 2,080千円 町 2,080千円 計 6,240千円	【利子補給額】 国 1,950千円 道 1,950千円 町 1,950千円 計 5,850千円	【利子補給額】 国 1,950千円 道 1,950千円 町 1,950千円 計 5,850千円	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	10,140	2,080	2,080	2,080	1,950	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	10,140	2,080	2,080	2,080	1,950		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,096	1,457	1,639	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	3,096	1,457	1,639				
関 連 事 項	特定財源の名称	【評 価 ・ 実 績】	(実施内容等) 利子補給件数 97件 融資平均残高 227,750千円	(実施内容等) 利子補給件数 109件 融資平均残高 271,215千円	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値 借入件数 80件	年度目標値 借入件数 80件	年度目標値 借入件数 80件	年度目標値 借入件数 80件	年度目標値 借入件数 80件
			年度達成率 70%	年度達成率 79%	年度達成率 0%	年度達成率 0%	年度達成率 0%
	後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率 14%	全体達成率 31%	全体達成率 31%	全体達成率 31%	全体達成率 31%
			備考欄				

事業名	漁業近代化資金利子補給事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	借入者数(利子補給件数)								
抱える課題やニーズ	施設や設備の更新及び新技術への投資などにより、経営基盤の弱体化が懸念される。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	漁業施設や設備における近代化の推進により、漁業経営の安定化を図る。	① 借入者数の実績(上期と下期の平均利子補給件数)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>80件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>109件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>136.3%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	80件	実績値	109件	達成度	136.3%
目標年度	令和元年度										
目標値	80件										
実績値	109件										
達成度	136.3%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	借入利子の軽減化を図ることにより、漁業経営の安定化を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	漁業近代化資金の融資金融機関への利子補給	漁業経営の近代化等を推進する漁業者に本資金を貸付ける融資金融機関(漁協)に対する利子補給金の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	本資金については、漁業近代化資金融資法により国・北海道も利子補給をしており、本町においても条例に基づき同様に補助支援しているものであり、漁業経営の安定化のために実施する必要がある。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	漁船の大型化及び漁業設備等の近代化が円滑に図られており、漁業経営の基盤強化が進んでいる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	条例により利子補給率の上限を設定している。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	国・北海道と同率の利子補給であり、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
漁業経営の近代化及び安定化を促進させるために必要な事業であり、資金の円滑化が図られ、経営基盤の強化が進んでいる。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
近年の漁船の大型化等、漁業形態の変化に対応していくためにも、漁業近代化の推進、経営基盤の強化のため、継続して支援する必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040130

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 令和5年度 ・貸付残高 10,960千円 利子補給額 29千円 令和6年度 ・貸付残高 5,480千円 利子補給額 15千円
基本施策	3	水産業の振興	事業優先度	A		
単位施策	2	経営基盤の強化	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	漁業経営健全化促進資金利子補給事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	利子補給件数		関係課	#N/A		
事業目標	9件/年		ハード／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	燃油高騰等による経営環境の悪化した漁業者への緊急支援として、低利な借換資金を融資する金融機関に対する利子補給を行い、漁業の経営健全化を図る。	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 42,740千円 利子補給額 道 111千円 町 111千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 35,790千円 利子補給額 道 93千円 町 93千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 28,840千円 利子補給額 道 75千円 町 75千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 22,880千円 利子補給額 道 60千円 町 60千円	融資金融機関への利子補給 ・貸付残高 16,920千円 利子補給額 道 44千円 町 44千円
	利子補給額 道 275千円 町 275千円					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	383	111	93	75	60
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	383	111	93	75	60	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	127	74	53	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	127	74	53			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	融資件数 9件 貸付額 121,990千円 融資平均残高 13,916千円	融資件数 9件 貸付額 121,990千円 融資平均残高 10,313千円		
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	利子補給件数 9件	利子補給件数 9件	利子補給件数 9件	利子補給件数 9件
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	67%	57%	0%	0%
	全体達成率	19%	33%	33%	33%	
	備考欄					

事業名	漁業経営健全化促進資金利子補給事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	融資実行件数、現資金借入者数								
抱える課題やニーズ	燃油高騰等により、漁業経営が悪化していた。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	資金借換を融通する金融機関に利子補給を行い、漁業者の資金繰りを円滑にする。	① 融資実行件数(平成22年度)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>9件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>9件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	9件	実績値	9件	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	9件										
実績値	9件										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	漁業者の経営の健全化	② 資金借入者数(年度当初資金借入者数-期中繰上償還者数)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>9人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>7人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>128.6%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	9人	実績値	7人	達成度	128.6%
目標年度	令和元年度										
目標値	9人										
実績値	7人										
達成度	128.6%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	利子補給補助金の支出	借換資金の融通を行った金融機関に対し、利子補給補助金の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	本事業については、国の漁業緊急補償対策事業を活用し、北海道及び漁業団体(信漁連)も利子補給を行っており、漁業経営の早期健全化を促進するため、支援する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	北海道から漁業経営健全化計画の認定を受けた15漁業者が資金借換を行い経営の健全化を進めており、既に繰上償還をする漁業者がいるなど早期健全化が図られている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町の要綱に基づき、北海道の利子補給率と同率の補助を行っている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	燃油高騰等により漁業経営が悪化していた漁業者に対する緊急的な支援措置であり、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
燃油高騰等による緊急対策事業であり、低利借換資金による債務負担軽減を図ることは有益である。		

今後の展開方向(Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
平成22年度に実施した緊急対策事業のため、新たに借入を行う漁業者はいないが、返済完了まで引き続き利子補給を行う必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040150

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	水産物流通荷さばき施設整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合		関 係 課		#N/A	
事業指標	施設整備数				#N/A	
事業目標	1棟		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	水産物の集荷作業場(水揚げ・選別場・検量等の施設)を整備する。		水産物流通荷さばき施設 (元稲府漁港) 鉄骨平屋建て 565㎡			
	水産物流通荷さばき施設(元稲府漁港) 鉄骨平屋建て 565㎡		《工事施工》 総事業費 259,730千円 道補助金 120,245千円 町補助金 9,619千円 自己資金 129,866千円			
計 画 事 業 費	事業費(千円)	129,864	0	129,864	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	120,245		120,245		
	地方債	9,600		9,600		
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	126,279	0	126,279	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	116,925		116,925		
	地方債	9,100		9,100		
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・北海道水産業振興構造改善事業補助金	【 評 価 ・ 実 績 】		水産物流通荷さばき施設 鉄骨平屋建て 565㎡ 総事業費 257,235千円		
	・水産物流通荷さばき施設整備事業債					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値		施設整備数 1棟		
		年度達成率	#DIV/0!	97%	#DIV/0!	#DIV/0!
	後期計画への継続(継続無し)	全体達成率	0%	97%	97%	97%
		備考欄				

事業名	水産物流通荷さばき施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	施設整備数								
抱える課題やニーズ	オホーツク海全海域が対EU輸出ホタテガイ生産海域の指定を受け、また、元稲府漁港においても衛生管理型漁港に整備されているが、港内荷さばき施設は老朽化し、衛生管理面に必要な機能が不足しており、水産物の品質管理に支障をきたす可能性があることから整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	屋根付き岸壁に隣接した荷さばき施設を整備することにより、水揚げから出荷まで一貫した高度衛生管理体制の構築を目指すため整備する。	① 施設整備数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1棟</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1棟</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1棟	実績値	1棟	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1棟										
実績値	1棟										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	衛生・品質管理された水産物を取り扱うことにより付加価値向上が図られ、漁業者の所得向上を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	事業実施団体への補助金の支出	荷さばき施設整備に対する補助金の支出(水産業振興構造改善事業補助金(道費)と町上乗補助)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	水揚げされた水産物の衛生管理体制の構築により付加価値向上につながることから、支援する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		衛生管理型荷さばき施設が整備されたことにより、元稲府漁港と一体的な高度衛生管理体制が構築され、水産物の付加価値向上や輸出促進が図られるとともに、漁業所得の向上が期待される。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		事業実施団体により事業内容が精査され、また、北海道の補助金を活用するとともに、町の補助金においても上限(補助残の8%)を設定し、実施した。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		水産物の付加価値向上は、漁業者全ての所得向上につながることから公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
衛生管理型の荷さばき施設の整備は、計画どおり進められ、当初の目的が達成された。		

 今後の展開方向 (Action)			
終了			
施設整備については、当初の目標どおり達成されたことに伴い、本事業は終了することとする。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040160

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事業優先度	A	
単位施策	2 経営基盤の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	水産冷蔵施設機器更新事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和3年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	機器更新		#N/A	
事業目標	機器更新 一式	ハード・ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	水産冷蔵施設の機器について、老朽化のため更新を行う。	冷凍機圧縮機整備 1基 1,940千円	冷凍機圧縮機整備 1基 1,944千円	冷凍圧縮機整備(モーター等) 2基 5,720千円	受電設備(高圧開閉器)更新 1,900千円	
	○冷凍機圧縮機整備(オーバーホール) ○ユニットクーラーデフロストヒーター更新 ○エバコン架台補修 ○冷凍圧縮機整備(モーター等) ○冷凍圧縮機整備(電装部品) ○受電設備(高圧開閉器)更新 ○空冷リモコンデンサー更新 総事業費 32,020千円	ユニットクーラーデフロストヒーター更新 1基 1,460千円	ユニットクーラーデフロストヒーター・エバコン架台補修 1,836千円 冷凍圧縮機整備(モーター等) 2基 5,720千円	冷凍圧縮機整備(電装部品) 2,000千円	空冷リモコンデンサー更新 2基 9,500千円	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	32,020	3,400	9,500	7,720	11,400
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	7,000			7,000		
一般財源	25,020	3,400	9,500	720	11,400	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,837	3,348	9,489	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	12,837	3,348	9,489			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	財政調整基金繰入金		・冷凍機圧縮機整備 ・ユニットクーラーデフロストヒーター更新	・冷凍機圧縮機整備 ・ユニットクーラーデフロストヒーター・エバコン架台補修 ・冷凍圧縮機整備(モーター等)		
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	機器更新 一式	機器更新 一式	機器更新 一式	機器更新 一式
後期計画への継続 (継続無し)	年度達成率					
		98%	100%	0%	0%	
	全体達成率	10%	40%	40%	40%	
	備考欄				#DIV/0!	

事業名	水産冷蔵施設機器更新事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	水産加工業者・水産施設利用協同組合		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	機器更新	
抱える課題やニーズ	水産施設利用協同組合が管理・運営する水産冷蔵施設の機器について、老朽化が進んでいることから、安定稼働のため大規模更新が急務となっている。			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	導入後20年以上経過した機器の大規模更新及びオーバーホールをすることにより、安定稼働を目指す。		① 機器更新	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	機器の安定稼働により、貯蔵物の安全確保や機器稼働の正常化による施設運営コストの削減を図る。			目標値	1式
			実績値	1式	
内容(どのような手段で何を行ったか)	機器更新に係る工事の発注	冷凍圧縮機及びデフロストヒーター等の主要機器更新に係る工事発注	達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町内加工業者の加工原料・製品を貯蔵する施設であり、施設の安定稼働は、地域経済への影響面からも必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		施設の主要機器の更新等により、安定稼働が図られ、貯蔵物の安全確保のほかランニングコストの削減が図られることから有効である。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		施設機器を維持するコストに見合った必要最小限の更新に留めていることから、効率的である。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		町内水産加工業者の加工原料・製品を適切に貯蔵できることから、業界全体に公平性が保たれる。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水産冷蔵施設の機器更新を行ったことにより、施設運営の安定化が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
水産冷蔵施設の安定稼働は水産加工業者の安定経営に直結することから、計画的に継続実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040170

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	貯水施設整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	11	建設水道課(建築)	
事業指標	施設整備数				#N/A	
事業目標	1棟		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	町内水産加工業者等が水産物の鮮度保持用に使用する氷を、安定して供給できるよう貯水施設を整備する。		《実施設計・本体工事》 総事業費 370,489千円 道補助金 117,855千円 町負担分 252,634千円			
	○総事業費 370,489千円 道補助金 117,855千円 町負担分 252,634千円					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	370,489	0	370,489	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	117,855		117,855		
	地方債	52,600		52,600		
	その他	200,000		200,000		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	365,642	0	365,642	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	167,795		167,795		
	地方債	46,400		46,400		
	その他	100,000		100,000		
関 連 事 項	特定財源の名称	【評 価 ・ 実 績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・北海道水産業振興構造改善事業補助金		貯水施設 鉄骨2階建て 379.91㎡ 総事業費 365,642千円	※事務事業評価結果 A-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	・貯水施設整備事業債					
	・財政調整基金繰入金					
	第5期計画からの継続(継続無し)	年度目標値		施設整備数 1棟		
	後期計画への継続(継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	99%	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	0%	99%	99%	99%
		備考欄				

事業名	貯水施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	水産加工業者、漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	施設整備数
抱える課題やニーズ	加工原料となる原魚の施水に必要な角水については、民間製氷・貯水施設を雄武水産施設利用協同組合が借り受け供給していたが、築35年以上経過し、施設機能の低下による水不足や衛生面での問題が生じていることから整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	盛漁期に原魚の施水に対応できるよう十分な角水の供給と高度衛生管理に対応させるため、貯水施設を整備する。	①	施設整備数
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	原魚の適正な鮮度保持に必要な角水を安定供給できることにより、加工原料となる水産物の品質は向上し、本町の水産加工品の付加価値向上が図られる。	②	目標年度 令和元年度 目標値 1棟 実績値 1棟 達成度 100.0% 目標年度 令和元年度 目標値 実績値 達成度
内容(どのような手段で何をを行ったか)	貯水施設整備に係る工事等の発注	基本・実施設計に基づき、外構工事、建築主体工事、貯水機械設備工事、電気工事、給排水衛生設備工事及び工事監理業務の発注	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	加工原料となる水産物の品質の向上は、本町の水産加工品の付加価値向上につながるから、これに対応できる施設の整備は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	角水を十分にストックすることが可能となり、水産物の品質維持が可能となり、水産加工品の品質向上が期待できる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	早急な事業進捗のため、補助事業計画書を自前作成し、最短で事業完了した。また、財源においても、最も有利な補助金を活用し、効率的に進めた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

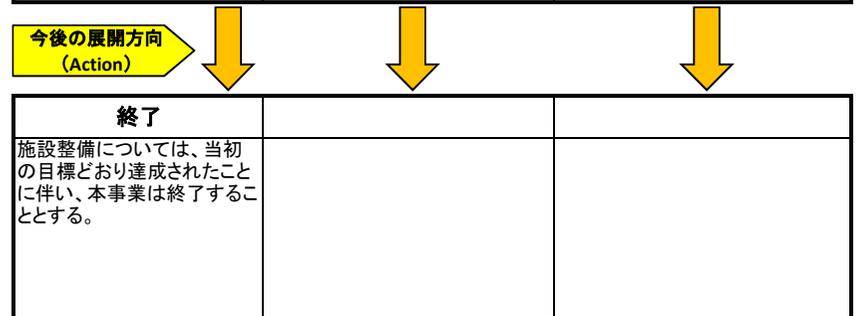
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	水産物の付加価値向上は、水産加工業者・漁業者の所得向上につながるから公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
業界からの要請に基づき、最短で整備することができ、当初の目的が達成された。		



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040180

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	水産廃棄物処理料軽減対策事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和3年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	ウロ処理量				#N/A	
事業目標	100%/年		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	ほたて原貝の加工時に発生するほたてウロ等の残渣物に対する廃棄物処理料の負担軽減対策を行う。 町補助額 5,500円/t	ウロ処理量 940t 町補助金 5,170千円	ウロ処理量 1,200t 町補助金 6,600千円	ウロ処理量 1,200t 町補助金 6,600千円	ウロ処理量 1,200t 町補助金 6,600千円	
	事業費(千円)	24,970	5,170	6,600	6,600	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	24,970	5,170	6,600	6,600	6,600	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	10,924	5,259	5,665	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	10,924	5,259	5,665			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 年間ウロ処理量 956.1t ホタテ原貝取扱量 20,653t	(実施内容等) 年間ウロ処理量 1,030t ホタテ原貝取扱量 19,574t	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	ウロ処理量 100%	ウロ処理量 100%	ウロ処理量 100%	ウロ処理量 100%
		年度達成率	102%	86%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	21%	44%	44%	44%
	備考欄				#DIV/0!	

事業名	水産廃棄物処理料軽減対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	水産加工業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	ウロ処理量								
抱える課題やニーズ	地場産原貝不足による移入貝殻輸送コスト、原貝価格の上昇、原油価格の高騰等による加工コスト上昇及び加工残渣物処理費用負担による経営基盤の低下	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	加工コスト低減により、水産加工業の経営基盤の強化を図る。	① ウロ処理量	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1,030 t</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1,030 t</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1,030 t	実績値	1,030 t	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	1,030 t										
実績値	1,030 t										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地場産ほたて貝生産20,000t体制の確立を目指している中、脆弱化した水産加工業の経営基盤の強化を図ることで、生産から流通までの一貫した地域経済基盤の安定強化を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	事業実施団体への補助金の支出	雄武水産施設利用協同組合が町内加工業者から徴収するほたて貝加工残渣物の廃棄物処理手数料に対する補助金の支出									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地場産ほたて貝の増産計画もある中、廃棄物処理体制の早期安定化及び負担軽減を促進させることは必要不可欠である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		事業実施により収益悪化を抑制することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		ウロ処理基材ホッパーの増設の影響もあり、廃棄物処理コストの低減対策が進められている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		加工業者が負担する廃棄物処理料のおおむね3分の1を補助することとしている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
計画どおり事業が実施され、水産加工業における経営基盤の早期安定の一助となっている。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持	
地場産ほたて貝については、増産体制の確立が途上であり、移入貝の依存度も高く生産コストが増大しているため、引き続き支援する必要がある。	同左	

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040190

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	経営基盤の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	水産廃棄物処理緊急改善対策事業資金利子補給事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和2年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	利子補給額				#N/A	
事業目標	100%/年		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	ほたて貝のウロ処理プラントの更新等の水産廃棄物処理施設改良事業に伴う、借入資金に対する利子補給 資金借入総額 210,000千円 利子補給総額 11,806千円 (平成24年度～令和2年度)	利子補給額 540千円 ※償還元金 15,000千円	利子補給額 361千円 ※償還元金 15,000千円	利子補給額 180千円 ※償還元金 15,000千円		
	事業費(千円) 1,081 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 1,081	540 540	361 361	180 180	0	0
計 画 事 業 費	事業費(千円) 901 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 901	540 540	361 361	0	0	0
	特定財源の名称 【評価・実績】	(実施内容等) 利子補給補助金の支出 540千円 償還額 元金 27,000千円 支払利息 540千円 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) 利子補給補助金の支出 361千円 償還額 元金 27,000千円 支払利息 361千円 ※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果
関 連 事 項	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率 100%	利子補給額 100% 100%	利子補給額 100% 0%	#DIV/0! 83%	#DIV/0! 83%
	後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率 備考欄	50%	83%	83%	83%

事業名	水産廃棄物処理緊急改善対策事業資金利子補給事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	水産加工業者・水産施設利用協同組合	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	利子補給額								
抱える課題やニーズ	水産施設利用協同組合が運営するほたてウロ処理プラントの故障及び民間廃棄物処理業者の受入れ縮小により、廃棄物処理体制の確立が急務となっていた。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	ほたてウロ処理プラントの更新・改良により安定的な処理体制の確立と処理コストの削減を目指す。	① 利子補給額	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>361千円</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>361千円</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	361千円	実績値	361千円	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	361千円										
実績値	361千円										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	ほたてウロの自己処理体制の確立により、水産廃棄物処理事業の早期健全化と運営コストの削減を図り、水産物流通加工基盤の安定化を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	資金借入に対する支払利子の補填	平成24年度に実施した水産廃棄物処理施設の改良・機器更新事業に要した、長期借入資金に対する支払利子相当額の補助									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地場産ほたて貝の増産計画もある中、廃棄物処理体制の早期安定化及び負担軽減を促進させることは必要不可欠である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		計画どおり利子補給を行うことにより、水産施設利用協同組合の負担の軽減が図られている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		資金借入にあたっては、町内金融機関を利用することで低利な融資を受けることができ、支払利子が軽減されている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		施設改良資金については、全て自己資金で行っており、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ウロ処理コストの削減、また、二次製品の販売を行うなど、計画どおり事業を進められている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
ウロ処理については、機器増設により改善が図られていることから、借入資金の完済まで継続して実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09040210

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	○令和5年度～9年度 総事業費500千円(100千円/年)
単位施策	1 災害予防対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	救難所整備事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武救難所	関 係 課	#N/A	
事業指標	海難事故防止活動回数		#N/A	
事業目標	3回/年	ハード／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	海難事故防止活動に対する補助	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	
	○事業費 5,000千円	○事業費 1,000千円	○事業費 1,000千円				
<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 1,500千円 ・救助訓練 2,000千円 ・全道大会 1,000千円 ・講習会費 500千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 300千円 ・救助訓練 400千円 ・全道大会 200千円 ・講習会費 100千円 	
○財源内訳 4,500千円	○財源内訳 900千円						
<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 500千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己財源 ・町補助金 100千円 	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	500	100	100	100	100	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	500	100	100	100	100		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	200	100	100	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	200	100	100				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器整備 ・救助訓練 ・全道大会参加 ・講習会 			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	海難事故防止活動 3回	海難事故防止活動 3回	海難事故防止活動 3回	海難事故防止活動 3回	海難事故防止活動 3回
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
	全体達成率	20%	40%	40%	40%	40%	
	備考欄						

事業名	救難所整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	日本水難救済会雄武救難所	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	海難事故防止活動		
抱える課題やニーズ	海難事故の防止及び事故発生時の迅速な対応	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	海難防止に対する意識の高揚及び事故発生時の迅速な対応	① 海難事故防止活動回数	目標年度	令和元年度	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	救助体制の強化及び各種訓練、講習会参加等により、海難事故等に対応する体制の確立		目標値	3回	
		実績値	3回		
内容(どのような手段で何をを行ったか)	事業実施団体への補助金の支出	海難救助訓練、青い羽根募金活動、海難防止パレード等を実施している日本水難救済会雄武救難所に補助金を支出	達成度	100.0 %	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	漁業者及びプレジャーボート等への漁港開放による一般利用者への海難事故防止対策を地域で確立させる取組みであることから、支援する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		海難事故等に対応する救助訓練や研修などにより、体制づくりが図られている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		海難事故防止等に対応する体制づくりに対する補助金であり、事業費削減にも努めている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		漁業者及びプレジャーボート等への漁港開放による一般利用者への海難事故防止対策を地域の漁業者が中心となって取組んでいる事業であることから、事業の公平性が保たれている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
毎年実施している救助訓練等により、突発的に発生する海難事故に対応する体制が整っている。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
漁業者のみならず、海洋レジャーの普及やプレジャーボート等による海難事故の発生が危惧される中、地域の漁業者が中心となってボランティアで取組んでいる事業であり、継続して事業を実施する必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050010

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	事業所の体づくりへの支援	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	商工業振興事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	小規模事業者及び商工業者の数(商工会員)				#N/A	
事業目標	170企業		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町商工業振興事業補助金交付規則	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	商工会による小規模事業者の支援に関する法律に基づく経営改善普及事業に係る補助	商工会に対する補助金	商工会に対する補助金	商工会に対する補助金	商工会に対する補助金	商工会に対する補助金
	事業費(千円)	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	20,000	10,000	10,000	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	20,000	10,000	10,000			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 商工会に対する補助金 加盟事業所数 159事業所	(実施内容等) 商工会に対する補助金 加盟事業所数 159事業所	(実施内容等)	(実施内容等)
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	170企業	170企業	170企業	170企業	170企業
	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%	40%
	備考欄					

事業名	商工業振興事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町商工会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	小規模事業者及び商工会会員数								
抱える課題やニーズ	商工会の指導体制強化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	商工会の指導体制強化を図ることで町内小規模事業者の経営改善を実現し、購買力の町外流出防止と商店街の再生を目指す。	① 会員数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>170人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>159人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>93.5%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	170人	実績値	159人	達成度	93.5%
目標年度	令和元年度										
目標値	170人										
実績値	159人										
達成度	93.5%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	消費者ニーズの適格な把握と各商店の経営効率改善により、商工業の活性化が図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	商工会への人件費・指導事業費補助 ・指導人件費(事業費-国・道補助金)×80%補助 ・指導事業費(事業費-国・道補助金)×70%補助										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	商工会は小規模事業者の経営改善を支援することが法律で定められており、これを指導する職員の配置は必須である。しかし、商工会は自己財源による運営は困難であり、商工業の経営健全化推進の観点から、町が支援することが適当である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標値を下回る結果となった。しかし、長期にわたる景気低迷や後継者不在等の理由から、廃業する店舗(商工会脱退)が顕著となるなか前年と同じ会員数を維持しており、商店街再生を目的とした事業を実施するなど、課題の解決に向けた新たな取組を計画・実施している。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本補助金は、細部にわたって精査の上で金額を算定しており、今後の飛躍的な削減は見込めないものと判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	特定団体への補助であるが、商工会は商工会法により定められている公共性の高い団体であることから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
目標達成度は下回っているが、社会情勢からやむを得ないものであり、また商工会の運営財源の確保及び商工業の経営健全化推進の観点から、町が支援することが適当である。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
現在、商工会では経営発達支援計画の認定を受け、伴走型小規模事業者支援事業や拠点販売事業等、限られた予算・人員の中で新たな事業展開を実施しており、今後の商店街活性化のため、現状どおりの支援が必要と考える。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050020

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武町中小企業等融資あっせん条例に基づいた事業 新条例は、令和2年3月31日限り、その効力を失う。
基本施策	4 商工業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 事業所の体づくりへの支援	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	中小企業等振興事業	見直し年度	令和元年度	
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	施設建設等件数及び融資貸付件数		#N/A	
事業目標	施設建設等件数10件、融資貸付件数45件	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町中小企業等振興助成条例、雄武町中小企業等融資あっせん条例	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	1 中小企業振興資金の融資	1 中小企業振興資金の融資	1 中小企業振興資金の融資	1 中小企業振興資金の融資	1 中小企業振興資金の融資	1 中小企業振興資金の融資
	2 1の融資に係る利子補助	200,000千円(預託貸付金)	200,000千円(預託貸付金)	200,000千円(預託貸付金)	200,000千円(預託貸付金)	200,000千円(預託貸付金)
	3 1の融資に係る保証料補助	2 1の融資に係る利子補助	2 1の融資に係る利子補助	2 1の融資に係る利子補助	2 1の融資に係る利子補助	2 1の融資に係る利子補助
	4 施設設置に対する助成	7,100千円	7,100千円	7,100千円	7,100千円	7,100千円
	5 現条例の検証	3 1の融資に係る保証料補助	3 1の融資に係る保証料補助	3 1の融資に係る保証料補助	3 1の融資に係る保証料補助	3 1の融資に係る保証料補助
	6 新条例の制定	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円
	4 施設設置に対する助成	4 施設設置に対する助成	4 施設設置に対する助成	4 施設設置に対する助成	4 施設設置に対する助成	4 施設設置に対する助成
	※施設新設・増設～	※施設新設・増設～	※施設新設・増設～	※施設新設・増設～	※施設新設・増設～	※施設新設・増設～
	1/3助成(限度額5,000千円)	1/3助成(限度額5,000千円)	1/3助成(限度額5,000千円)	1/3助成(限度額5,000千円)	1/3助成(限度額5,000千円)	1/3助成(限度額5,000千円)
	※施設改修～	※施設改修～	※施設改修～	※施設改修～	※施設改修～	※施設改修～
	1/3助成(限度額2,000千円)	1/3助成(限度額2,000千円)	1/3助成(限度額2,000千円)	1/3助成(限度額2,000千円)	1/3助成(限度額2,000千円)	1/3助成(限度額2,000千円)
	※特産物開発～	※特産物開発～	※特産物開発～	※特産物開発～	※特産物開発～	※特産物開発～
	3/10助成(限度額3,000千円)	3/10助成(限度額3,000千円)	3/10助成(限度額3,000千円)	3/10助成(限度額3,000千円)	3/10助成(限度額3,000千円)	3/10助成(限度額3,000千円)
		5 現条例の検証 6 新条例の制定				
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,128,000	225,600	225,600	225,600	225,600
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	1,000,000	200,000	200,000	200,000	200,000	
一般財源	128,000	25,600	25,600	25,600	25,600	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	467,924	227,792	240,132	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	400,000	200,000	200,000			
一般財源	67,924	27,792	40,132			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	中小企業金融対策貸付 預託金		・利子、保証料補助 新規融資件数:24件 新規融資額:202,150千円	・利子、保証料補助 新規融資件数:17件 新規融資額:131,780千円		
		【評価・実績】	・施設設置、新製品開発等に係る 助成7件、助成額:19,632千円	・施設設置、新製品開発等に係る 助成17件、助成額:34,286千円		
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	施設建設等件数10件、融資年45件	施設建設等件数10件、融資年45件	施設建設等件数10件、融資年45件	施設建設等件数10件、融資年45件
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	101%	106%	0%	0%	0%
	全体達成率	20%	41%	41%	41%	41%
	備考欄					

事業名	中小企業等振興事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内中小企業者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	融資実行件数及び施設整備等助成件数	
抱える課題やニーズ	経済の低迷により企業収益が向上せず、設備投資等のため継続的な資金調達が必要となっている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	貸付制度の利用により、継続的な事業展開が可能となる。また、保証料補助によって中小企業ゆえに高額となりがちな保証料の負担軽減を図る。施設整備の補助によって町内企業の生産性及び福利厚生を向上させ、経営基盤の強化を図る。	① 融資件数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	円滑な融資が継続されることにより、地元中小企業の資金調達が容易となり、経営基盤の安定が図られる。		目標値	45件
内容(どのような手段で何を行ったか)	中小企業融資に係る保証料及び利子の補給補助	② 施設設置・新製品開発等に対する助成件数	実績値	17件
	各金融機関への貸付金預託		達成度	37.8%
	施設整備に対する補助		目標年度	令和元年度
			目標値	10件
			実績値	17件
			達成度	170.0%
			融資を受けた中小企業者が支払った保証料の50%及び利子全額(3ヵ年)を補給する。	
			地域の中小企業等の多岐にわたる経済活動を支援するため、町は一定範囲にて町内信用金庫に資金を預託し、各信用金庫は独自資金に預託金を加えることにより融資の原資を確保している。	
			施設等の新設及び改修等については対象経費の1/3(上限~新設:5,000千円、改修:2,000千円)、特産品開発等については対象経費の30/100(上限:3,000千円)を助成する。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域経済の活性化と中小企業等の経営基盤安定のため、地元中小企業者が使いやすい制度資金及び施設整備助成は必要と考える。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本事業の実施により、円滑かつ継続的な資金調達が確保されており、本事業の有効性は高いと判断する。また、施設整備等に対しても、企業に対する助成についても、積極的な設備投資等が図られており、概ね有効的と判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	中小企業の支払った保証料及び利子実績に応じた補給補助であるため、過剰な補給補助は発生していない。施設等への助成についても、企業に対する自主的な努力を助長する形となっており、効率的と判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	法人及び個人事業主を含め、町内全ての中小企業者等を対象としており、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業については、平成29年度から新たな融資制度を開始しており、3年目を迎えることから、当初計画を下回る融資となっているが、継続的な資金調達が確保されており、計画どおり事業を進める必要があると判断する。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
商工会並びに町内金融機関と連携をとり、中小企業者が継続的な事業展開が可能となるよう、引き続き、融資あつせん等を行うとともに、施設整備助成支援を継続して実施する。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050030

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	事業所の体づくりへの支援	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	商業活性化推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	町内商工業の販売額				#N/A	
事業目標	販売率100%		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助(プレミアム率20%)	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助(プレミアム率20%)	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助(プレミアム率20%)	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助(プレミアム率20%)	商工会に対する補助 ・プレミアム商品券発行事業に対する補助(プレミアム率20%)	
	事業費(千円)	30,000	6,000	6,000	6,000	6,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	30,000	6,000	6,000	6,000	6,000		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,000	6,000	6,000	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	12,000	6,000	6,000				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) プレミアム商品券発行事業に対する補助 発行枚数: 54,000枚 売上金額: 36,000千円 使用実績: 35,905千円	(実施内容等) プレミアム商品券発行事業に対する補助 発行枚数: 54,000枚 売上金額: 36,000千円 使用実績: 35,939千円	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値 販売率100%	販売率100%	販売率100%	販売率100%	販売率100%
	後期計画への継続 (継続有り)		年度達成率 100%	100%	0%	0%	0%
			全体達成率 20%	40%	40%	40%	40%
	備考欄						

事業名	商業活性化推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内商工業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	販売枚数及び換金額								
抱える課題やニーズ	町外の量販店・郊外大型ショッピングセンターへ顧客が流出し、町内小売業の活力が低下している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地元での購買意欲を喚起し、販売額の向上を目指す。	① 販売枚数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>54,000枚</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>54,000枚</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	54,000枚	実績値	54,000枚	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	54,000枚										
実績値	54,000枚										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	町経済が活性化し、地元商工業者の経営基盤が安定する。	② 換金額	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>36,000千円</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>35,939千円</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>99.8%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	36,000千円	実績値	35,939千円	達成度	99.8%
目標年度	令和元年度										
目標値	36,000千円										
実績値	35,939千円										
達成度	99.8%										
内容(どのような手段で何を行ったか)	プレミアム商品券の発行に係る割増額の補助	12,000円分の商品券のプレミア額2,000円分を町が負担(100%)、その他発行に係る経費(印刷・広告宣伝等)は商工会が負担。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	経済の長期低迷と購買力の町外流出が続中、地元における消費拡大のため、当面は行政の支援が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	計画枚数を完売していることから見て、町民への定着も十分と考える。また、国及び北海道の交付金が終了したなか、プレミアム率20%を維持していることや地域商工業者が併せて行っている自助努力により、相乗効果が発生しており、経済効果があったと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町外への顧客流出、大型量販店の参入などにより流通形態が変化しているなか、商店経営の一助となっており、効果的である。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	プレミアム商品券の発行については、町民が利益を受けるものであり、また、限度額を設定していることから公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
プレミアム率の維持により、非常に高い効果が得られている。商店経営の一助等の位置付けもあることから、町内商店街の自助努力を引き続き促進していくためにも必要と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
プレミアム率の維持により地元での購買意欲が喚起されており、町経済の活性化と地元商工業者の経営基盤強化が図られていることから、今後とも継続して実施する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050040

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	事業所の体づくりへの支援	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	小規模企業者創業支援事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	創業件数				#N/A	
事業目標	創業件数 1件		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	小規模企業振興基本条例、小規模企業創業支援助成金交付規則	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	創業を目的とする小規模事業者に対する支援	○制度設計・条例の制定	○施設整備等に対する助成	○施設整備等に対する助成	○施設整備等に対する助成	○施設整備等に対する助成	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	20,000	0	5,000	5,000	5,000	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	20,000	0	5,000	5,000	5,000
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,000	0	5,000	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	5,000	0	5,000		
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) ・制度設計 ・小規模企業振興基本条例制定 ・小規模企業創業支援助成金交付規則制定	(実施内容等) 創業件数 1件	(実施内容等)	(実施内容等)	
第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 条例の制定 1条例	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 創業件数 1件	※事務事業評価結果 創業件数 1件	※事務事業評価結果 創業件数 1件	※事務事業評価結果 創業件数 1件	
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	100%	0%	0%	0%	
	全体達成率	0%	25%	25%	25%	25%	
	備考欄						

事業名	小規模企業者創業支援事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小規模事業者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	創業件数		
抱える課題やニーズ	近隣市町村への大型店の出店や経営者の高齢化、後継者不足による小規模事業者の減少		①	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	新規創業者の増加			目標値	1件
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	新規創業により商店街の活性化とともに、空き店舗の解消が図られる。		②	実績値	1件
内容(どのような手段で何を行ったか)	創業支援	達成度		100.0%	
		創業支援助成金 5,000千円×1件	目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	経営者の高齢化、後継者不足により小規模事業者が減少していることから、商店街の活性化や空き店舗の解消を図るため、新規創業に対する支援が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	経営者の高齢化、後継者不足により小規模事業者が減少しているなか、創業を支援することで商店街の活性化に繋がることから有効的である。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	経営者の高齢化、後継者不足により空き店舗が増加しているなか、商店経営の一助となり、利用する町民の利便性も向上することから、効果的である。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	法人及び個人事業主を含め、町内全ての方を対象としていることから、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
小規模事業者の創業支援を行うことにより、商店街の活性化及び町民の利便性向上につながる本事業については継続的業務を進める必要があると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
小規模事業者の創業が適切に進むよう、商工会並びに町内金融機関と連携をとり事業を進めていく。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050050

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	夏まつり開催				#N/A	
事業目標	夏まつりの開催年1回		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	夏まつり開催に係る運営補助金	夏まつり開催に係る運営補助金	夏まつり開催に係る運営補助金	夏まつり開催に係る運営補助金	夏まつり開催に係る運営補助金	夏まつり開催に係る運営補助金	
	事業費(千円)	2,500	500	500	500	500	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	2,500	500	500	500	500		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,000	500	500	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	1,000	500	500				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 夏まつり開催に係る運営補助金 入込観客数:300人	(実施内容等) 夏まつり開催に係る運営補助金 入込観客数:400人	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	年1回	年1回	年1回	年1回
			年度達成率	100%	100%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	20%	40%	40%	40%
			備考欄				

事業名	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町大通り商店街協同組合	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	イベント実施回数		
抱える課題やニーズ	予算上の制約と関係者の高齢化		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	イベントを実施することで商店街の賑わいを演出し、町民同士・家族同士のふれあいの機会を作る。	① 実施回数	目標年度	令和元年度	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	商店街関係者のみならず多くの団体等が関わることにより、町全体の行事として定着し、賑わいのある商店街実現の一端を担う。		目標値	1回	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	補助金の支出	「サンパロットまつり」開催に対する補助金支出。 (子ども盆踊り、仮装盆踊り、抽選会、縁日、売店等の各種アトラクションの実施等)	実績値	1回	
			達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	当事業は大通り商店街協同組合の財政上の制約によりイベント開催が危惧されたことに起因するものであり、イベント自体も定着してきていることから、今後とも支援が必要と考える。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	商店街関係者のみならず多くの団体等が関わることにより、町全体の行事として定着しており、参加者は盆踊りのほか出店等を満喫し、期待した効果はあったと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	実行団体にあつては、限られた予算・人員の中で企画実施しており、効率的と判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民広くを対象としたイベント開催事業であり、雄武町の短い夏のイベントとして定着してきていることから、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民のほか、帰省中の町民が集い盆踊りや抽選会を楽しんでいることから、目標は達成されたと判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
商店街関係者のみならず多くの団体等が関わることにより、町全体の行事として定着している。更には仮装盆踊りのような参加型イベントでもあるため継続して実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050050

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4 商工業の振興	事 業 優 先 度	B	平成30年度から令和2年度までの長期継続契約 ※令和3年度以降、3年ごとに長期継続契約
単位施策	2 商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 年 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	施設の維持管理		#N/A	
事業目標	適切な維持管理	ハート／ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 地域交流センター条例	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年 度 事 業 内 容	令和 2 年 度 事 業 内 容	令和 3 年 度 事 業 内 容	令和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	地域交流センター管理・清掃委託	地域交流センター管理・清掃委託	地域交流センター管理・清掃委託	地域交流センター管理・清掃委託	地域交流センター管理・清掃委託	地域交流センター管理・清掃委託
	事業費(千円)	31,939	6,310	6,366	6,421	6,421
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	31,939	6,310	6,366	6,421	6,421	6,421
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,647	6,300	6,347	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	12,647	6,300	6,347			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 地域交流センター管理・清掃委託 利用者総数 11,558人	(実施内容等) 地域交流センター管理・清掃委託 利用者総数 13,631人	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	A-継続／現状維持	A-継続／現状維持	A-継続／現状維持			
	適切な維持管理	適切な維持管理	適切な維持管理	適切な維持管理	適切な維持管理	適切な維持管理
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	100%	100%	0%	0%
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	20%	40%	40%	40%	40%
	全体達成率					
	備考欄					

事業名	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民、来町者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	維持管理	
抱える課題やニーズ	利用者が快適に利用するには適切な運営・管理を行う必要がある。			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域交流センターは市街地の中心に位置し、「道の駅」の指定も受けている。通年で多くの人が訪れる雄武の顔とも言える施設であることから、良好な管理・運営により利用者への満足度を高める。		① 適切な維持管理	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	清潔で快適な施設の提供に加え、特産品の販売や観光情報の発信によってサービス向上を目指す。			目標値	1式
			実績値	1式	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	施設の維持管理・清掃業務の委託	施設内に事務所を開設している商工会への業務委託	達成度	100.0 %	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域交流センターは市街地の中心に位置し、「道の駅」の指定も受けている。通年で多くの人が訪れる雄武の顔とも言える施設であることから、適切な管理・運営が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	地域交流センターに事務所を開設している商工会に委託していることから、施設の管理状況の報告、異常箇所の報告等の迅速な対応による適切な維持管理が行われており、有効と判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	公共工事に使用する労務単価を使用するなど、適正な委託料の算定に努めている。また、消耗品については委託契約の中に含めず町で購入している。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民誰もが使用できる施設であることから公平と判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
施設の管理状況の報告、異常箇所の報告等の迅速な対応による適切な維持管理が実施されており、目標は達成されていると判断する。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
施設の管理状況の報告、異常箇所の報告等の迅速な対応による適切な維持管理が行われており、当面、継続して実施する必要がある。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050070

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	大通り商店街協同組合街灯費補助事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	組合の安定運営				#N/A	
事業目標	1組合		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年 度 事 業 内 容	令和 2 年 度 事 業 内 容	令和 3 年 度 事 業 内 容	令和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助	大通り商店街協同組合に対する街灯費補助
	事業費(千円)	1,000	200	200	200	200
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,000	200	200	200	200	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	400	200	200	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	400	200	200			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 大通り商店街協同組合が行う事業に対する補助(街灯費補助)	(実施内容等) 大通り商店街協同組合が行う事業に対する補助(街灯費補助)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	1組合	1組合	1組合	1組合
		年度達成率	100%	100%	0%	0%
	後期計画への継続(継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%
	備考欄					

事業名	大通り商店街協同組合街灯費補助事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町大通り商店街協同組合	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	組合数								
抱える課題やニーズ	組合員の減少(廃業等)、組織体制の強化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	買い物客への利便性、防犯性の向上により、商店街の活性化を図る。	① 組合数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1組合</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1組合</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1組合	実績値	1組合	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1組合										
実績値	1組合										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	商店街活性化による組織強化、地域の防犯性の向上	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	街灯電気料の補助	大通り商店街協同組合に対する街灯電気料金の補助									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	本来は自助努力により街灯費等の負担を行うべきであるが、組合の維持運営に係る経費増から困難であり、夜間の防犯上及び商店街の集客上、公共性の高いものと判断されることから、町による補助が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	これまでに商店街での犯罪が少ないこと、また、限られた予算においてふるさと夏まつり盆踊り大会の開催や冬期イルミネーションの設置による街並み装飾・植栽等の活動を行っていることを鑑み、有効と判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	街灯料金に対する補助であること、また、省エネ街灯(LED)へ転換したことにより、ランニングコストが抑えられており効率的と判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	各自治会への街灯電気料補助に準じたものであり、公共性の高い場所であることから、公平と判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公共性の高い場所にある街灯電気料の補助であり、夜間の防犯、商店街の集客に対して効果がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
LED街灯へ転換したことにより街灯費は削減されているが、対象が公共性の高い場所であることから現行の補助を継続する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050080

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	2	財務企画課	
事業指標	移動コンビニ設置拠点数			5	保健福祉課	
事業目標	3箇所(地区)		ハート* / ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容	
計 画 内 容	商工会に対する補助金	○地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業 事業費:13,248千円 人件費、車両リース料他	○地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業 事業費:12,998千円 人件費、車両リース料他	○地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業 事業費:7,398千円 人件費他	○地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業 事業費:7,398千円 人件費他	○地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業 事業費:7,398千円 人件費他	
	1 買物弱者に対する拠点販売事業に対する補助金						
	2 商業活性化事業に対する補助金						
	3 副次的効果として、高齢者安否確認に対する補助金						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	48,440	13,248	12,998	7,398	7,398	
	財 源 内 訳	国庫支出金	14,248	7,124	7,124		
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	34,192	6,124	5,874	7,398	7,398
事業費(千円)	26,246	13,248	12,998	0	0		
実 績 事 業 費	国庫支出金	14,248	7,124	7,124			
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	11,998	6,124	5,874			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	地方創生推進交付金		拠点販売事業実施に係る事業費を補助	拠点販売事業実施に係る事業費を補助			
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	拠点販売設置数2箇所	拠点販売設置数3箇所	拠点販売設置数3箇所	拠点販売設置数3箇所	拠点販売設置数3箇所	
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%	
	全体達成率	27%	54%	54%	54%	54%	
	備考欄						

事業名	地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	移動コンビニ設置拠点数										
抱える課題やニーズ	市街地、郊外地区の居住者で交通手段の持たない高齢者、独居老人世帯が増加している。	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>3箇所</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>3箇所</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標値及び実績値		目標年度	令和元年度	目標値	3箇所	実績値	3箇所	達成度	100.0%
目標値及び実績値													
目標年度	令和元年度												
目標値	3箇所												
実績値	3箇所												
達成度	100.0%												
どのような状態になることを目指したのか(意図)	拠点販売事業による買物弱者の解消と町民の買物環境向上、地域コミュニティの活性化	①	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	巡回先の住民支援及び商工業者の活力の向上	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
内容(どのような手段で何をを行ったか)	「地域の拠点(小さな拠点)における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業」実施に係る補助	冷凍・冷蔵機能を持つ2トントラックロングを改造した拠点販売車両により、集落地域の地区住民センターなどを拠点として、毎週定期的に出向いて日用品や生鮮品の販売、代行サービスなどを行った。(登録会員数 H30:140名⇒R01:140名 増減なし)											

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者や商工業者の活力の向上を目指すためにも本事業の補助は必要と判断される。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	拠点販売の実施により各地区から事業実施の要望が多い。登録会員数も140名と、当初の想定より多くの登録があり、高齢者等の利便性が図られている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	買物弱者への利便性の向上ばかりでなく、事業者及び商店街全体の活性化の一助となっている。また、訪問による安否確認など、地域福祉の増進にも寄与している。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	実施主体である商工会並びに加盟店への負担があること、商店街での買い物に不便を強いられている高齢者等へ実施している事業であること(登録に関する負担はない)などから、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
高齢者等の買物環境の利便性及び町内商店の活性化の一助となる重要な事業である。また、拠点販売の実施により各地区から事業実施の要望が多く、登録会員数も増加している。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
拠点販売の実施により更なる買物環境の利便性向上が図られ、また、各地区から事業実施の要望が多く、登録会員も高止まりで推移していることから、今後も継続して事業を進めることが適当である。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050090

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	地域交流センター整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和2年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	施設の整備				#N/A	
事業目標	施設の整備		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	地域交流センター周辺の整備を行い、道の駅機能としての観光客及びコミュニティ施設としての利用者の利便性及び快適性の向上を図る。	公衆(屋外)トイレ洋式化工事 ～6基(男2・女3・身障1) ※H29補正繰越事業	地域交流センター他自動ドア 改修工事	地域交流センター屋外分煙施設 設置工事		
	事業費(千円)	1,650	0	1,400	250	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,650	0	1,400	250		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,621	2,246	1,375	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	3,621	2,246	1,375			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 公衆(屋外)トイレ洋式化改修 工事	(実施内容等) 地域交流センター他自動ドア 改修工事	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	施設の整備	施設の整備	施設の整備	
		年度達成率	#DIV/0!	98%	0%	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	136%	219%	219%	219%
	備考欄					

事業名	地域交流センター整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	地域交流センター利用者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	施設の整備	
抱える課題やニーズ	経年による設備、備品の更新			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	利用者の利便性向上		① 施設の整備	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道の駅機能としての観光客及びコミュニティ施設としての利用者の利便性の向上			目標値	1式
			実績値	1式	
内容(どのような手段で何を行ったか)	地域交流センター他自動ドア改修工事	自動ドア改修4基(地域交流センター2基、屋外公衆トイレ2基)	達成度	100.0%	
			②	目標年度	令和元年度
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民及び観光客が多く利用する施設であることから、利用環境の整備が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	利用者数の増加等明確な効果が直ちに発現しないものの、良好な周辺環境整備によって利用者のニーズに応えているものと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	施設の規模、必要性を精査したうえで、事業を進めたため、コストを抑制できた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民及び観光客が多く利用する施設整備(周辺整備)であることから公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民及び観光客が多く利用する施設整備(周辺整備)であり、今回の整備によって利用者のニーズに応えるものとなった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
観光施設及びコミュニティ施設としての利用者の利便性向上を図るため、計画通り事業を進める必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050100

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	空き店舗活用事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	5	保健福祉課	
事業指標	空き店舗の有効活用				#N/A	
事業目標	対象店舗2店		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	空き店舗活用に対する運営費補助 ・新規創業を目指した短期チャレンジショップの提供 ・特産品開発を目指した試作販売事業の補助 ・商店街の休憩施設と同時に高齢者向けサロンの提供 ・地域コミュニティの核となる賑わいの場の提供	空き店舗活用に対する運営費補助	空き店舗活用に対する運営費補助	空き店舗活用に対する運営費補助	空き店舗活用に対する運営費補助	空き店舗活用に対する運営費補助
	事業費(千円)	5,500	1,500	1,000	1,000	1,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	5,500	1,500	1,000	1,000	1,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,500	1,500	1,000	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,500	1,500	1,000			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 空き店舗活用事業に対する補助	(実施内容等) 空き店舗活用事業に対する補助	(実施内容等)	(実施内容等)
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 対象店舗2店	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 対象店舗2店	※事務事業評価結果 対象店舗2店	※事務事業評価結果 対象店舗2店	※事務事業評価結果 対象店舗2店
後期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
	全体達成率	27%	45%	45%	45%	45%
	備考欄					

事業名	空き店舗活用事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	空き店舗活用数										
抱える課題やニーズ	消費の流出による町内商店街の空洞化	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標値及び実績値		目標年度	令和元年度	目標値	2件	実績値	2件	達成度	100.0%
目標値及び実績値													
目標年度	令和元年度												
目標値	2件												
実績値	2件												
達成度	100.0%												
どのような状態になることを目指したのか(意図)	空き店舗を有効に活用することで、地域住民のニーズに沿った商店街の再生を目指す。	① 空き店舗活用数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地域住民の交流スペースとしての活用及び試作販売事業等の実施により商店街の活性化が図られる。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度			
目標年度	令和元年度												
目標値													
実績値													
達成度													
内容(どのような手段で何を行ったか)	補助金の支出	空き店舗活用事業に対する補助金支出。 (賑わいの場の創出、チャレンジショップ開催・試作販売事業の運営)											

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	少子高齢化の著しい進展と消費の流出による町内商店街の空洞化に対し、速やかな対策による地域の活性化を図るため、本事業の補助は必要と判断する。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	シニア世代を中心にコミュニティスペースとして活用されているほか、チャレンジショップや試作販売事業についても多くの客が訪れており、有効と判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	限られた予算・人員の中で企画実施しており、効率的と判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業については、シニア世代を中心に広く活用されているほか、チャレンジショップや試作販売事業においても活用されていることから公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
シニア世代からはコミュニティスペースとして活用されているほか、チャレンジショップや試作販売事業においても活用されている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
空き店舗が増加傾向にあるなか、現行の活用に加え、新たな創業支援施策を実施するうえでも重要な施策であることから、事業の継続が必要である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050120

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	4	商工業の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	3	勤労者の就労環境の向上	政 策 事 務 分 類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	勤労者雇用促進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	10	建設水道課	
事業指標	通年雇用の促進及び冬季就労者の雇用				#N/A	
事業目標	通年雇用者5人及び冬季就労人員15人		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	地域雇用開発促進法	
町民協働	無		関係個別計画名	無	通年雇用促進支援事業計画	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	西紋別地域通年雇用促進支援協議会への負担 冬季就労対策事業	○西紋別地域通年雇用促進 支援協議会への負担金 150千円 ○冬季就労対策事業(除雪業務) 2, 205千円	○西紋別地域通年雇用促進 支援協議会への負担金 150千円 ○冬季就労対策事業(除雪業務) 2, 205千円	○西紋別地域通年雇用促進 支援協議会への負担金 150千円 ○冬季就労対策事業(除雪業務) 2, 350千円	○西紋別地域通年雇用促進 支援協議会への負担金 150千円 ○冬季就労対策事業(除雪業務) 2, 350千円	○西紋別地域通年雇用促進 支援協議会への負担金 150千円 ○冬季就労対策事業(除雪業務) 2, 350千円
	事業費(千円)	12,210	2,355	2,355	2,500	2,500
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	12,210	2,355	2,355	2,500	2,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,547	2,273	2,274	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	4,547	2,273	2,274			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) ・紋別地域通年雇用促進支援協 議会への負担金 ・冬季就労対策事業(除雪業務) 就労実人員 10人	(実施内容等) ・紋別地域通年雇用促進支援協 議会への負担金 ・冬季就労対策事業(除雪業務) 就労実人員 10人	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	通年5人・冬季15人	通年5人・冬季15人	通年5人・冬季15人	通年5人・冬季15人
		年度達成率	97%	97%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	19%	37%	37%	37%
	備考欄					

事業名	勤労者雇用促進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	冬期間失業となる労働者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	通年雇用者及び冬期間就労人口		
抱える課題やニーズ	通年雇用を確保できないことにより、生活基盤が不安定となり、消費活動が鈍化する。		① 冬期就労人員	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	冬期失業者の解消			目標値	15人
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	通年雇用の実現によって生活基盤が安定し、それによる購買力向上が地域経済活性化をもたらす。		②	実績値	10人
内容(どのような手段で何を行ったか)	除排雪業務の委託	冬期間における歩道や公営住宅団地内通路の確保、保育所及び社会福祉施設、各バス待合室等の除排雪委託			
	協議会への負担金支出	西紋地域5市町村により構成されている「西紋別地域通年雇用促進支援協議会」への負担金支出(セミナーの開催等)			
			達成度	66.7%	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	除排雪作業等については対象が公共性の高い場所であることから、恒久的な実施が必要である。また、通年雇用対策については、当町のみならず周辺市町村共通の課題であり、町単独では事業実施範囲が限定される可能性があることから、広域連携が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	除排雪作業等については、目標値を下回っているが、冬期間の雇用対策となっていることから、概ね効果があったと判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	除排雪作業等については、公共工事に使用する労務単価を使用するなど、効率的と判断する。また、西紋別地域通年雇用促進支援協議会は市町村からの負担金の他、国・北海道からの委託料が主たる財源であり、総体事業費に対する市町村負担金は小額なことから、効率的であると考え。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	セミナーの開催においては、広報・チラシ等で周知を行っており、冬期就労対策事業では、公共性の高い場所の除雪であることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期就労対策のみならず、円滑な交通や安全性が確保されるため適当と判断する。通年雇用対策については情勢を考慮して必要であると考え。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
雇用情勢の改善は見られるものの、今後とも就職促進に係る事業として協議会と連携し取り組む必要がある。除排雪作業等については、冬期間の雇用対策のために必要であり、今後も支援することが必要である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050130

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	雄武観光の売り込み	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	産業観光まつり運営助成事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	産業観光まつりの実施				#N/A	
事業目標	産業観光まつりの実施年1回実施。入込数25,000人以上		ハート* / ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	実行委員会に対する助成	実行委員会に対する助成 ※第40回記念大会	実行委員会に対する助成	実行委員会に対する助成	実行委員会に対する助成	実行委員会に対する助成	
	事業費(千円)	16,500	4,500	3,000	3,000	3,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	1,000	1,000				
一般財源	15,500	3,500	3,000	3,000	3,000		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	7,500	4,500	3,000	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	1,000	1,000					
一般財源	6,500	3,500	3,000				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 実行委員会に対する助成 観客入込数: 12,000人 実行団体売上額: 6,400千円	(実施内容等) 実行委員会に対する助成 観客入込数: 13,000人 実行団体売上額: 5,170千円	(実施内容等)	(実施内容等)	
	いきいきふるさと推進事業助成金		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			開催回数1回	開催回数1回	開催回数1回	開催回数1回	
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	100%	100%	0%	0%
			年度達成率				
	後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	27%	45%	45%	45%
			備考欄				

事業名	産業観光まつり運営助成事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町産業観光まつり実行委員会		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	開催回数及び入込観客数		
抱える課題やニーズ	付加価値複合品の開発・販売等PR、核となるアトラクション等の確立			① 開催回数	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	魅力あるアトラクション、付加価値販売品目の創造				目標値	1回
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	魅力あるアトラクションと付加価値販売品目の創造による集客増			実績値	1回	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	補助金の交付	産業観光まつり開催に対する補助金の交付	② 入込観客数	達成度	100.0 %	
				目標年度	令和元年度	
			目標値	25,000人		
			実績値	13,000人		
			達成度	52.0 %		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町の物産と観光を広く町内外に紹介し、農林水産業及び商工業の振興を図るとともに、全町民が参加できるイベントであることから、必要と判断する。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	雄武町民のみならず来場者の好評を得ていることから、概ね有効と判断できる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	事業実施にあたっては、構成団体である町内各団体から多くの人的協力を受けながら、限られた予算の中で企画実施していることから、効率的と判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民広くを対象としたイベントであり、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
好天により来場者は増加した、町の特産物が安価で購入できるとともに、各種アトラクションで楽しめることから、町外からの集客も多く、今後も農林水産業・商工業の振興・観光PRのため継続実施が必要と考える。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後も農林水産業・商工業の振興・観光PRのため継続実施が必要と考える。また、集客増に向け内容の充実を引き続き検討していく。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050140

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	雄武観光の売り込み	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	観光協会運営助成事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	協会の安定運営				#N/A	
事業目標	1協会		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	観光協会への運営費助成	○観光協会への運営費助成 ～5,629千円 ・管理費 1,740千円 ・事業費 3,889千円 ※第12回うまいもんまつり事業費 1,500千円含む ○事務局長人件費 4,146千円 ○事務局員人件費 3,470千円 ○会費収入他 △675千円	○観光協会への運営費助成 ～5,799千円 ・管理費 1,820千円 ・事業費 3,979千円 ※第13回うまいもんまつり事業費 1,500千円含む ○事務局長人件費 4,146千円 ○事務局員人件費 5,970千円 ○会費収入他 △675千円	○観光協会への運営費助成 ～7,452千円 ・管理費 1,720千円 ・事業費 5,732千円 ※第14回うまいもんまつり事業費 1,500千円含む ○事務局長人件費 4,146千円 ○事務局員人件費 5,970千円 ○会費収入他 △675千円	○観光協会への運営費助成 ～7,202千円 ・管理費 1,720千円 ・事業費 5,482千円 ※第15回うまいもんまつり事業費 2,500千円含む【記念大会】 ○事務局長人件費 4,146千円 ○事務局員人件費 5,970千円 ○会費収入他 △675千円	○観光協会への運営費助成 ～6,202千円 ・管理費 1,720千円 ・事業費 4,482千円 ※第16回うまいもんまつり事業費 1,500千円含む ○事務局長人件費 4,146千円 ○事務局員人件費 5,970千円 ○会費収入他 △675千円	
	事務局長人件費等相当額助成 事務局員人件費等相当額助成						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	76,989	12,570	15,240	16,893	15,643	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	1,000				1,000
一般財源	75,989	12,570	15,240	16,893	15,643		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	27,810	12,570	15,240	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
一般財源	27,810	12,570	15,240				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	いきいきふるさと推進事業助成金		観光協会への運営費助成	観光協会への運営費助成			
		【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1協会	1協会	1協会	1協会	
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%		
	全体達成率	16%	36%	36%	36%		
	備考欄						

事業名	観光協会運営助成事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町観光協会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補助会員数及び観光入込数								
抱える課題やニーズ	実働人員の不足及び自主財源不足	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	事務局体制の機能強化による滞在体験型観光の促進	① 補助協会数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1協会</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1協会</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1協会	実績値	1協会	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1協会										
実績値	1協会										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	観光客の増加により、地元経済の活性化を図る。	② 入込観光客数 ・産業まつり ・うまいもんまつり	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>30,000人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>19,000人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>63.3%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	30,000人	実績値	19,000人	達成度	63.3%
目標年度	令和元年度										
目標値	30,000人										
実績値	19,000人										
達成度	63.3%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	補助金の支出	観光協会に対する補助金の交付									
	地域おこし協力隊員の派遣	国の制度を活用し、地域おこし協力隊員(観光支援員)を派遣(※R1年度は地域おこし協力隊の確保ができなかったため町職員を派遣)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	既存の事業展開を含め、NPO法人としての事業展開(他地域に向いての特産物の積極的な販売PRの実施、観光ガイド等地域リーダーの育成等)が必要であり、町の支援が必要と考える。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	法人化移行後の事業展開により、イベント開催や観光客誘引の体制強化が図られたものと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	NPO法人(民間)としての強みを活かした活動計画を進めており、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	特定の団体(NPO法人)に対する補助だが、町が積極的に行うべき役割も担っていることから、公平性は確保されていると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
町とは異なる立場から観光PRに取り組んでいる団体であり、町が積極的に支援を行う必要がある。	同左	

今後の展開方向 (Action) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div>	継続/現状維持 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">同左</div>	継続/現状維持 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">同左</div>
---	---	---

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050150

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	雄武観光の売り込み	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	観光PR事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 度	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		担 当 課		#N/A	
事業指標	観光客の増		関 係 課		#N/A	
事業目標	観光客10万人以上		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	観光パンフレット発行 雄武町公認キャラクター作成 特産品PR用品購入 観光PR & 物産販売支援事業 雄武町公認キャラクターを活用したPR活動	○観光パンフレット作製(刷新) 【15,000部】 ～1,000千円 ○雄武町公認キャラクター作成 ・キャラクターデザイン作成 ・商標登録事前調査 ・商標登録出願 ～670千円	○観光パンフレット作製(増刷) 【15,000部】 ～810千円 ○雄武町公認キャラクター作成 ・着ぐるみ作成 ・マニュアル作成 ・商標登録 ～2,060千円 ○特産品PR用品購入 ・焼酎【50本】～70千円 ・韃靼そば茶【200袋】～40千円 ○観光PR & 物産販売支援事業 ・旅費、冷蔵庫借上料、送料 ～260千円	○観光パンフレット作製(増刷) 【15,000部】 ～825千円 ○観光PR & 物産販売支援事業 ・旅費、冷蔵庫借上料、送料 ～260千円 ○雄武町公認キャラクターを活用したPR活動費 ～180千円 ○特産品PR用品購入 ・焼酎【100本】～140千円 ・焼酎贈答用箱～60千円	○観光パンフレット作製(増刷) 【15,000部】 ～825千円 ○観光PR & 物産販売支援事業 ・旅費、冷蔵庫借上料、送料 ～260千円 ○雄武町公認キャラクターを活用したPR活動費 ～180千円 ○特産品PR用品購入 ・焼酎【100本】～140千円	○観光パンフレット作製(増刷) 【15,000部】 ～825千円 ○観光PR & 物産販売支援事業 ・旅費、冷蔵庫借上料、送料 ～260千円 ○雄武町公認キャラクターを活用したPR活動費 ～180千円 ○特産品PR用品購入 ・焼酎【100本】～140千円
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 9,185	1,670	3,240	1,465	1,405
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金 0				
	道支出金 0					
	地方債 0					
	その他 0					
	一般財源 9,185	1,670	3,240	1,465	1,405	1,405
計 画 事 業 費	事業費(千円) 4,418	1,422	2,996	0	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 観光パンフレット作製 15,000部 雄武町公認キャラクターデザイン作成、商標登録出願	(実施内容等) 観光パンフレット作製 15,000部 着ぐるみ作成 商標登録	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 観光客10万人以上	年度目標値 観光客10万人以上	年度目標値 観光客10万人以上	年度目標値 観光客10万人以上	年度目標値 観光客10万人以上
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 85%	年度達成率 92%	年度達成率 0%	年度達成率 0%	年度達成率 0%
		全体達成率 15%	全体達成率 48%	全体達成率 48%	全体達成率 48%	全体達成率 48%
		備考欄				

事業名	観光PR事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町外からの観光客	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	観光パンフレット作成及び観光客数								
抱える課題やニーズ	観光入込み数が横ばい若しくは減少傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	雄武町の観光資源の魅力を十分にPRし、通過型観光から滞在体験型観光への転換を図る。	① 観光パンフレット作製部数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>15,000部</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>15,000部</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	15,000部	実績値	15,000部	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	15,000部										
実績値	15,000部										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	観光客の来訪により町内経済の活性化が見込める。	② 観光客10万人以上	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100,000人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>140,000人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>140.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	100,000人	実績値	140,000人	達成度	140.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	100,000人										
実績値	140,000人										
達成度	140.0%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	観光パンフレットの作成(刷新)	オールカラー(24ページ)の観光パンフレット15,000部を作成した。									
	雄武町公認キャラクター着ぐるみの作成	雄武町公認キャラクターの着ぐるみを作成した。									
	雄武町公認キャラクター商標登録	雄武町公認キャラクターのデザイン・キャラクター名について、商標登録を完了した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	観光客が減少傾向にあるなか、本町の観光をPRすることは急務であることから、事業の実施が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本町の観光情報の収集手段としてパンフレット提供依頼が数多く寄せられており、媒体としての効果を発揮できる。また、公認キャラクターを作成することは、本町のPR並びにイベントの集客力向上に繋がることから有効的である。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	観光パンフレットの作成数については、年度内消費数を勘案し、必要部数を適宜更新(作成)しており、また、公認キャラクターの作成にあたっては、複数の専門業者から見積りを徴するなど、適正な価格で発注していることから効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

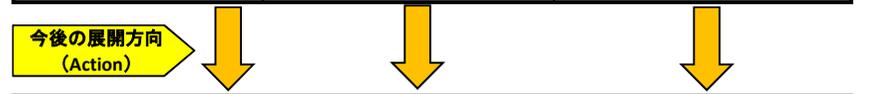
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本町の観光PRを行うことは、町民全員が期待するところであり、また、町内事業者の収益力向上にも繋がることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本町の観光情報の収集手段としてパンフレット提供依頼が数多く寄せられており、媒体としての効果を発揮している。また、公認キャラクターを作成することは、本町のPR並びにイベントの集客力向上に繋がることから、計画どおりの事業実施が必要と判断する。		



継続/現状維持		
各事業者における物産等については、観光協会がHPをリニューアルし詳細な情報を掲載していることから、今後も観光地や町の概要等に特化したパンフレットを作成するため、継続していく必要がある。また、公認キャラクターの作成により、本町の認知度向上を図っていく。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050160

政策目標	1 【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5 観光の振興	事 業 優 先 度	A	
単位施策	2 雄武観光の魅力化	政 策 事 務 分 類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	観光施設維持管理事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	観光エリアの景観形成		#N/A	
事業目標	美しく安全な施設維持	ハート／ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	有 日の出岬管理条例	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	1 日の出岬施設維持管理委託 2 神門の滝維持管理委託	1 日の出岬施設維持管理委託 ・キャンプ場、海浜公園、 サンライズ広場～4,930千円 ・展望台～1,680千円 2 神門の滝維持管理委託 130千円	1 日の出岬施設維持管理委託 ・キャンプ場、海浜公園、 サンライズ広場～5,100千円 ・展望台～1,630千円 2 神門の滝維持管理委託 140千円	1 日の出岬施設維持管理委託 ・キャンプ場、海浜公園、 サンライズ広場～5,400千円 ・展望台～1,655千円 2 神門の滝維持管理委託 170千円 3 神門の滝周辺環境整備工事 1,600千円 4 観光PR看板整備工事 5,000千円	1 日の出岬施設維持管理委託 ・キャンプ場、海浜公園、 サンライズ広場～5,400千円 ・展望台～1,655千円 2 神門の滝維持管理委託 170千円	1 日の出岬施設維持管理委託 ・キャンプ場、海浜公園、 サンライズ広場～5,400千円 ・展望台～1,655千円 2 神門の滝維持管理委託 170千円	
	事業費(千円)	42,035	6,740	6,870	13,825	7,300	7,300
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	5,000			5,000		
一般財源	37,035	6,740	6,870	8,825	7,300	7,300	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	13,160	6,342	6,818	0	0	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	13,160	6,342	6,818				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	地域振興事業基金繰入金		日の出岬施設維持管理委託 神門の滝維持管理委託	日の出岬施設維持管理委託 神門の滝維持管理委託			
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	施設3	施設3	施設4	施設3	
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率					
	94%	99%	0%	0%	0%		
	全体達成率	15%	31%	31%	31%		
	備考欄						

事業名	観光施設維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	観光客等のキャンプ場利用者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	維持管理施設数及びキャンプ場利用者数								
抱える課題やニーズ	老朽化による修繕箇所の増加	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的な改築・修繕によるサービス機能の向上、定期的な清掃による美観の維持	① 維持管理施設数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	3施設	実績値	3施設	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	3施設										
実績値	3施設										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	観光客(特にリピーター)の増加	② キャンプ場利用者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>10,000人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>12,386人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>123.9%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	10,000人	実績値	12,386人	達成度	123.9%
目標年度	令和元年度										
目標値	10,000人										
実績値	12,386人										
達成度	123.9%										
内容(どのような手段で何を行ったか)	維持管理・清掃業務の委託	日の出岬キャンプ場及び周辺施設並びに神門の滝の維持管理・清掃業務委託									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	夏期においてはキャンプ客等による利用、冬期間においては流水観光客が利用しており、通年通しての維持管理が必要である。また、観光施設の景観を保つため、定期的な整備が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	天候等の外的要因に左右されやすい施設であるが、多くの人が訪れており、当町の観光拠点として役割は果たしている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本施設の維持管理業務に精通している業者へ発注することにより、あらゆる面での維持管理コストを抑制できており、効率的である。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民及び観光客が多く利用する施設の維持管理であることから公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道の駅と並ぶ当町の代表的観光スポットとして多くの観光客が訪れる場所であることから、適切な施設維持のため、計画どおりに事業を進める必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
従来の維持管理業務に加え、施設の老朽化に伴う整備も必要になっていることから、策定した観光マスタープランに則り、計画的に整備する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050170

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	雄武観光の魅力化	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	メモリアル広場等維持管理事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	施設の適正な維持管理				#N/A	
事業目標	3施設		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	メモリアル広場設置条例他	
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理委託～3,450千円 健康の森散策路改修工事～1,000千円	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理委託～3,450千円	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理委託～3,610千円 メモリアル広場周辺環境整備工事～500千円	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理委託～3,610千円	メモリアル広場、健康の森、中山間活性化施設緑地の維持管理委託～3,610千円
	事業費(千円)	19,230	4,450	3,450	4,110	3,610
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	19,230	4,450	3,450	4,110	3,610	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	7,092	3,969	3,123	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	7,092	3,969	3,123			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) ・メモリアル広場維持管理委託 ・健康の森維持管理委託 ・中山間雄武活性化施設維持管理委託 ・健康の森散策路改修工事	(実施内容等) ・メモリアル広場維持管理委託 ・健康の森維持管理委託 ・中山間雄武活性化施設維持管理委託	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	A-継続/現状維持		A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	3施設	3施設	3施設	3施設
	後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	89%	91%	0%	0%
	全体達成率	21%	37%	37%	37%	
	備考欄					

事業名	メモリアル広場等維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民等利用者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	管理施設数		
抱える課題やニーズ	定期的な清掃、危険物の除去等を実施し、良好な環境を維持する。			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	安心して利用でき、心身ともにリフレッシュできる施設となることにより、利用者が増加する。				①	目標年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	町民の憩いの場として親しまれる施設			②	目標値	3施設
			実績値		3施設	
	達成度	100.0%		目標年度	令和元年度	
				目標値		
				実績値		
				達成度		
内容(どのような手段で何をを行ったか)	メモリアル広場、中山間緑地、健康の森の維持管理	草刈り・施設点検・清掃の一体的維持管理について業務委託を実施				

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の憩いの場であり、またイベント時に会場となる場所であることから、定期的な周辺環境整備が必要不可欠である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	利用者数の増加等明確な効果が直ちに発現しないものの、良好な周辺環境整備や維持管理によって、利用者のニーズには応えているものと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	施設管理業務に精通した事業者への一体的事業の発注により、整備機材・人工調整が可能となり、事業費の抑制が図られた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

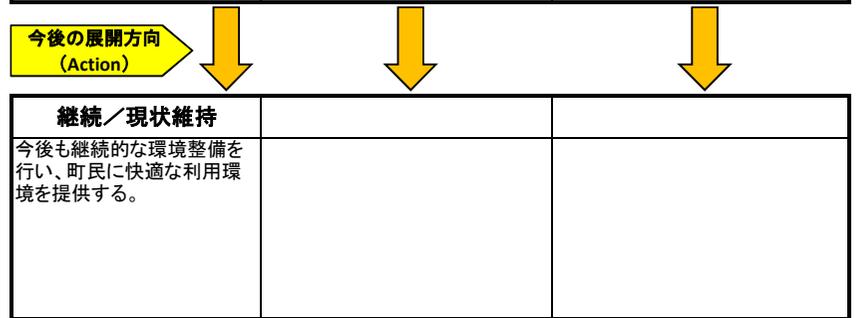
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町を挙げてのイベントの実施会場や町民の憩いの場である施設の維持管理であり、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の憩いの場であり、またイベント時に会場となる場所であることから、定期的な維持管理、環境整備が必要不可欠である。		



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050180

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	雄武観光の魅力化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	サンライズ王国運営助成事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	まちづくり事業の開催及び参加				#N/A	
事業目標	多様な事業(イベント、景観美化)		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働	無		関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	本町のまちづくり事業を行うにあたっての助成	王国に対する助成	王国に対する助成	王国に対する助成 新イベント開催	王国に対する助成 新イベント開催	王国に対する助成 新イベント開催
	事業費(千円)	1,800	300	300	400	400
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,800	300	300	400	400	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	600	300	300	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	600	300	300			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) サンライズ王国に対する助成	(実施内容等) サンライズ王国に対する助成	(実施内容等)	(実施内容等)
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体
	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	17%	33%	33%	33%	33%
	備考欄					

事業名	サンライズ王国運営助成事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	サンライズ王国	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補助団体数	
抱える課題やニーズ	会員の減少に伴う独自事業の縮小		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	会員数増加、主催事業の開催	① 補助団体数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	青年・異業種間交流による町おこし原動力の創出		目標値	1 団体
		実績値	1 団体	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	補助金の支出	②	達成度	100.0 %
	サンライズ王国実行委員会への補助金の交付		目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	会員数及び事業数が減少している中、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力しており、今後、町おこしのための新規事業展開が期待されることから、継続支援は必要と判断される。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	会員数の減少により主催事業は実施していないが、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから、支援は有効であると判断できる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	会員数及び事業数の減少にも関わらず、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから効率的と判断される。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	特定団体への補助であるが、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから、公平性は確保されていると判断できる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
会員数及び事業数の減少にも関わらず、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力しており、町おこしの一翼を担っている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町おこしの一翼を担う団体であることから継続支援は必要であるが、主催事業の開催、観光協会等との連携など、より主体的な取り組みを期待する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050190

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	雄武観光の魅力化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	日の出岬整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和2年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	施設整備の強化				#N/A	
事業目標	日の出岬整備(3業務)		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	日の出岬の整備を行い、観光客の利便性及び、集客増を図る。	○日の出岬展望台トイレ洋式化改修工事【4基(男1・女3)】 ～2,400千円 ※平成29年度補正繰越事業 ○日の出岬キャンプ場炊事場・看板改修工事 ～3,540千円 ※平成29年度補正繰越事業 ○日の出岬海浜公園街路灯LED化工事 ～1,620千円 ※平成29年度補正繰越事業	○日の出岬キャンプ場散策路整備工事(イルミネーション設置他) ～1,600千円 ○日の出岬キャンプ場駐車場舗装改修工事 ～400千円	○日の出岬展望台周辺木柵撤去工事 ～3,500千円		
	事業費(千円)	5,500	0	2,000	3,500	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	5,500	0	2,000	3,500		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,264	5,940	324	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	6,264	5,940	324			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 日の出岬展望台トイレ外1件改修工事 日の出岬キャンプ場街路灯LED化改修工事	(実施内容等) 日の出岬キャンプ場駐車場舗装改修工事	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 B－継続／現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	3業務	2業務	1業務	
	後期計画への継続(継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	16%	0%	#DIV/0!
		全体達成率	108%	114%	114%	114%
	備考欄					

事業名	日の出岬整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	観光客、町民等の利用者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	整備業務数	
抱える課題やニーズ	雄武町の観光拠点としての環境整備			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的な観光地(キャンプ場)としての整備を進め、観光客等利用者の増員を図る。		① 整備業務数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	利用者の利便性ととも、施設等の計画的な整備により、管理等の効率化を図る。			目標値	2業務
			実績値	1業務	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	日の出岬キャンプ場散策路整備工事	日の出岬整備構想を基に整備の全体像を見直すこととなったため事業の実施を見送った。			
	日の出岬キャンプ場駐車場舗装改修工事	舗装の傷みが激しい箇所の改修を行い、利用者の利便性向上を図った。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	雄武町における観光拠点であることから、計画的な施設及び周辺環境整備が必要不可欠である。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	利用者の利便性向上を図るための周辺環境整備であることから有効である。
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	当面の利用に際しての環境整備を優先したものであり、今後は、策定した観光マスタープランに則り、効率的に事業を推進することが必要である。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民及び観光客が多く利用する施設の整備であることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
当町の代表的観光スポットとして多くの観光客が訪れる場所であり、計画通り整備が図られた。	同左	



- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050200

政策目標	1	【躍動感あふれる産業のまち・雄武】～地域産業の振興と雇用の創出～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	5	観光の振興	事 業 優 先 度		A	
単位施策	3	おもてなし力の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	オホーツクサイクリング事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和元年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	実行委員会		関 係 課		#N/A	
事業指標	オホーツクサイクリングの開催				#N/A	
事業目標	年1回		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	実行委員会に対する事業負担 前夜祭実行委員会に対する負担 受入れ・歓迎事業の開催	1 実行委員会に対する負担 450千円 2 前夜祭実行委員会に対する 負担730千円 3 受入れ・歓迎事業の開催 1, 320千円	1 実行委員会に対する負担 450千円 2 前夜祭実行委員会に対する 負担730千円 3 受入れ・歓迎事業の開催 1, 320千円			
	事業費(千円)	5,000	2,500	2,500	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
事業費(千円)	5,000	2,500	2,500			
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	954		954		
事業費(千円)	5,545	2,619	2,926	0	0	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		・実行委員会負担金 ・前夜祭実行委員会負担金 ・受入れ・歓迎事業の開催 ・参加者数合計 503名 212km 323名 日帰りコースほか 180名	・実行委員会負担金 ・前夜祭実行委員会負担金 ・受入れ・歓迎事業の開催 ・参加者数合計 745名 212km 530名 日帰りコースほか 215名		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	年1回	年1回		
		年度達成率	105%	117%	#DIV/0!	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	52%	111%	111%	111%
		備考欄				

事業名	オホーツクサイクリング事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	サイクリスト	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	実施回数及び参加者数	
抱える課題やニーズ	新鮮味が薄れていることから、参加費の軽減を含め、老若男女を問わず参加しやすい体制の検討が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	オホーツクライン、とりわけ出発地点である当町の観光PRの効果は大きいと考え、本事業の実施を図る。	① 実施回数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	参加者の維持、雄武町のPR		目標値	1回
			実績値	1回
		② 参加者数	達成度	100.0%
			目標年度	令和元年度
			目標値	1,000人
			実績値	745人
			達成度	74.5%
内容(どのような手段で何をを行ったか)	実行委員会への負担金支出	オホーツクサイクリング実行委員会への負担金支出		
	前夜祭実行委員会への補助	オホーツクサイクリング前夜祭実行委員会への補助金交付		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の間でも参加者へのもてなしの意識が定着しており、観光PRの効果も大きいことから、町の一大イベントとして確立している。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本事業の実施による広告媒体や、道内外からの参加者を通じた雄武町のPR効果は大きく、費用対効果の面からも概ね有効と判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	近年参加者は減少傾向にあったため、惜しまれつつも本年度で大会は終了となるが、38年間に及ぶ大規模なスポーツイベントを通じ、オホーツク地域の価値向上につながった事業であり、効率的と判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町を挙げての一大イベントとして定着しており、多くの集客がある事業であるため、町民の理解を得られているものと判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ラストランとなった本大会では、過去大会の参加者がエントリーするなど前年を上回る多くの参加があり、雄武町の観光PRやオホーツク地域の価値向上に寄与してきた大会の最後を華々しく飾ることができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
終了			
町を挙げての一大イベントとして定着していたが、参加者の減少などにより第38回大会(令和元年度)をもって終了した。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 09050210

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	18	防犯・交通安全の推進	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	防犯体制の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	消費者協会運営補助事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	4	住民生活課	
事業指標	消費者問題			6	地域包括支援センター	
事業目標	消費トラブル相談件数5件		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	消費者協会への運営費補助	消費者協会への運営費補助 ・消費苦情相談 ・消費トラブル防止啓発 ・消費価格調査 ・その他	消費者協会への運営費補助 ・消費苦情相談 ・消費トラブル防止啓発 ・消費価格調査 ・その他	消費者協会への運営費補助 ・消費苦情相談 ・消費トラブル防止啓発 ・消費価格調査 ・その他	消費者協会への運営費補助 ・消費苦情相談 ・消費トラブル防止啓発 ・消費価格調査 ・その他	消費者協会への運営費補助 ・消費苦情相談 ・消費トラブル防止啓発 ・消費価格調査 ・その他	
	事業費(千円)	1,000	200	200	200	200	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	1,000	200	200	200	200		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	400	200	200	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	400	200	200				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 消費者協会への運営費補助 消費トラブル相談件数 1件	(実施内容等) 消費者協会への運営費補助 消費トラブル相談件数 1件	(実施内容等)	(実施内容等)	
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	相談件数5件	相談件数5件	相談件数5件	相談件数5件	相談件数5件	
	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%	40%	
	備考欄						

事業名	消費者協会運営補助事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	商工観光係長	柳谷 周一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町消費者協会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消費相談件数								
抱える課題やニーズ	協会事業の運営(会費徴収)は健全だが、協会員の高齢化、消費相談体制(専門者育成)の不足が課題となっている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	会員の活動強化、消費相談専門体制の確立により、通年恒久的な消費対策事業の実施・啓発	①	消費相談件数								
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	町民(消費者)の日常消費生活上の安全性が確保される。		<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>20.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	5件	実績値	1件	達成度	20.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	5件										
実績値	1件										
達成度	20.0%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	運営補助金の支出	毎月20日に行われる定例消費相談、協会員向け情報提供、消費生活展の開催等、協会の活動に対する補助									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	組織の運営は健全だが、消費相談に対応する専門員の育成が急務であり、町が事務局を担う状況の解消、民間レベルでの運営体制の確立が必要と考える。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	現実には消費相談対応は事務局が行っており、その点においては課題が残る。啓発事業等の活動については概ね達成しているものと判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	運営補助金については、現状の運営状況から必要最低限の補助であり、充分削減しているものと判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

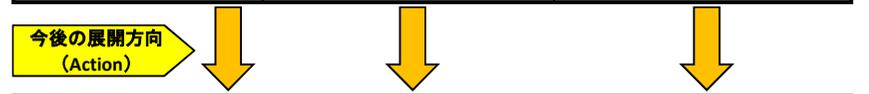
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	任意団体ではあるが、町民広くを対象とした相談業務・啓発活動等を行っており、公平性は確保されていると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
消費相談件数は目標を下回っているが、相談があった事案については、確実に対応しており、また、会員の高齢化、消費相談専門員の育成等の課題等が解消されるまでは、現状どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
会員の高齢化、消費相談専門員の育成等の課題等が解消されることにより、消費者のニーズに応えるサービスが行え、消費者が安全に生活できる体制が構築できる。健全な協会の運営のため、継続実施する必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 休止 廃止